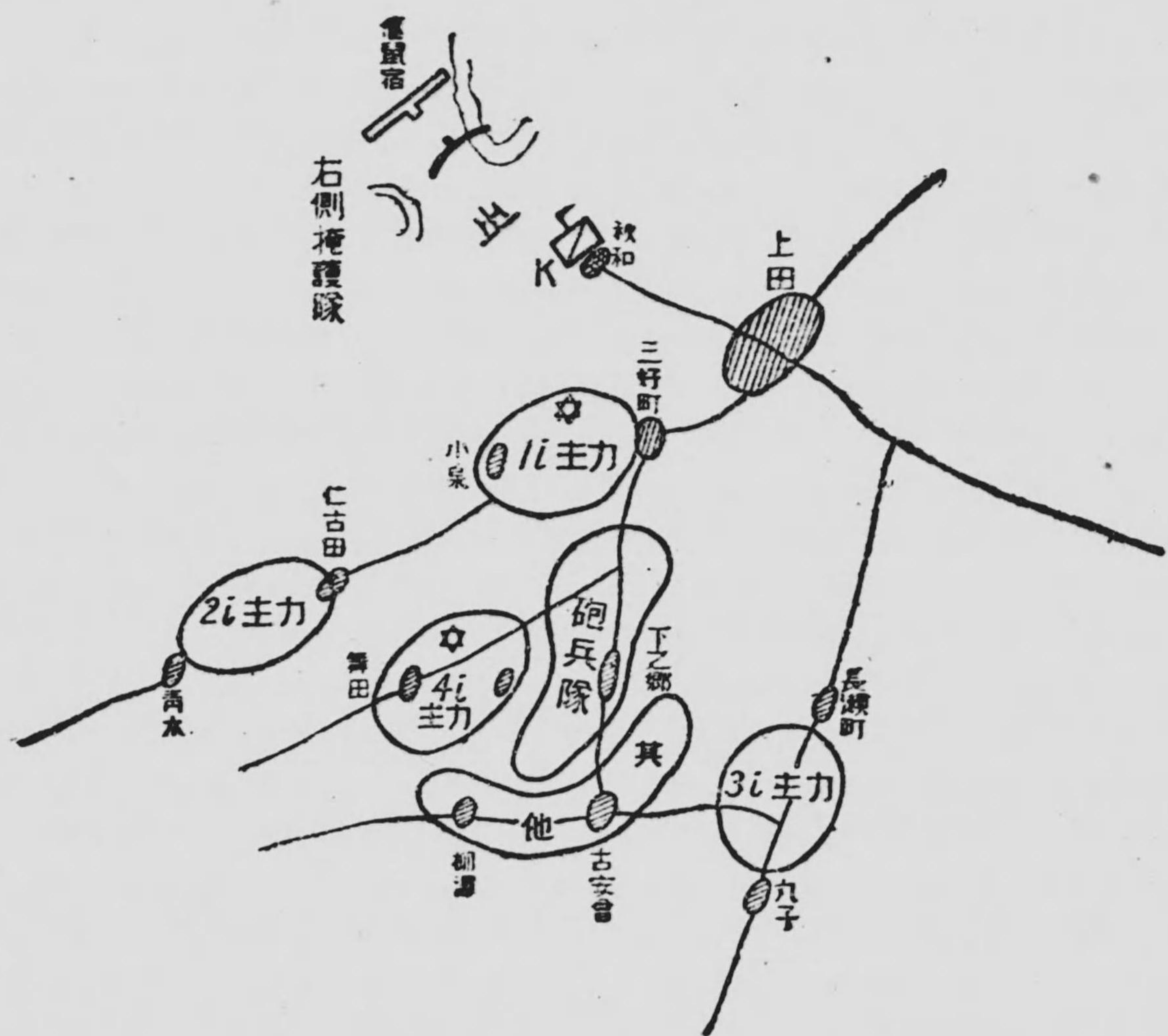


圖要結集力主團師ルケ於ニ夕日六十二月四



ヲ企圖ス

三、斯クテ十七時乃至十八時ノ間サシモ健闘シタル敵ノ決死的數次ノ攻勢モ其ノ効ナク哀レ斷末魔ノ悲曲ヲ奏シテ殲滅セラレ燥然タリシ戰場モ再ビ元ノ靜寂ニ歸ス願ミレバ淺間ノ噴煙高ク夕陽ニ映エテ赤ク輝キ忠勇ナル戰士ノ英靈ヲ弔フニ似タリ

第六問題

師團長處置アリヤ(即答)

第六問題原案

方針

師團ハ極力當面ノ敵ヲ殲滅スルニ努ムルト共ニ逐次兵力ヲ集結シテ爾後ノ作戰ヲ準備ス

處置ノ大要

- 一、一部ヲ以テ極力殘敵ヲ掃蕩ス
- 二、右縱隊ノ野砲ヲ以テ直チニ右側掩護隊ヲ支援セシム
- 三、主力ヲ逐次要圖ノ如ク集結ス

狀況第六

- 一、十九時頃師團長ハ飛行機其ノ他ニヨリ新ニ左ノ如キ狀況ヲ知ル
- 1、鼠宿方面ノ狀況ハ一時悲報ヲ傳ヘシモ爾後敵ノ攻撃ハ活潑ナラズ
- 2、日沒時寂蒔高地及羽尾高地竝ニ稻荷山東側地區ニ敵ノ工事ヲ發見スル外稻荷山西側地區ニ敵砲兵部隊ノ進入セルヲ見ル
- 3、別ニ篠ノ井附近ニハ敵部隊存在スルノミナラズ長野市附近及小布施、須坂附近ニ敵ノ密集部隊アリテ蠢動シアルモ其ノ行動不明ナリ
- 4、今夕一部隊高田南方新井町ヲ通過南進セルヲ見ルモ兵力、兵種不明ナリ
- 5、飯田方面ノ敵ハ今二十六日夕赤穂ニ進入シタルモノノ如ク其ノ兵種、兵力依然不明ナリ
- 6、大井方面ノ赤軍ハ其ノ行動比較的緩慢ナルモノノ如ク本二十六日夕野尻ニ達シタルモノノ如シ

(132)

第七問題

四月二十六日十九時ニ於ケル獨立第一師團長ノ決心(要圖答解)

第七問題原案

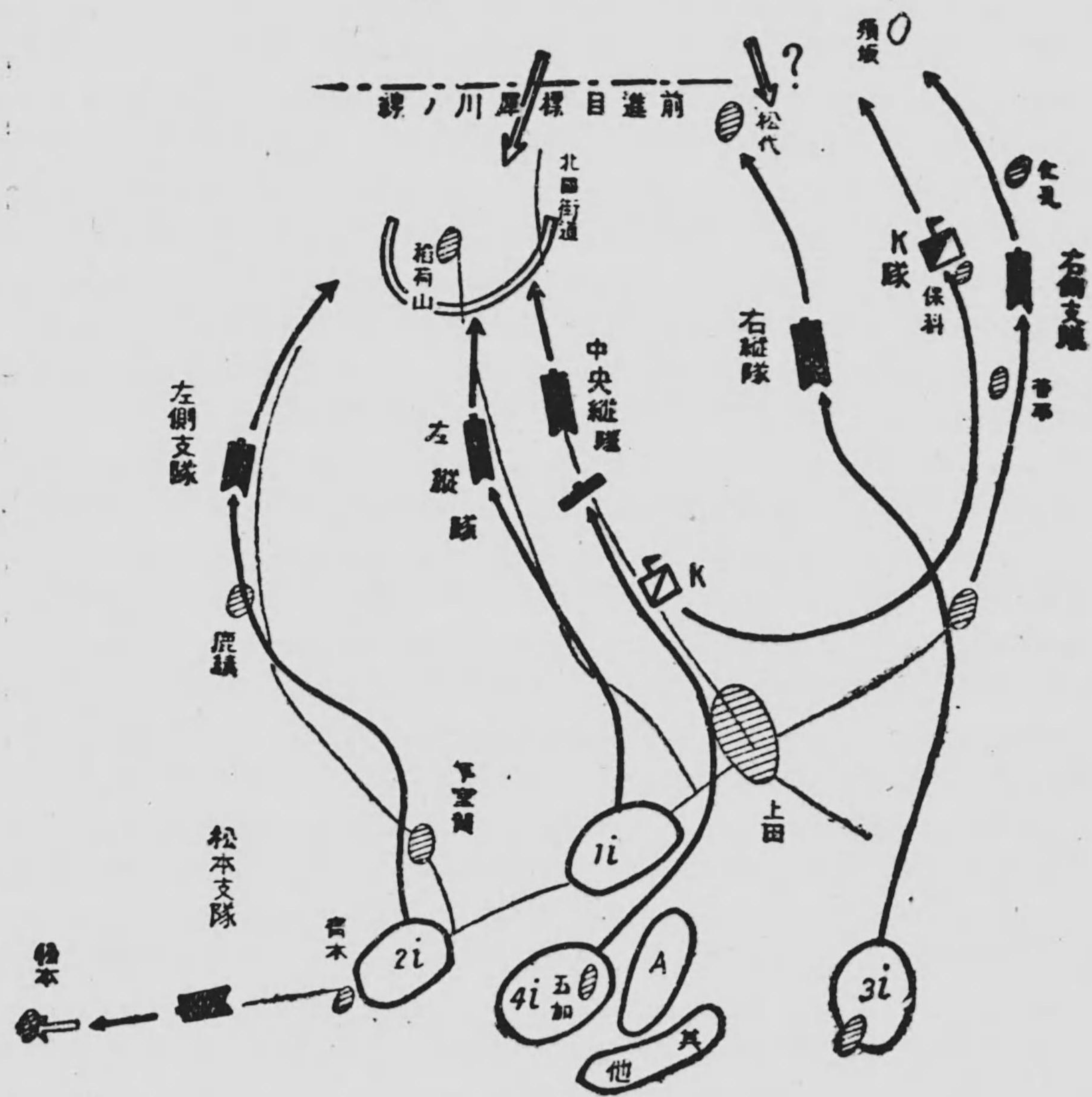
決心

師團ハ一部ヲ以テ敗走スル敵ヲ急追セシムルト共ニ主力ヲ以テ隨所ニ敵ヲ擊破シツツ速カニ長野平地ニ轉進シ新ナル敵ヲ求メテ攻撃セントス

處置ノ大要

- 一、松本支隊(歩兵第二聯隊第二大隊、獨立山砲兵第三中隊、無線一機)ハ即時出發シ敗敵ヲ急追シ成ルベク速カニ松本平地ニ進出シテ敵後續兵團ノ進出ヲ妨害セシム
- 二、騎兵隊(騎兵聯隊主力、輕裝甲中隊)ハ速カニ菅平ヲ經テ長野平地ニ轉進シ敵情搜索
- 三、右側支隊(歩兵第三聯隊第三大隊(第十一、第十二中隊欠)、無線一機) 速カニ仁禮ヲ經テ須坂町方向ニ進出シ師團主力ノ長野平地進出ヲ容易ナラシム
- 四、右縱隊(歩兵第三聯隊(第三大隊(第十一、第十二中隊欠)欠) 騎兵一分隊、獨立山砲兵第一大隊(第三中隊欠)、工兵一小隊、患者收容隊ノ一部、無線一機) 二十時長瀬出發菅平西方山系ヲ經テ松代方向ヨリ川田村北側地區ニ進出

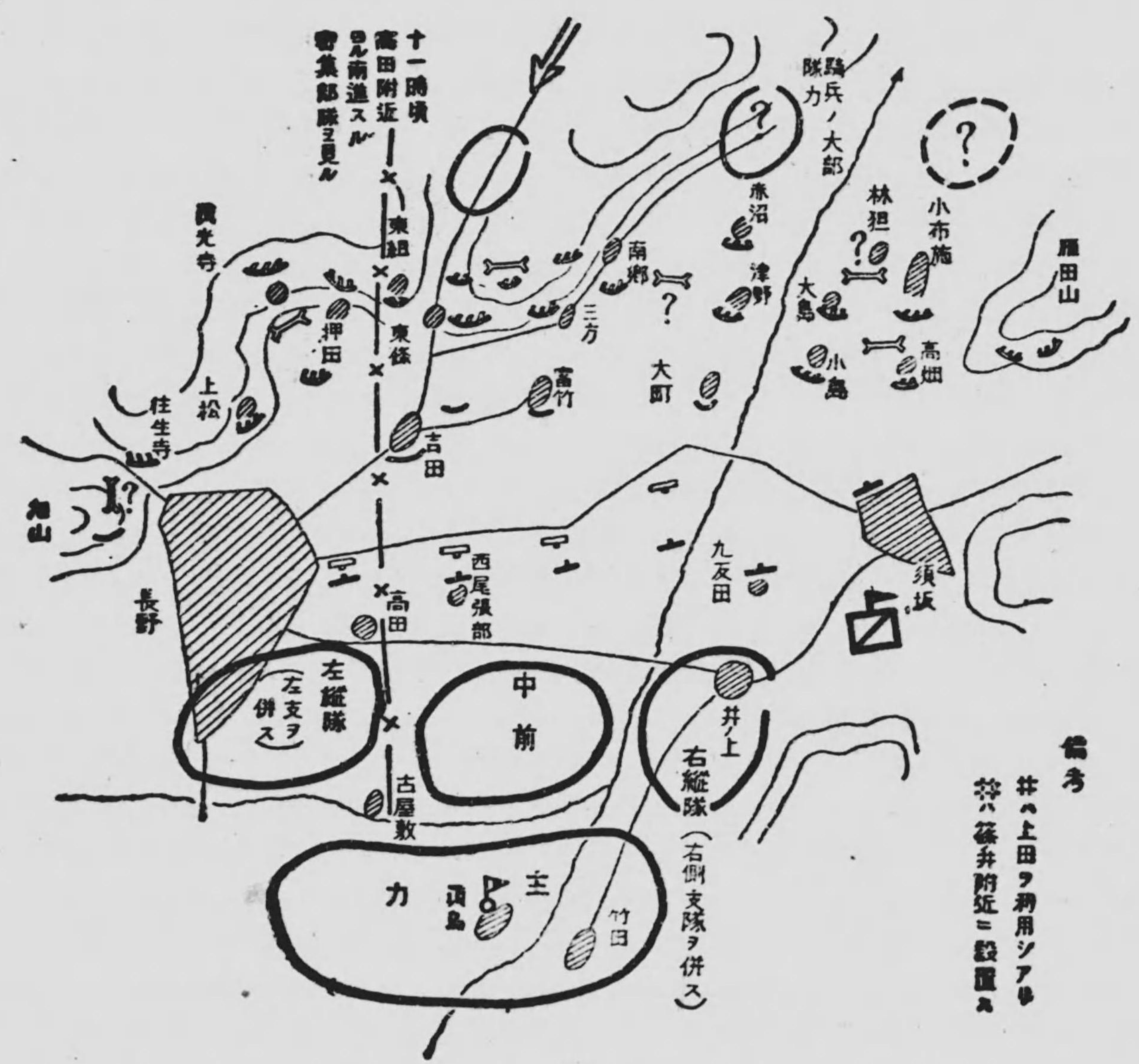
(133)



- 五、中央縦隊前衛〔歩兵第二旅團(歩兵第三聯隊、歩兵第四聯隊第三大隊欠)、戰車中隊、騎兵一分隊、野砲兵第二大隊、工兵聯隊(三小隊欠)、患者收容隊ノ一部〕二十一時五加出發北國街道ヲ青木島東側地區ニ進出
- 六、左縦隊〔歩兵第一旅團(第二聯隊欠)、騎兵一分隊、野砲兵第一大隊、工兵一小隊〕二十二時出發千曲川左岸ニ沿ヒ稻荷山ヲ經テ丹波島南側地區ヘ
- 七、中央縦隊本隊〔師團通信隊、無電小隊、師團司令部、歩兵第四聯隊第三大隊、工兵一小隊、野砲兵第一聯隊(第一、第二大隊欠)、歩兵第二聯隊第一大隊(第三、第四中隊欠)、野戰重砲兵第一大隊、歩兵第二聯隊第三中隊、砲兵聯隊段列、歩兵第二聯隊第四中隊、患者收容隊ノ主力〕中央縦隊前衛ノ後方千二百米ヲ續行
- 八、左側支隊〔歩兵第二聯隊(第一、第二大隊欠)、騎兵一分隊、無線一機〕速カニ麻績ヲ經テ稻荷山附近ニ進出シ師團主力該地以北ヘノ進出ヲ容易ナラシム
- 九、諸隊ノ前進目標ハ犀川ノ線トス
- 十、細部ハ要圖ノ如シ

狀況 第七

- 一、松本支隊ハ極力敗敵ニ追尾シテ弘法方向ニ進撃シツツアリ
 - 二、右縦隊及右側支隊ハ概ネ二十時頃長瀬附近ヲ出發シテ夫々吾妻山系ヲ踏破シテ長野平地進出ニ努ム
 - 三、爾餘ノ諸隊モ亦概ネ豫定ノ如ク行動ヲ起シ前進ヲ開始ス
左縦隊及中央縦隊方面ニ在リテハ先ヅ鼠宿ノ敵ヲ驅逐シ次デ坂城附近ノ敵ヲ攻撃シテ前進シニ十七日三時戸倉北方地區ニ達ス此ノ時俄然寂蒔、羽尾附近ヨリ敵ノ射撃ヲ被リ曉暗ヲ破ツテ騷然タルモノアリ
 - 中央縦隊前衛司令官ハ寂蒔附近ニ敵陣地アルヲ知リ本隊ノ半大隊ヲ宮坂峠ヲ經テ殿入ニ潛入セシメ屋代北側地區ヨリ敵ノ背後ヲ攻撃セシム
 - 四、斯クテ中央縦隊前衛司令官ノ適切ナル處置ト左側支隊ノ果敢ナル行動トニ依リ五時當面ノ敵ニ對シ殲滅的打撃ヲ與ヘ諸隊ハ更ニ篠ノ井附近ノ敵ヲ驅逐ス
- 次イデ師團ハ隨所ニ敵ヲ擊破シ得ベキ態勢ヲ占メツツ地區ヨリ地區ニ前進ヲ續行シ概ネ正午前



備考
井上田ヲ用シテ
篠ノ井附近ニ設置ス

後遂ニ犀川河畔ノ敵前進部隊ヲ擊破シテ犀川ヲ敵ニ尾シテ渡河シ十四時乃至十五時ノ間諸隊ハ其ノ第一線ヲ以テ概ネ井上村(須坂西南三軒)―南高田―長野道ノ線ニ進出ス
 五、二十七日十五時師團長ハ眞島村(川田村西側二軒)小學校ニ在リ
 諸情報ヲ綜合シテ要圖ノ如キ狀況ヲ知ル

第八問題

獨立第一師團長野附近敵陣地攻撃部署要圖

第八問題原案

方針

師團ハ本夜暗ヲ利用シテ富竹、吉田ノ線ニ展開シ重點ヲ中央ニ保持シ明拂曉ヲ期シ一舉敵陣地ヲ突破シテ豊野、三登山ノ線ニ進出ス

要領

一、本薄暮ヲ利用シテ敵警戒部隊ヲ驅逐シ明二十八日三時迄ニ富竹、吉田ノ線ニ展開シ攻撃準備

ヲ完了ス

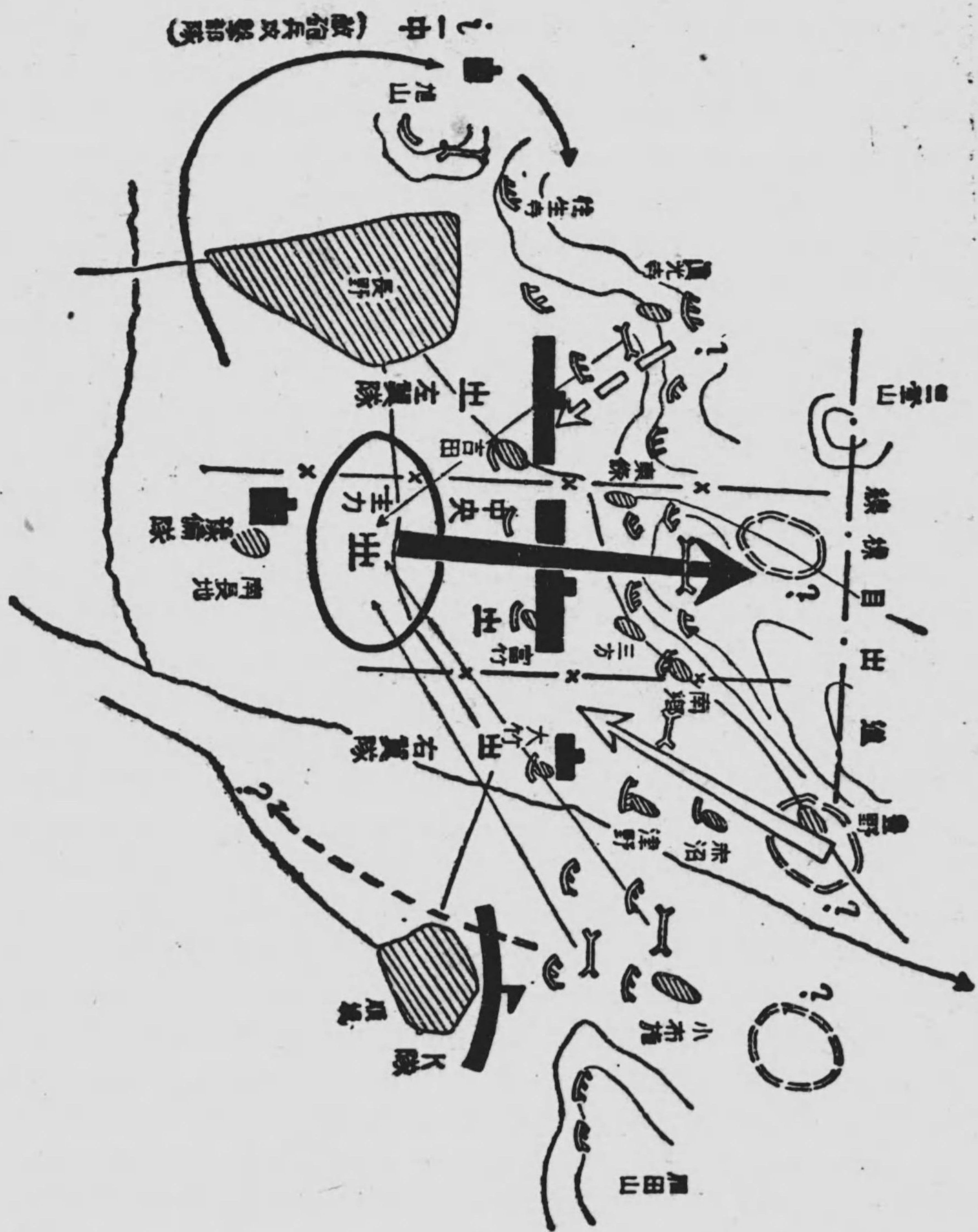
二、第一隊諸隊ハ黎明ト共ニ攻撃前進ヲ開始ス
 三、砲兵隊ハ天明ト共ニ効力射準備射撃ヲ南郷及東組陣地ニ對シ開始シ速カニ之ヲ完了ス

部署ノ大要 (要圖參照)

一、騎兵隊(騎兵聯隊主力)ハ須坂附近ヲ確保シ師團ノ右側ヲ掩護ス
 二、飛行隊ハ主力ヲ以テ砲兵任務、一部ヲ以テ指揮連絡
 三、右翼隊
 P
 O
 II(-11.12)/1i
 9 A
 GW 主力
 大町北端東西ノ線ニ展開シ津野、赤沼附近ノ敵陣地ヲ攻撃特ニ赤沼方面ヨリスル敵ノ攻勢ニ際シ師團主力ノ右翼ヲ掩護

四、中央隊
 ☆
 2iB-II/4i
 LPW(- $\frac{1}{3}$)
 TK
 $\frac{1}{16}$ K
 IA
 I(-3)BAs
 $\frac{1}{4}$ P
 富竹東西ノ線ニ展開シ三才西側高地ヲ突破

五、左翼隊
 ☆
 1iB
 (-II(-11.12)/1i)
 $\frac{1}{2}$ i
 $\frac{1}{4}$ LPW
 $\frac{1}{16}$ K
 IA
 $\frac{1}{4}$ P
 吉田北端東西ノ線ニ展開シ東條西側高地ヲ攻撃シ眞



光寺方面ヨリスル敵ノ攻勢ニ際シ師團主力ノ左翼ヲ掩護
 歩兵一中隊ヲ旭山高地方向ニ潜入セシメ敵側防砲兵ヲ壊滅セシム

六、砲兵隊
 H
 O
 1A(-I.I.9)
 I SA
 主力ヲ以テ中央隊、一部ヲ以テ兩翼隊ニ協力特ニ敵ノ攻勢阻止ヲ準備ス

七、豫備隊
 2i(-I)
 II/4i
 南長池ニ位置ス

八、其ノ他略ス

狀況 第八

- 一、諸隊ハ師團命令ニ基キ極力企圖ヲ秘匿シツツ諸準備ヲ進メ日没ト共ニ行動ヲ開始シ敵警戒部隊ヲ驅逐シツツ新配備ニ就キ二十八日三時稍、前所命ノ線ニ展開ヲ完了ス
 - 二、四時天未ダ明ケズ曉暗長野平地ヲ掩ウテ去ラザルニ我が第一線ハ師團命令ニ基キ勇躍攻撃前進ヲ開始シ五時稍、前砲兵隊ハ敵陣地ニ對シ射撃ヲ開始ス
- 斯クテ戰場ハ俄然喧噪ヲ極メ我が第一線歩兵亦一進一止シテ波濤ノ如ク澎湃トシテ肉迫ス

三、五時三十分頃我が第一線ハ決然敵陣地ニ突入シ紛戦ヲ惹起スルヤ突如津野西側地區ヨリ砂塵ヲ擧ゲテ大部隊密集シテ攻勢ニ轉ズルアリ是ニ於テ主力砲兵ハ其ノ全火力ヲ以テ下駒澤ノ東北側地區ニ集中シテ辛ウジテ之ヲ阻止ス右翼隊亦近ク津野附近ノ陣地ニ近接シアリ然レドモ布施方向竝ニ赤沼西南側附近ノ敵砲兵ノ十字火ヲ被リ損害續出シテ爾後ノ進捗極メテ困難ニ陥リツツアリ

左翼隊亦檀田附近ノ敵頑強ニシテ湯谷方向ヨリ逆襲ヲ受ケタルモ克ク健闘シテ之ヲ擊退シ東組附近ノ敵陣ノ一角ニ突入ス

先ニ左翼隊ヨリ派遣シタル一部ノ迂回隊ハ旭山北側附近敵側防砲兵ノ破壊ニ成功シ更ニ眞光寺北方敵陣地ノ右側背ニ潜入シツツアリ

四、斯クテ左右兩翼隊方面大イニ力戰奮闘スルモ容易ニ功ヲ奏セズ戰況必ズシモ樂觀ヲ許サザルモノアリ

然レドモ中央隊方面ニ在リテハ三角標高四一二・五高地及東條高地ノ一角漸ク我が掌中ニ入り北方ニ向ヒ戰果ヲ擴張中ナリ

五、十時頃須坂方面ニ當リ活潑ナル銃砲聲次第ニ南方ニ移動スルヲ聞ク敵ノ攻勢ニヨリ我が騎兵

隊既ニ擊破セラレタルニアラザルヤ疑ハシメ師團司令部内一部ニ憂色ノ漂フアリ師團長默シテ毅然タルモノアリ作戰主作參謀腕ヲ撫シテ微笑ス

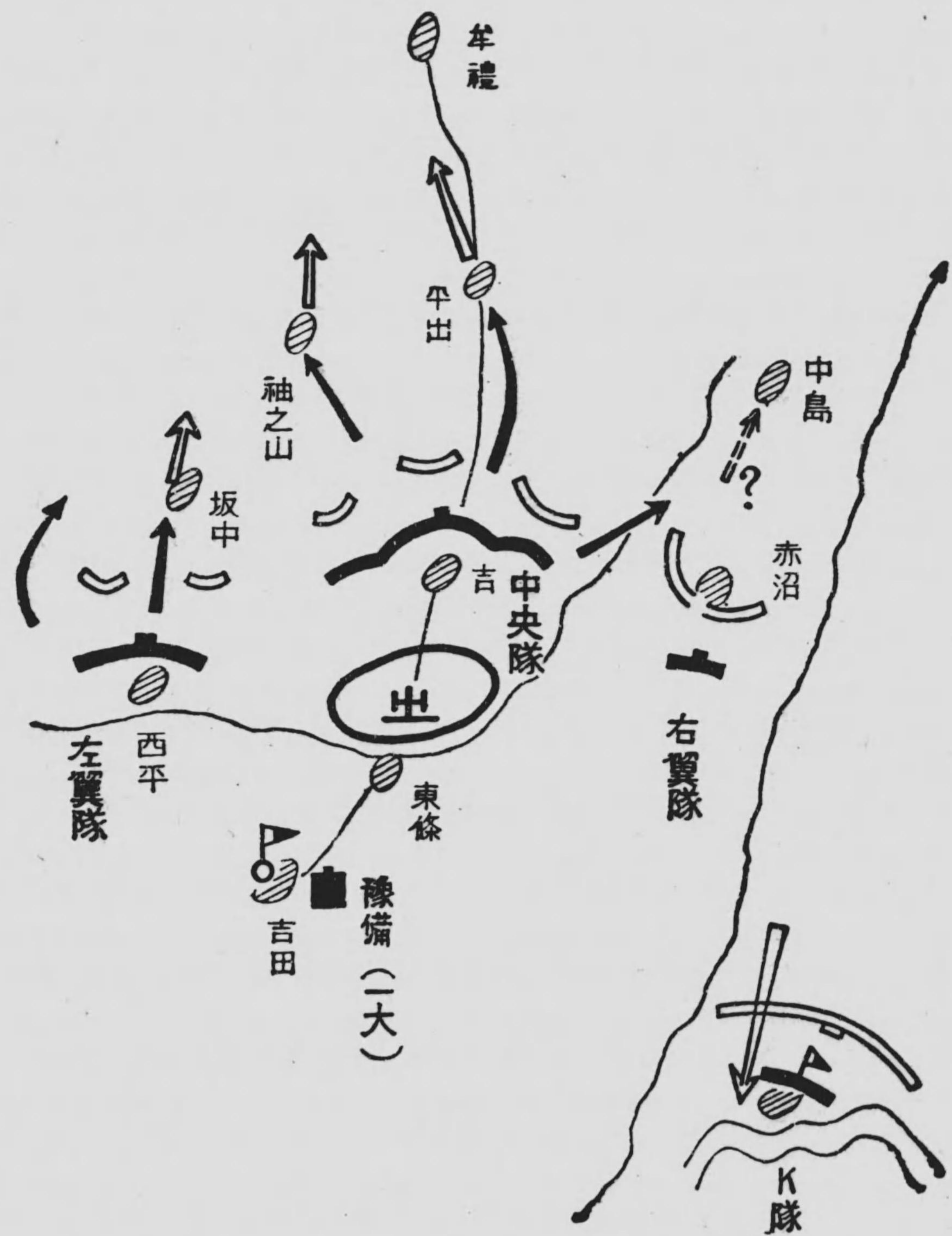
六、爾後我が第一線ハ各方面何レモ敵陣地ニ突入シ彼我入亂レテ紛戦シ混沌トシテ勝敗ノ決急ニ逆睹シ得ザルモノアリ斯クシテ十三時乃至十四時ノ間中央隊方面三角標高四一二・五高地及東條高地ヲ完全ニ奪取シ次イデ北國街道田子方面ニ攻撃前進ヲ開始セントスルヤ吉方向ヨリスル敵大部隊ノ逆襲ニ會シ著シク苦戦ニ陥ル師團長ハ豫備隊ヨリ二大隊ヲ更ニ中央隊ニ與ヘ神速ナル突破ヲ督促ス砲兵亦近ク第一線歩兵ニ跟隨シ其ノ一部ハ既ニ東條高地上ニ進出シテ活動中ナリ

七、十五時頃サシモ頑強ナリシ敵ノ攻撃モ漸ク衰ヘ我が中央隊ハ既ニ吉ヲ奪取シ主力ヲ以テ牟禮方向ニ獨斷追撃ニ移リ各一部ヲ以テ豊野及地藏久保方面ニ進出シ左右兩翼隊正面ノ敵捕捉ニ努ム

八、十五時三十分師團長ハ吉田農學校ニ在リ諸情報ヲ綜合シテ左ノ如キ狀況ヲ知ル

1. 騎兵隊正面 敵ノ大攻勢ヲ受ケ遂ニ須坂ヲ奪取セラレ目下辛ウジテ井上附近ヲ保持シア

ルモ極メテ苦戦中ナリ



2. 右翼隊正面 苦戦ノ後赤沼南側ニ進出シ當面ノ敵ヲ攻撃中ナリ
 3. 中央隊正面 吉附近一帯ヲ奪取シ續イテ平出方向ヨリ牟禮ニ向ヒ敗敵ヲ急追中ナリ
 4. 左翼隊正面 西平ヲ奪取シ續イテ坂中方向ヨリ敵ヲ急追シ所々集團セル殘敵ヲ捕獲シツ
ツ溢出追撃中ナリ
 5. 豫備隊(歩兵一大隊) 吉田附近ニ集結シアリ
 6. 牟禮附近ニハ未ダ敵ノ大ナル集結部隊ヲ認メズ
高田附近ノ敵情大ナル變化ナク若干部隊存スルガ如キモ海上ノ輸送船團ハ概ネ軍需品ノ揚
陸中ナルモノノ如シ
 7. 高田以南北國街道上ニ處々小部隊ヲ散見スルモ大ナル部隊ヲ認メズ
 7. 松本支隊方面 支隊ハ敗敵ヲ急追シツツ松本平地ニ進出ヲ努メ二十八日晝頃漸ク松本北
側地區ニ達ス此ノ時松本附近ニ在リシ敵ノ反撃ニ會ヒ之ニ堪ヘ目下鳥居山三角標高七四
三・〇高地附近ヲ確保シアリ
- 松本附近ノ敵ハ我ガ松本支隊ノ進出ニ依リ大イニ狼狽シタルモノノ如ク頻リニ反撃ヲ企圖
セルモ未ダ統一セル戦闘ヲ爲サズ

天龍川河谷ノ敵縱隊ハ本日十五時其ノ先頭ヲ以テ辰野附近ニ達ス
 中山道方面ノ敵ハ同時頃其ノ先頭ヲ以テ藪原ニ達セルモノノ如シ
 8. 我ガ後方連絡ハ輕井澤、上田、屋代ヲ經由シテ概ネ順調ニ整備セラレアリ時々敗殘兵ノ
 蠢動アリト雖モ大ナル妨害ヲナサズ
 兵站自動車約三中隊十五時長野東側地區ニ待期中ナリ

第九問題

二十八日十五時三十分ニ於ケル師團長ノ狀況判斷

第九問題原案

判決

師團ハ一部ヲ以テ當面ノ敵ヲ追撃セシムルト共ニ速カニ兵力ヲ集結シテ松本平地ニ轉進シ新來ノ
 敵ヲ索メテ攻撃スルヲ要ス

理由ノ骨子

當面ノ敵ハ既ニ擊破セラレタリ故ニ師團ハ之ニ對シ追撃ノ手ヲ弛ムルコトナク急追シテ戰果ヲ更
 ニ全收スルヲ要ス

然レドモ高田附近ノ敵情竝ニ牟禮附近ノ狀況ハ敵ニ近ク更ニ大ナル積極的企圖存スルモノトハ思
 ハレズ故ニ師團ハ本然ノ任務ニ立脚シ南信確保ノ爲更ニ新ナル作戰ヲ開始セザルベカラズ
 中山道及天龍川河谷ノ敵情ニ鑑ミルトキ特ニ師團ノ可及的神速ナル松本平地轉進ハ刻下ノ急務ナ
 リ

處置ノ大要

一、轉進準備

- 1、長野支隊(口○Ⅲ) $\frac{1}{16}$ K A $\frac{1}{4}$ P)ヲ編成シ當面ノ敵ヲ追撃シテ信越國境線ヲ確保セシム
- 2、甲支隊(1iB) $\frac{1}{16}$ K A $\frac{1}{4}$ P)ヲ編成シ即時出發上田ヨリ松本街道ヲ經テ松本
 ☆2i(-II) LPW TK $\frac{1}{16}$ K A $\frac{1}{4}$ P)ヲ編成シ
 GW主力 自三中 兵
 附近ニ進出シ松本支隊ヲ併セ指揮シ同地附近ヲ確保シテ師團爾後ノ作戰ヲ容易ナラシム
- 3、諸隊ハ左ノ如ク集結ス

2iB 吉、三方、金箱、徳間、三千寺ノ間

III/li 西平、擅田附近
IK主力 井上附近

砲兵諸隊 富竹、南堀、太田、吉田ノ地區

其ノ他ノ諸隊 北尾、張部、大豆、島村、高田、平林ノ地區

4、航空 防空其ノ他略ス

二、轉進部署

1、左縱隊(III) 十九時金箱南端出發長野市南端ヲ經テ西街道ヨリ會田—明科—
4i(-III) 1/16 K (I-3) BAs 1/4 P

穗高道ヲ松本へ

2、右縱隊前衛(☆) 十九時德間出發長野—安茂里—小市—高府—大町—
2iB (-III/3i.4i) 1/16 K IA 1P (-4/4) S-中

穗高道ヲ松本市西側地區へ

3、右縱隊本隊(DTL) 二十一時迄ニ長野東側地區平林—須
DLt III/3i III/4i 1/4 P IA (-I-II-III) S(二中) III/li 2st

坂道上ニ集合、爾後前衛ノ後方千五百米ニアリテ前進

4、其ノ他略ス

狀況 第九

一、甲支隊ハ轉進ニ關スル師團命令ヲ受領スルヤ直チニ兵力ヲ吉田東側附近ニ集結シ概ネ之ヲ二
梯團ニ區分シ第一梯團ヲ先ヅ自動車ニ分乗セシメテ十七時三十分出發輕裝甲及戰車隊其ノ他ヲ
利用シテ途中ノ警戒ニ任ゼシメツツ松本街道ヲ經テ松本へ急進シ第二梯團ハ徒步行軍ヲ以テ之
ニ追及ス

二、斯クテ支隊ハ途中敵ノ妨害ヲ受クルコトナク二十九日二時頃其ノ第一梯團ヲ以テ會田附近ニ
達ス支隊長ハ直チニ下車セシメ爾後徒步行軍ニヨリ松本へ前進セシメ自動車ハ折返シテ第二梯
團ノ追及ニ協力セシム

三、二十九日八時甲支隊ハ其ノ歩兵先頭ヲ以テ矢作(松本北方四軒)ニ達ス
此ノ時迄ニ甲支隊長ノ知り得タル狀況左ノ如シ

1、鳥居山ノ松本支隊ハ殆ド四周ヲ敵ニ包圍セラレアリト雖モ尙ヨク健闘シアリ爾後當面ノ
敵ニ對シ南方ニ向ツテ極力突破ヲ企圖スル旨無線連絡アリ

- 2、松本附近ノ敵ハ何レモ白軍ニシテ市街ノ縁端ヲ堅固ニ占領シアルモノノ如シ
- 3、天龍川河谷ノ敵及中山道ノ敵ハ夫々辰野藪原ヲ出發北進ヲ開始セリ
- 4、赤軍機械化部隊盛ニ甲支隊ノ前面ニ活動シ隘路進出ヲ妨害シ
- 5、此ノ日天候稍、不良ニシテ細雨アリ

第十問題

甲支隊任務達成ノ爲地形判斷(要圖答解)

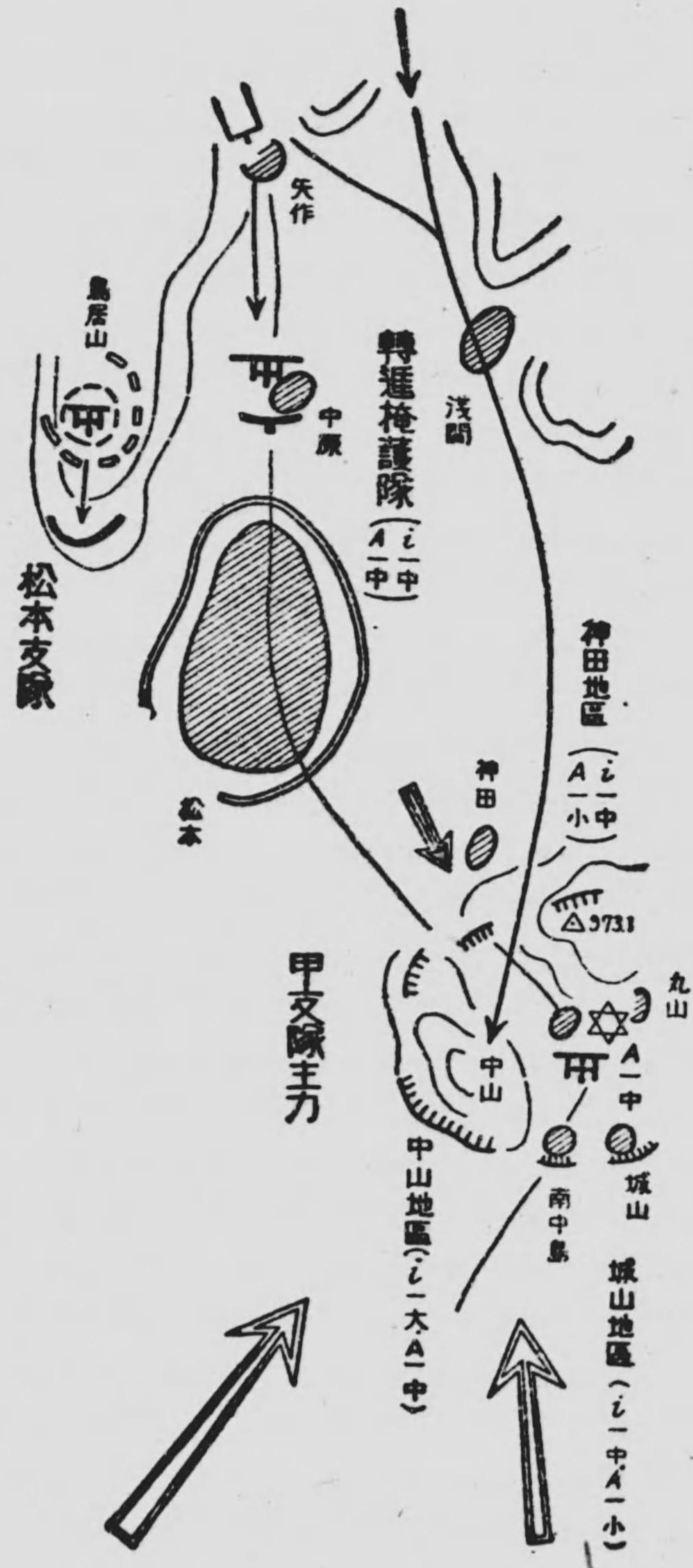
第十問題原案

判決

支隊ハ松本支隊ヲ以テ爲シ得レバ南方高地縁端ニ進出シテ該地ヲ確保セシムルト共ニ一部ヲ以テ中原附近ニアリテ松本ノ敵ヲ監視セシメ主力ヲ以テ速カニ東方山麓ヲ經テ中山村附近ニ進出シ中山高地、城山及其ノ北方三角標高九七三・一高地ニ互リ圓形陣地ヲ占領シ爾後ノ攻勢ヲ準備スルヲ要ス

處置ノ大要

甲支隊任務達成ノ爲地形判斷



- 一、松本支隊ハ極力南方ニ進出シ高地縁端確保ニ勉ム止ムヲ得ザレバ現在地ニアリテ現任務續行本夜爲シ得ル限り多クノ兵力ヲ抽出甲支隊主力方面ニ轉用(一、二中隊)
- 二、歩一中、砲一中ヲ中原附近ニ出シ松本ノ敵ヲ監視シテ支隊主力ノ轉進掩護、後主力ニ追及
- 三、轉進後主力ノ態勢要圖ノ如シ

狀況 第十

- 一、甲支隊ノ放膽ナル迂回行動ハ若干敵ノ妨害ヲ蒙リシト雖モ概ネ豫期ノ如ク成功シ正午頃主力ヲ以テ中山村附近ニ達ス是ニ於テ支隊長ハ直チニ所命ノ配備ニ就キ陣地占領ニ著手ス
- 二、二十九日日没ト共ニ松本附近ノ敵動搖ノ色アリ盛シニ目標ナキ射撃ヲ連續スルト共ニ松本―針尾(松本西南方約十五軒)道ヲ相當混亂シテ退却スル敵部隊アリ
- 松本支隊ハ日没近ク概ネ所命ノ線ニ進出シ日没ト共ニ歩兵二中隊ヲ淺間ヲ經テ支隊主力方面ニ移動セシム
- 三、此ノ日夕刻天龍川河谷ノ敵ハ大門附近ニ、中山道ノ敵ハ本山附近ニ達セルモノノ如シ
- 四、明クレバ四月三十日甲支隊ハ確實ニ松本支隊ト連絡ヲ完了シ所要ノ工事ヲ完了シ且一部ヲ以テ大門方向ノ敵ノ前進ヲ妨害セシム
- 五、三十日正午頃敵ノ大部隊續々松本平地ニ進出シ其ノ兵力赤軍三師團、白軍二師團ヲ下ラザルモノノ如ク主力ヲ以テ中山方向ニ殺到シ戰場忽チ硝煙ニ覆ハレテ天日爲ニ暗シ松本市再ビ敵兵充滿シ松本支隊方面亦苦戰ノ狀況ヲ看取シ得

(152)

支隊長ハ諸隊ヲ督勵シ極力現在地ヲ確保シテ敵ヲ拒止ス

- 六、夜間數次ニ互ル敵ノ大夜襲モ悉ク之ヲ撃退シ戰場屍ヲ以テ被ヒ山形改マルモノアリト雖モ我が忠勇ナル將兵ノ奮戰ト指揮官ノ毅然タル態度トニヨリ戰線微動ダニセズ
- 七、明クレバ五月一日天氣晴朗敵ノ重壓ハ愈々加ハリ苦戰前日ニ倍加スルモノアリ
- 友軍飛行機盛シニ活躍シテ支隊ニ協力スルモ敵機優勢ニシテ寂寥ヲ感ズルモノアリ
- 八、八時師團主力ハ右縱隊前衛ノ先頭ヲ以テ豊科東西ノ線ヲ通過ス此ノトキ左縱隊ノ先頭明科ニ在リ師團長ハ穗高附近ヲ前進中甲支隊方面ノ狀況ヲ飛行機並ニ無線連絡ニヨリ承知ス

第十一問題

五月一日八時ニ於ケル師團長ノ決心(即答)

第十一問題原案

決心

師團ハ直チニ逐次戦闘ニ加入シ主力ヲ以テ深く敵ノ左側背ヲ包圍シ之ヲ松本平地ニ捕捉殲滅セんとス

(153)

第二想定

所要地圖

二十萬分一 盈德、慶州、釜山、尙州、大邱、馬山
五萬分一 長壽岬、九龍浦、浦項、延日、朝陽、蔚山、長生浦、杞溪、慶州、毛良里、彦陽、梁山

一、内地ニ根據ヲ有スル青軍ハ慶尙南北道ノ領有ヲ企圖ス
二、獨立混成旅團ハ軍ノ先遣兵團トナリ慶尙東海岸ニ上陸シ先ヅ慶州ヲ奪取スベキ任務ヲ以テ一
月某日某地ニ集合ス

三、此ノ時迄ニ混成旅團長ノ知リ得タル狀況ノ要旨左ノ如シ

1. 敵ハ慶州、大邱、密陽附近ニ各一師團内外、釜山附近ニ二師團、鎮海、馬山附近ニ二、
三師團アルモノノ如シ

2. 延日、蔚山、梁山附近ニハ近日義勇軍結成セラレアリト稱スルモ其ノ數千ト云ヒ五千ト
云ヒ明カナラズ

3. 延日附近、蔚山附近、海雲台附近及釜山、鎮海、馬山一帶ニハ若干海岸防禦ノ設備アル
ガ如キモ詳細明カナラズ

4. 鎮海附近ニハ舊式砲臺若干アリ、敵海軍ノ舊要港ナリ

5. 其ノ他ノ敵情竝ニ兵要地誌ノ概要別紙要圖ノ如シ

6. 我ガ海軍ハ概ネ鎮海敵要港ヲ封鎖シアリ

四、獨立混成旅團ノ編組竝ニ協力部隊左ノ如シ

編組

長 少將某

步兵第一旅團(第一、第二聯隊)

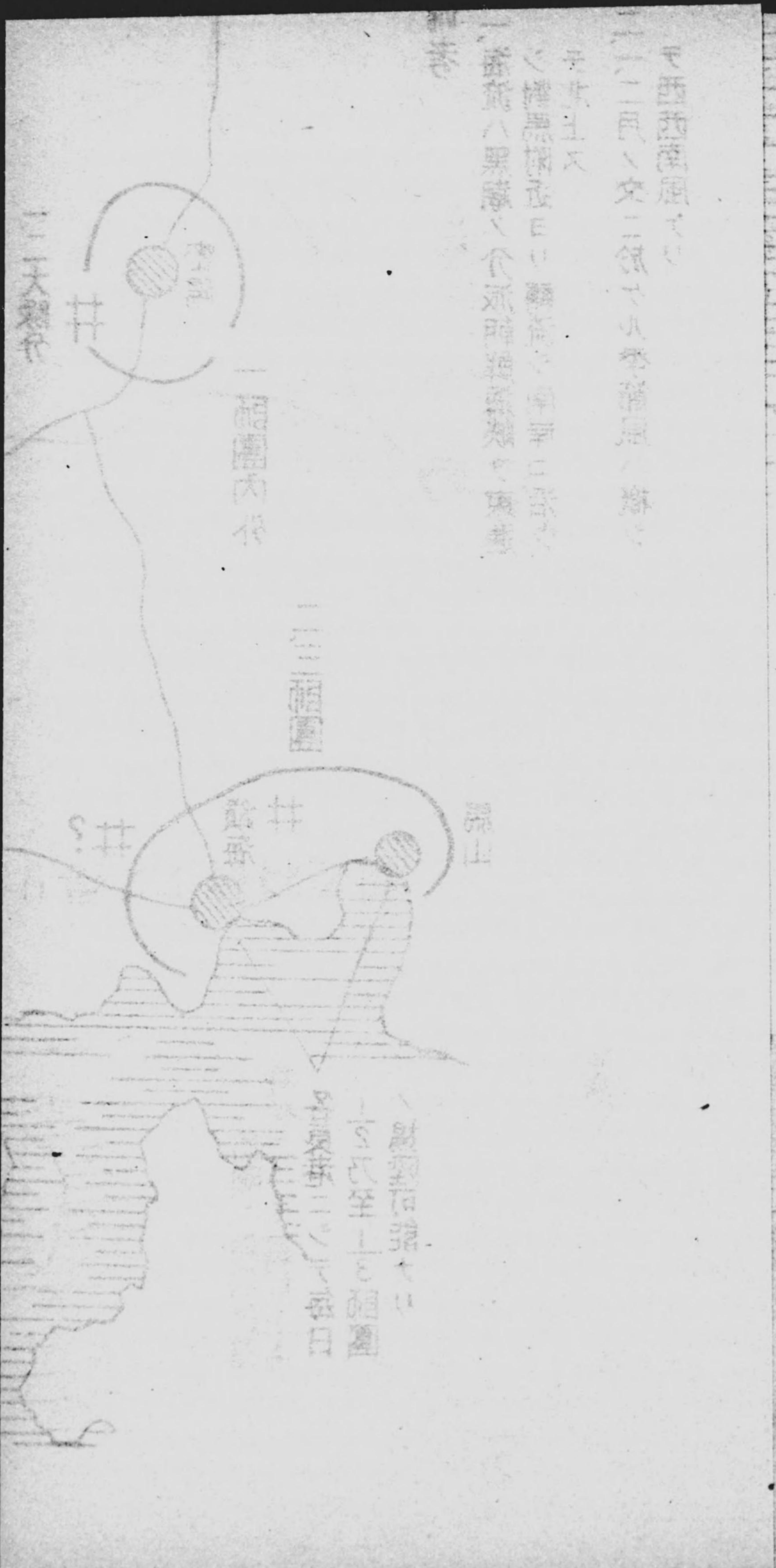
戰車第一中隊

騎兵第一中隊

山砲兵第一大隊(所要ノ聯隊段別ヲ有ス)

第一野戰高射砲隊

工兵第一中隊

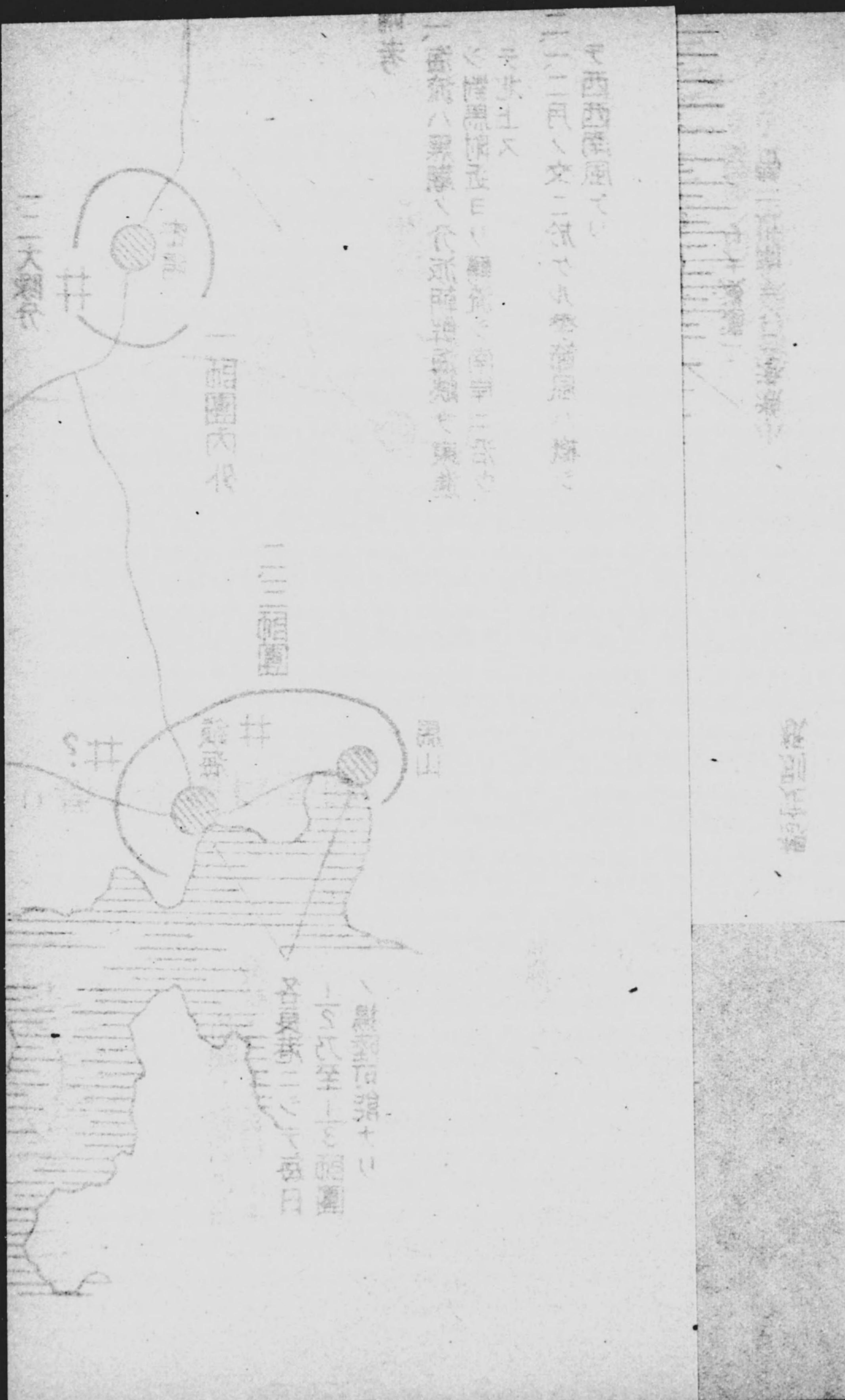


第一問題原案

獨立混成旅團ハ爾後如何ニシテ任務ヲ達成セントスルヤ
 (方針及指導要領ノミ)

第一問題

- 〇〇小隊
- 通信
- 輜重
- 兵站以下
- 略ス
- 作戰初期協力スル部隊
- 上陸作戰ニ必要ナル部隊
- 飛行隊(偵、戰各一中隊、輕爆二中隊)



第一問題原案

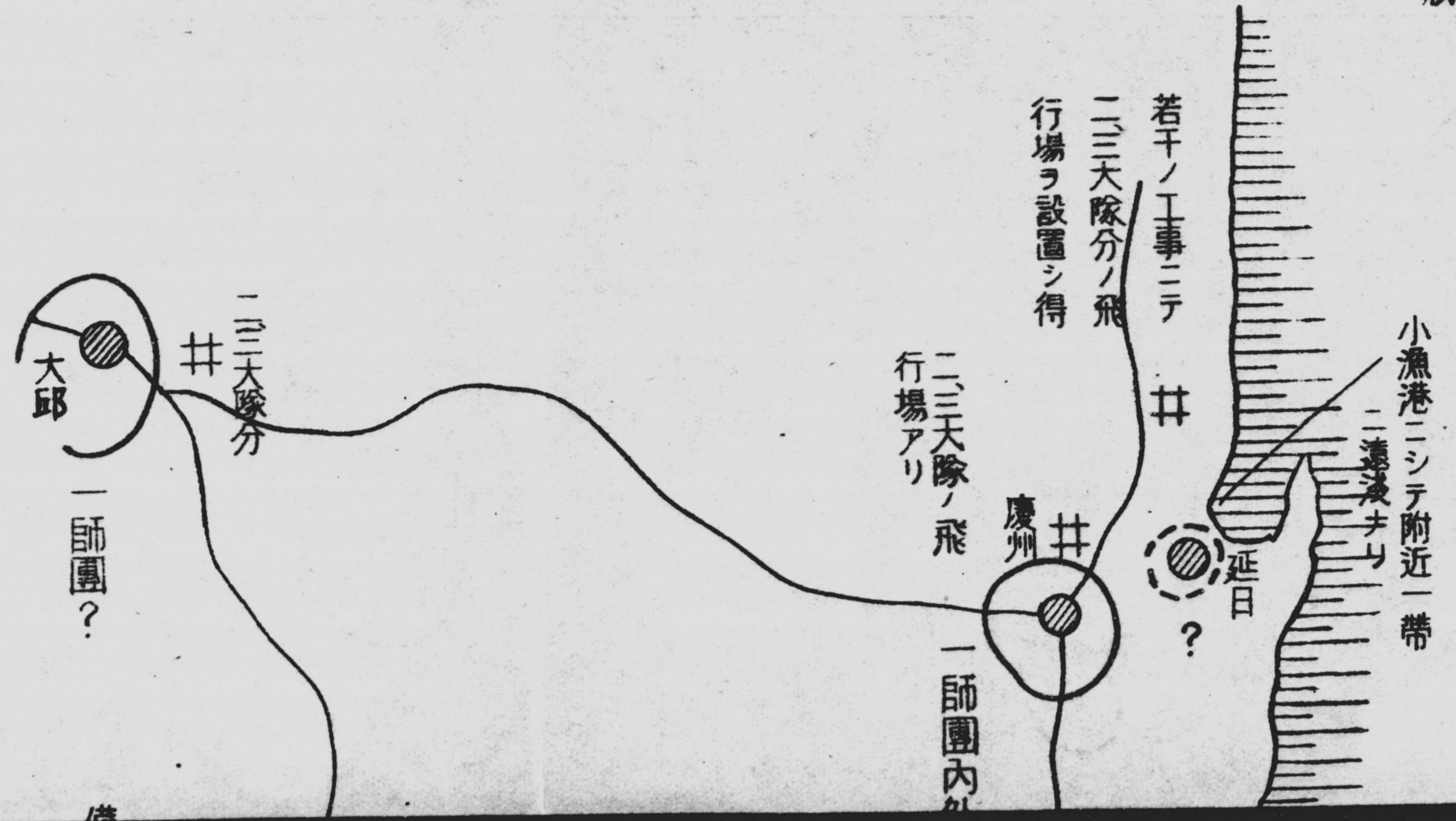
獨立混成旅團ハ爾後如何ニシテ任務ヲ達成セントスルヤ
 (方針及指導要領ノミ)

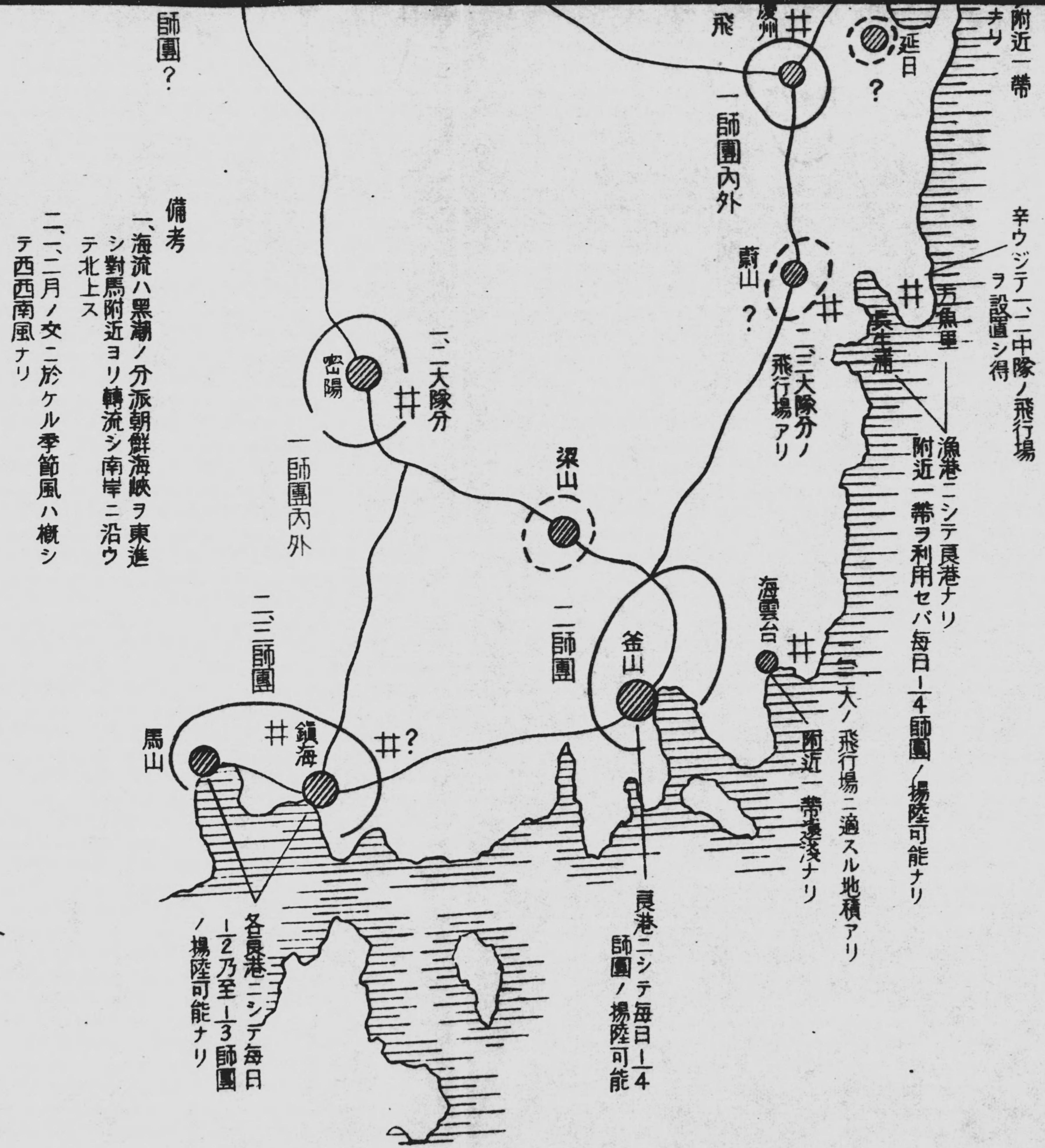
第一問題

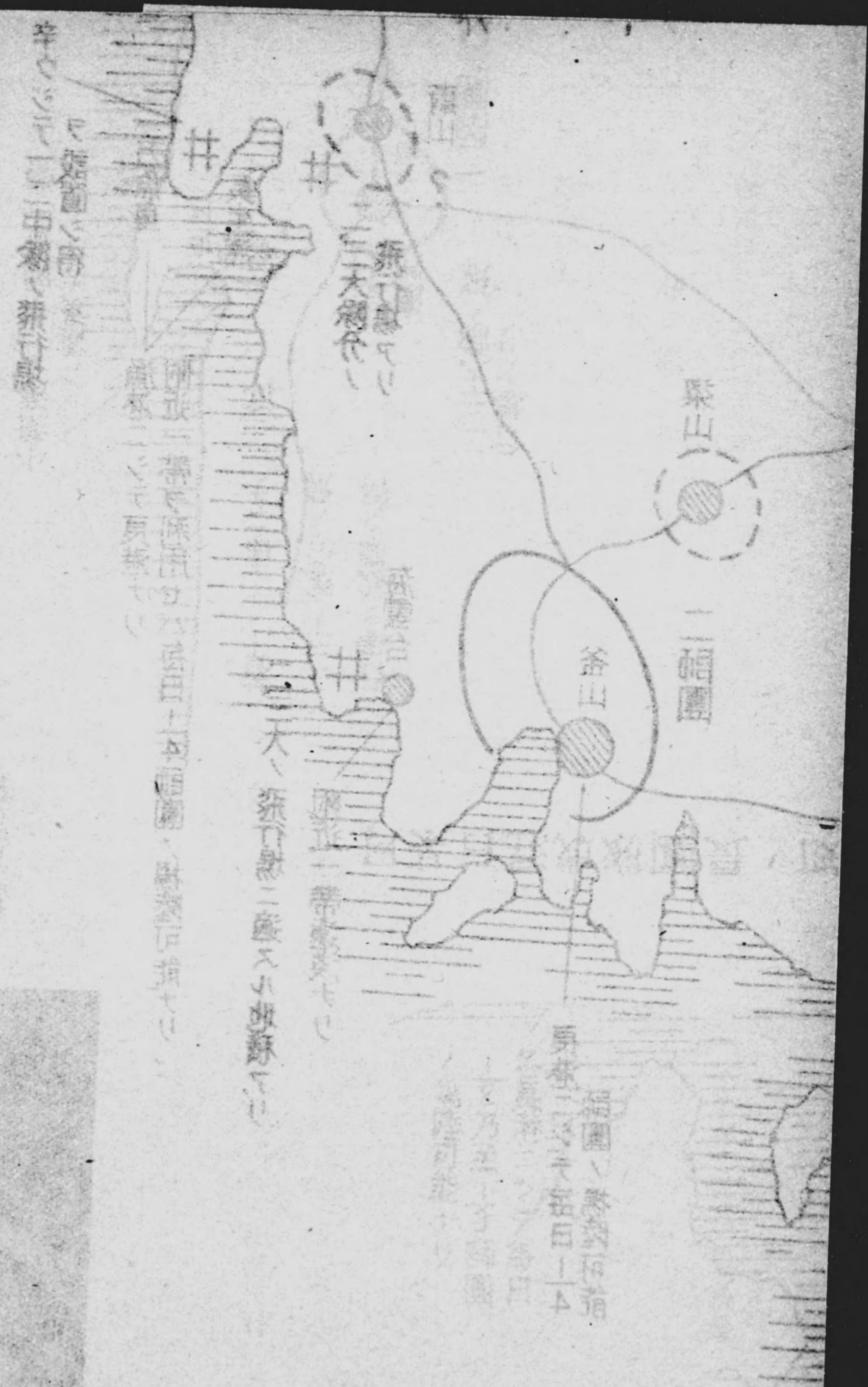
- 〇〇小隊
- 通信
- 輜重
- 兵站以下
- 略ス
- 作戦初期協力スル部隊
- 上陸作戦ニ必要ナル部隊
- 飛行隊(偵、戦各一中隊、輕爆二中隊)

想定別紙

一月某日混成旅團ノ知リ得ル資料要圖







方針

旅團ハ一部ヲ以テ月浦灣附近ニ上陸セシムルト共ニ主力ヲ以テ迎日灣ニ上陸シ一舉慶州ヲ攻略ス
 此ノ際有力ナル一部ヲ以テ蔚山方面ニ對シ陽動ヲ行フ

要領

- 一、歩兵一大隊、砲兵一中隊其ノ他ヲ以テ一月二十八日未明蔚山灣口方漁里附近ニ於テ陽動ヲ行フ
- 此ノ際歩兵部隊ハ上陸ヲ實施シ爲シ得レバ方漁里ヲ占領ス
- 旅團主力上陸開始ト共ニ迎日灣ニ轉航セシム
- 二、旅團主力ハ一月二十九日未明戰團部署ヲ以テ迎日灣ニ上陸ス
- 三、爾後旅團ハ其ノ大部ノ上陸完結ト共ニ慶州ニ向ヒ行動ヲ開始シ一舉之ヲ攻略ス

狀況 第一

一、旅團長ハ第一問題原案ノ如キ方針ヲ確立シテ上陸作戰協力部隊ト親シク協議シ周到ナル準備

ヲ整へ出發ニ關スル軍命令ヲ待ツ

二、斯クテ旅團ハ遂ニ待望ノ軍命令ヲ受領シテ行動ヲ開始ス

三、旅團主力ハ先遣隊ノ捷報ヲ聞キツツ驀進シ一月二十九日未明一齊ニ豫定上陸地附近ニ上陸ヲ開始ス

第二回ノ上陸部隊著岸スル頃ヨリ敵ノ抵抗漸ク頑強トナリ執拗ナル逆襲ニ會シ一時苦戦ニ陥リタルモ爾後ノ果敢ナル上陸戦闘ニヨリ次第ニ有利ニ進展シ正午頃ヨリ逐次敵ヲ西南山系ニ壓迫ス

四、一月二十九日八時旅團長ハ日月洞ニ在リ此ノ時迄ニ要圖ノ如キ狀況ヲ知り速カニ慶州附近ヲ奪取スル爲明早朝前進ヲ開始スルニ決ス

第二問題

獨立混成旅團ノ前進部署要圖

第二問題原案

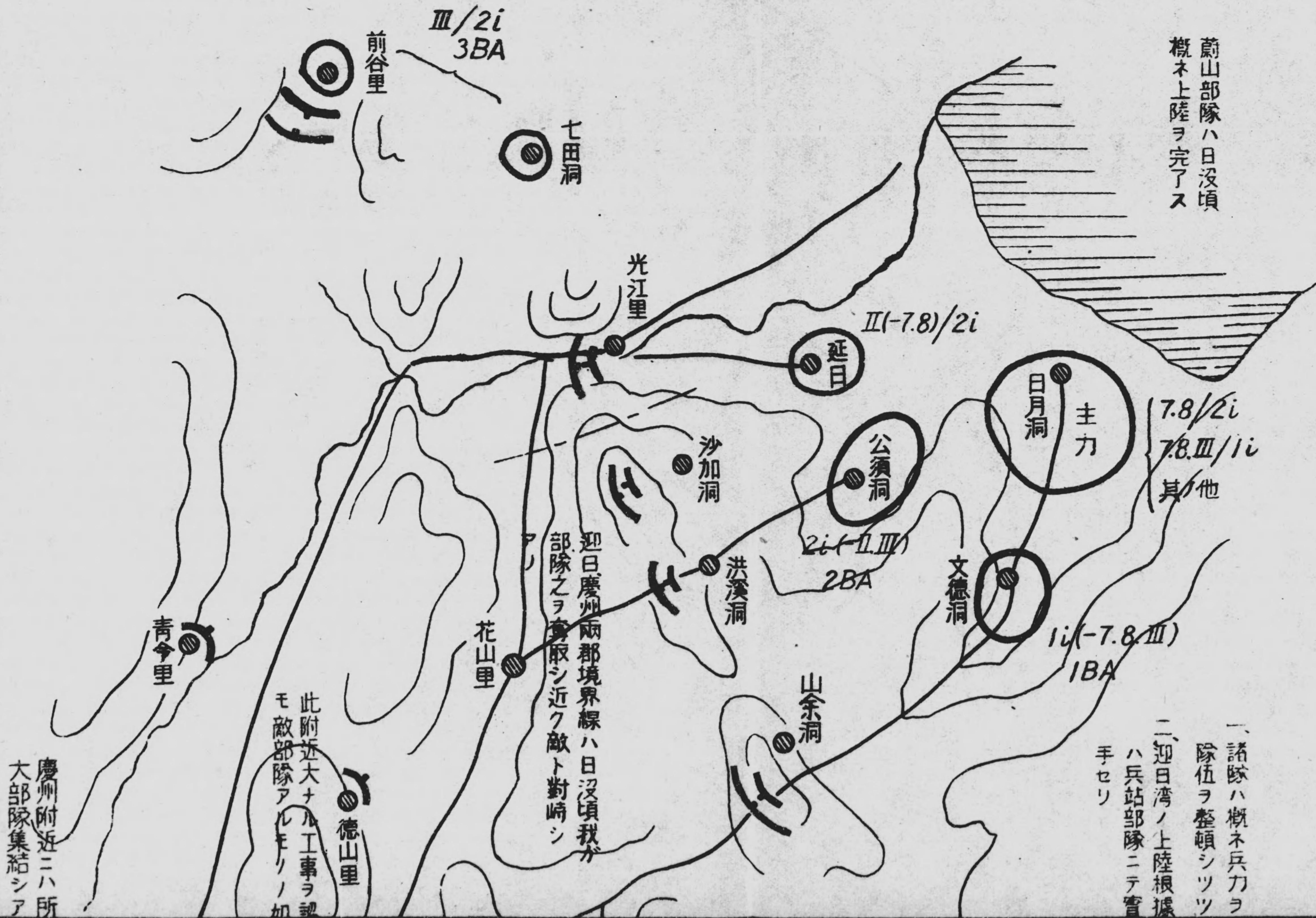


一、諸隊ハ概ネ兵力ヲ集結シ隊伍ヲ整頓シツツアリ

此附近大ナル工事ヲ認めザルモ敵部隊アルモノノ如シ

慶州附近ニハ所々工事ヲ見ル外大部隊集結シアルモノノ如シ

一月二十九日十二時迄二旅團長ノ知得ル狀況要圖



蔚山部隊ハ日没頃
概ネ上陸ヲ完了ス

7.8/2i
7.8.III/1i
其他

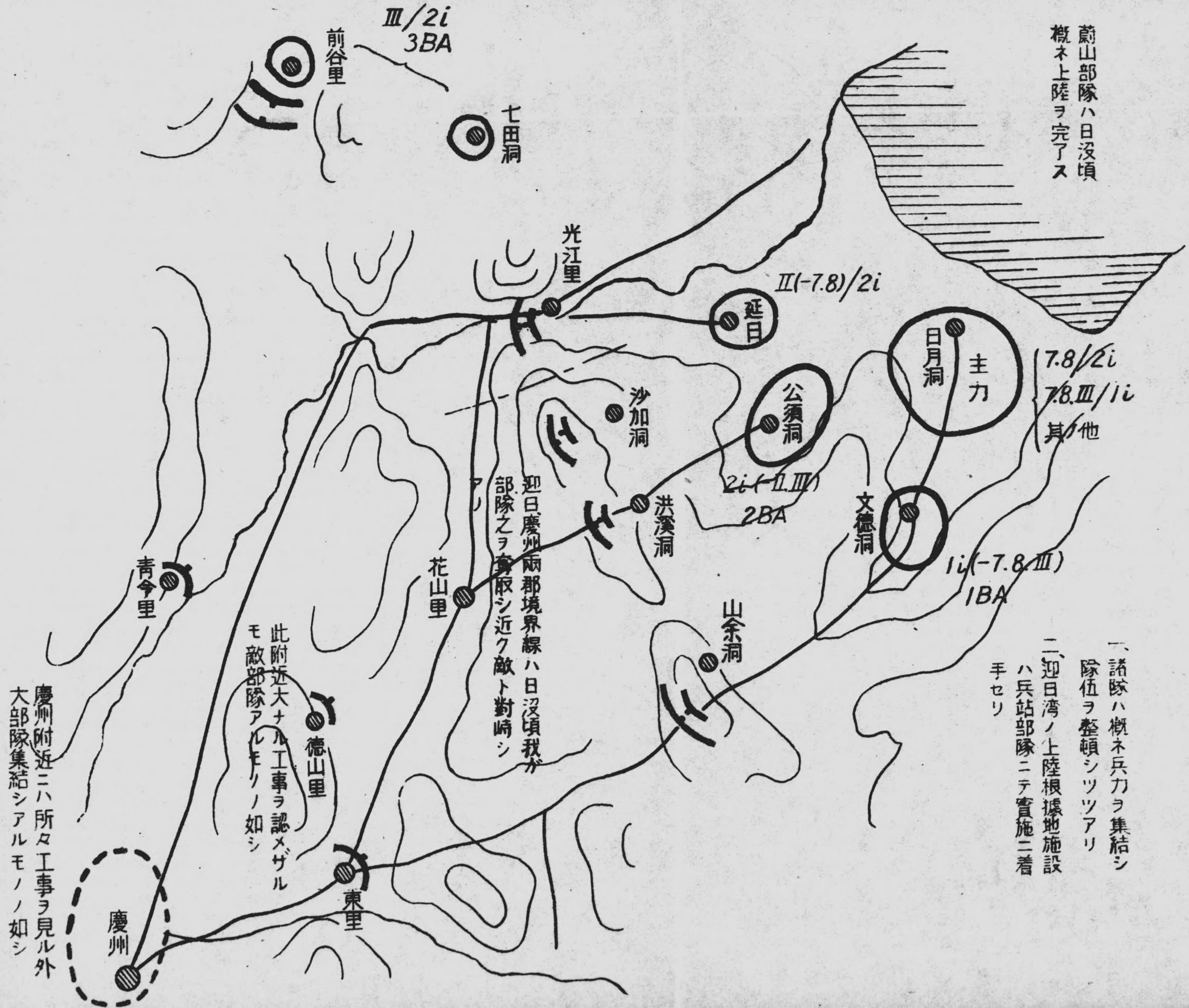
一、諸隊ハ概ネ兵力ヲ
隊伍ヲ整頓シツツ
二、迎日湾ノ上陸根據
ハ兵站部隊ニテ實
手セリ

迎日慶州兩郡境界線ハ日没頃我が
部隊之ヲ奪取シ近ク敵ト對峙シ

此附近大ナル工事ヲ認
モ敵部隊アルモノナ
リ

慶州附近ニハ所
大部隊集結シア

蔚山部隊八日没頃
概ネ上陸ヲ完了ス



7.8/2i
7.8.III/i
其他

主力

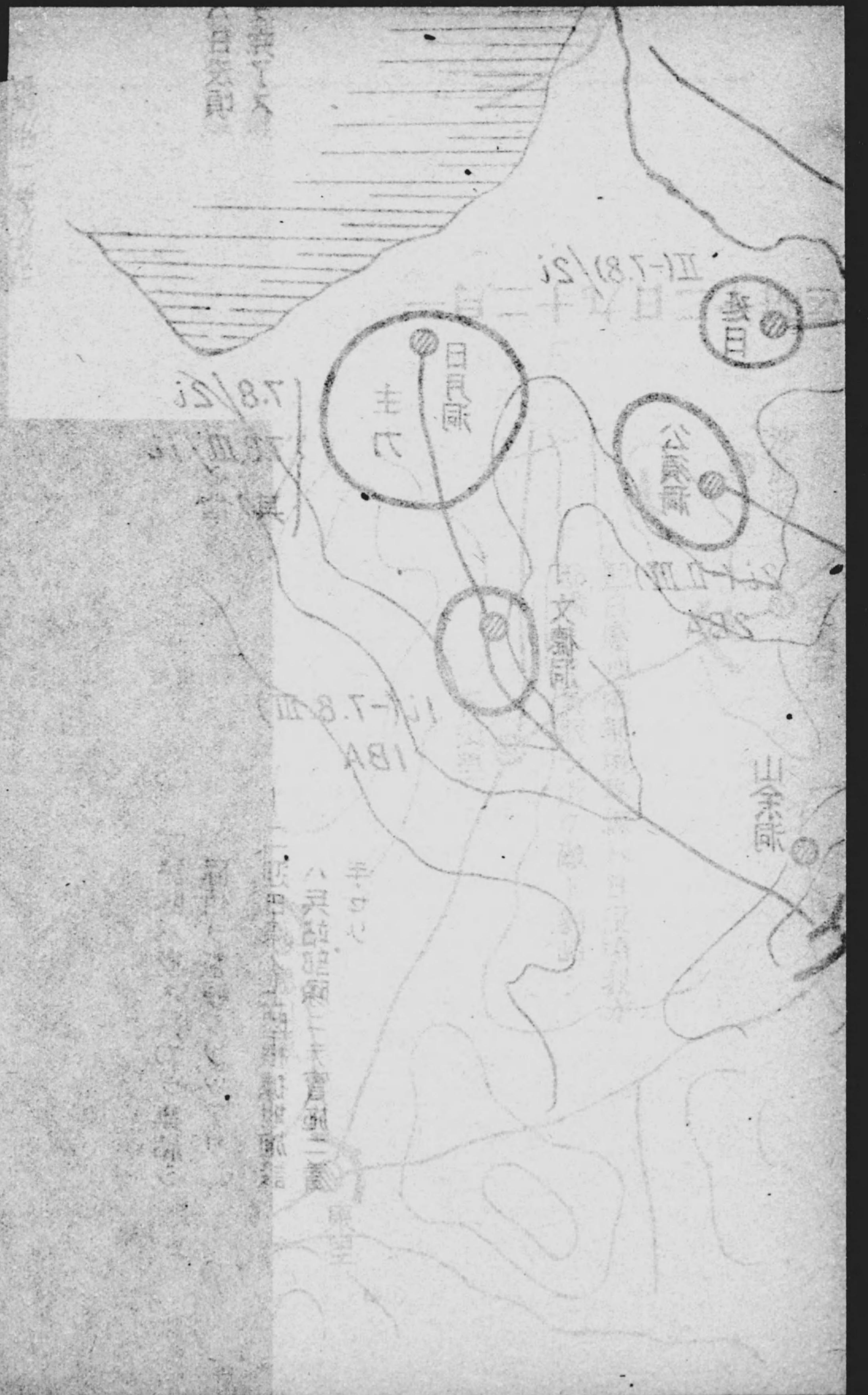
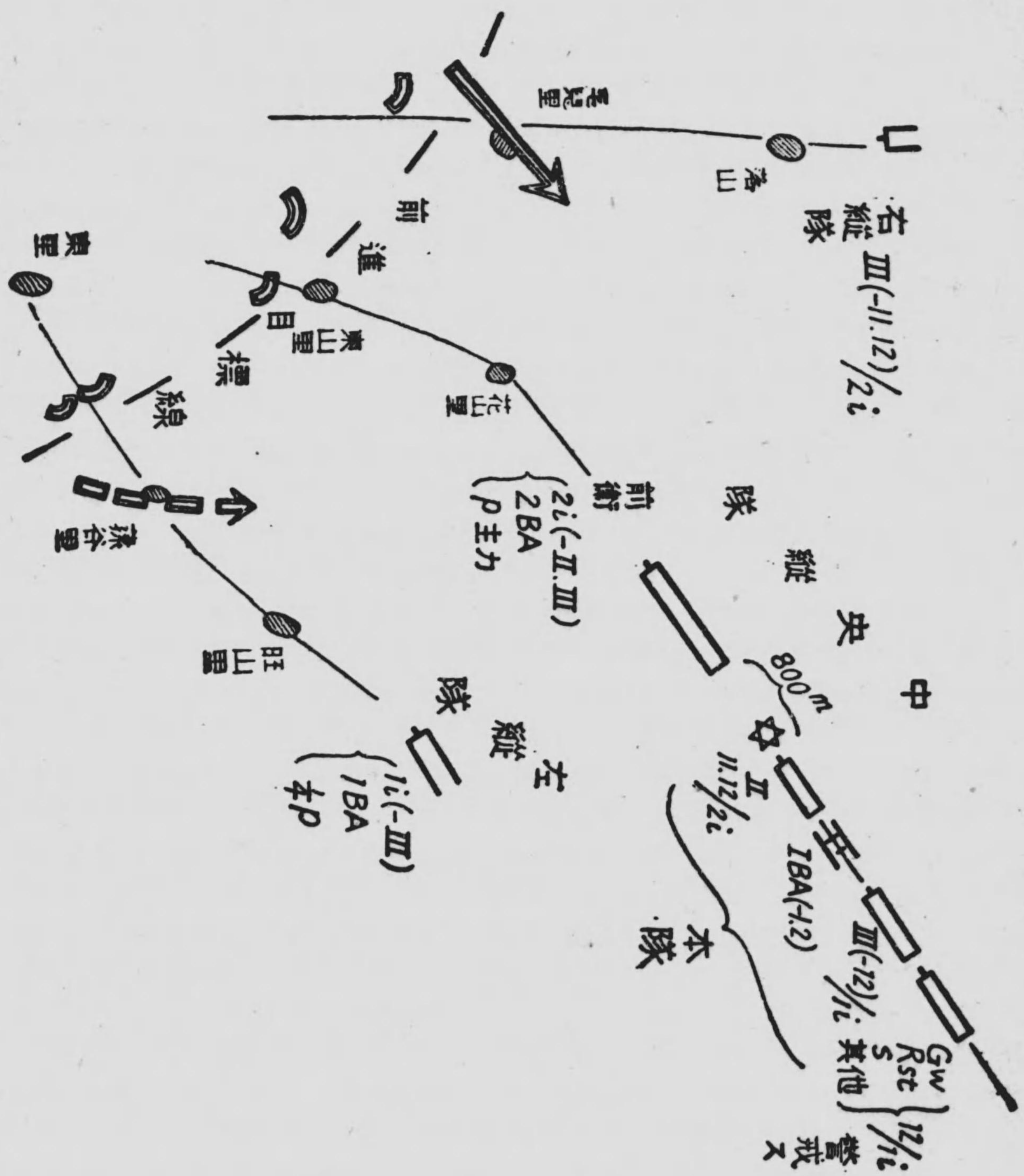
Ii(-7.8.III)
IBA

- 一、諸隊ハ概ネ兵力ヲ集結シ
隊伍ヲ整頓シツツアリ
- 二、迎日湾ノ上陸根據地施設
ハ兵站部隊ニテ實施ニ着手セリ

慶州附近ニハ所々工事ヲ見ル外
大部隊集結シアルモノノ如シ

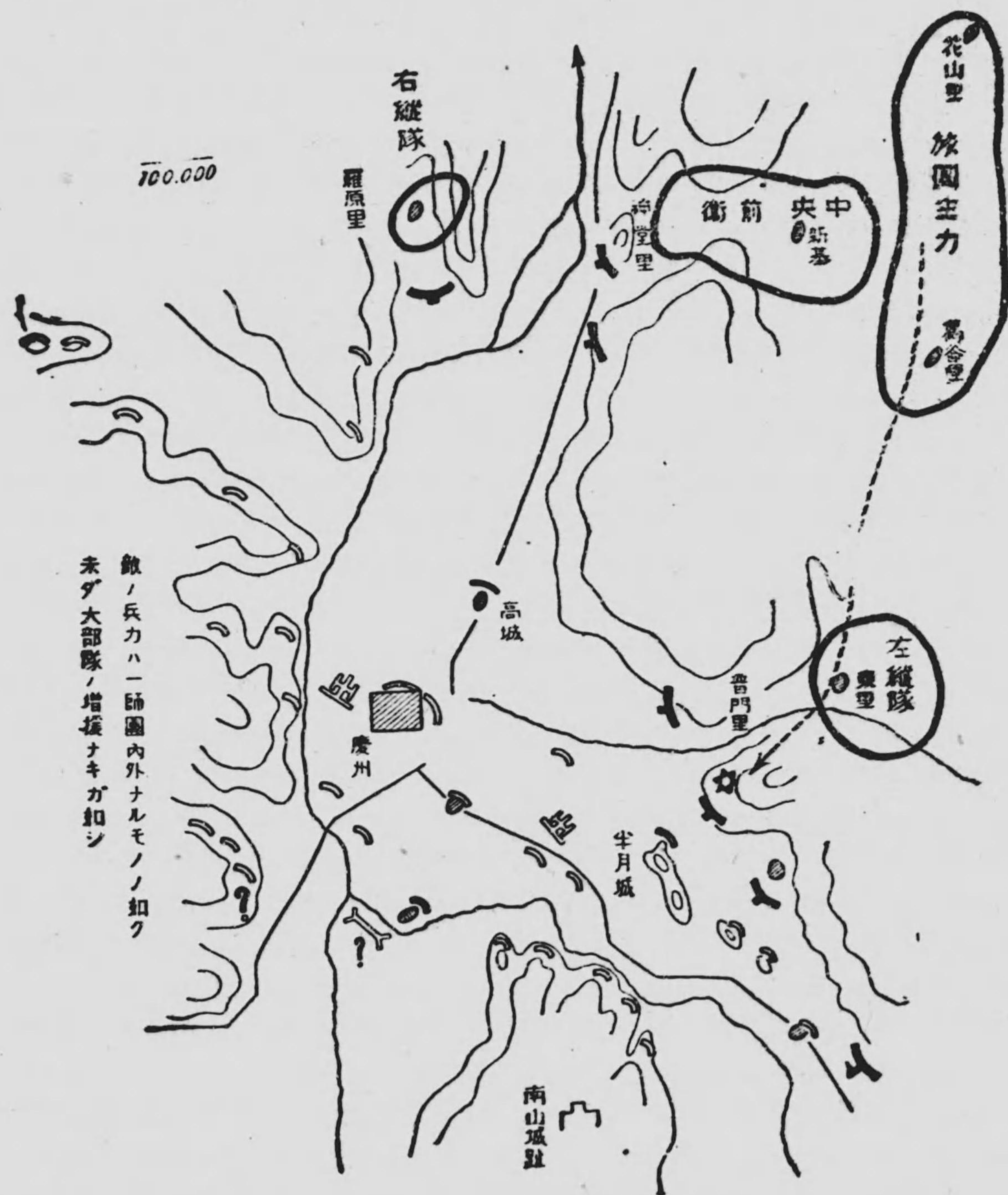
此附近大ナル工事ヲ認メザル
モ敵部隊アルモノノ如シ

迎日慶州兩郡境界線八日没頃我が
部隊之ヲ奪取シ近ク敵ト對峙シ



圖要勢態我彼

ルケ於二時五十月十三月一



方 針

旅團ハ攻撃ノ目的ヲ以テ明早朝出發重點ヲ中央ニ保持シ三縱隊トナリ先ヅ川北面平地ニ向ヒ前進ス

部署ノ大要

- 一、各縱隊ノ部署竝ニ前進目標要圖ノ如シ
- 二、騎兵隊ハ速カニ川北面平地ニ進出シ慶州附近ノ敵情搜索
- 三、野戰高射砲隊ハ中央縱隊ノ前衛ト本隊トノ間ヲ躍進シ主力ノ防空ニ努ム
- 四、戰車中隊ハ中央縱隊前衛ノ後方ニ跟随

狀 況 第二

一、旅團ノ諸隊ハ一月三十日六時前後各、其ノ宿營地ヲ出發シ所命ノ縱隊區分ニ從ヒ前進ヲ開始ス七時乃至八時ノ間諸隊ノ先頭ハ概ネ迎慶兩郡境界線ヲ通過ス爾後數回ニ互ル敵ノ空襲竝ニ所々高地線ニ據ル敵ノ抵抗ヲ排除シツツ南進ヲ續行ス

二、正午旅團長ハ各縦隊ヲシテ一部ヲ以テ青令里、神堂里、東里附近ノ敵ヲ驅逐シ且敵情ヲ搜索セシメ主力ヲ夫々羅原里、新基、聲池里、東里附近ニ集結セシムルニ決シ江亭ニ於テ所要ノ命令ヲ下達セリ

狀況 第三

一、旅團長ハ諸隊ニ所要ノ集結命令ヲ下達スルト共ニ直チニ馬ヲ馳セテ左縦隊ノ位置ニ移リ爾後其ノ戦闘ノ進捗ニ伴ヒ普門里高地上ニ登リ慶州平地一般ヲ大觀ス
二、十五時稍、過旅團長ハ普門里墓地ノ高地ニ在リ自ラノ視察竝ニ諸隊特ニ協力飛行隊等ヨリノ諸情報ヲ綜合シ要圖ノ如キ彼我ノ態勢ヲ知ル
三、斯クシテ旅團長ハ敵陣地攻撃ニ關スル方策ヲ樹立ス

第三問題

獨立混成旅團長ハ爾後如何ニシテ攻撃ヲ指導セントスルヤ

(要圖答解)

第三問題原案

判決

旅團ハ本夜暗ヲ利用シ主力ヲ以テ九黃里ヨリ狼山ニ互リ展開シ明黎明ヲ期シ重點ヲ仁旺里西側高地ニ指向シ一舉敵陣地ヲ突破シ之ヲ慶州平地ニ捕捉殲滅スルヲ要ス

指導要領

一、本三十日薄暮ヲ利用シ敵警戒陣地ヲ奪取ス之ガ爲左縦隊ハ其ノ大部ヲ直チニ普門里高地線端ニ展開セシム
二、攻撃部署左ノ如シ

右翼隊(ロ、2i)

$\frac{1}{4}$ P (九黃里附近ニ展開)

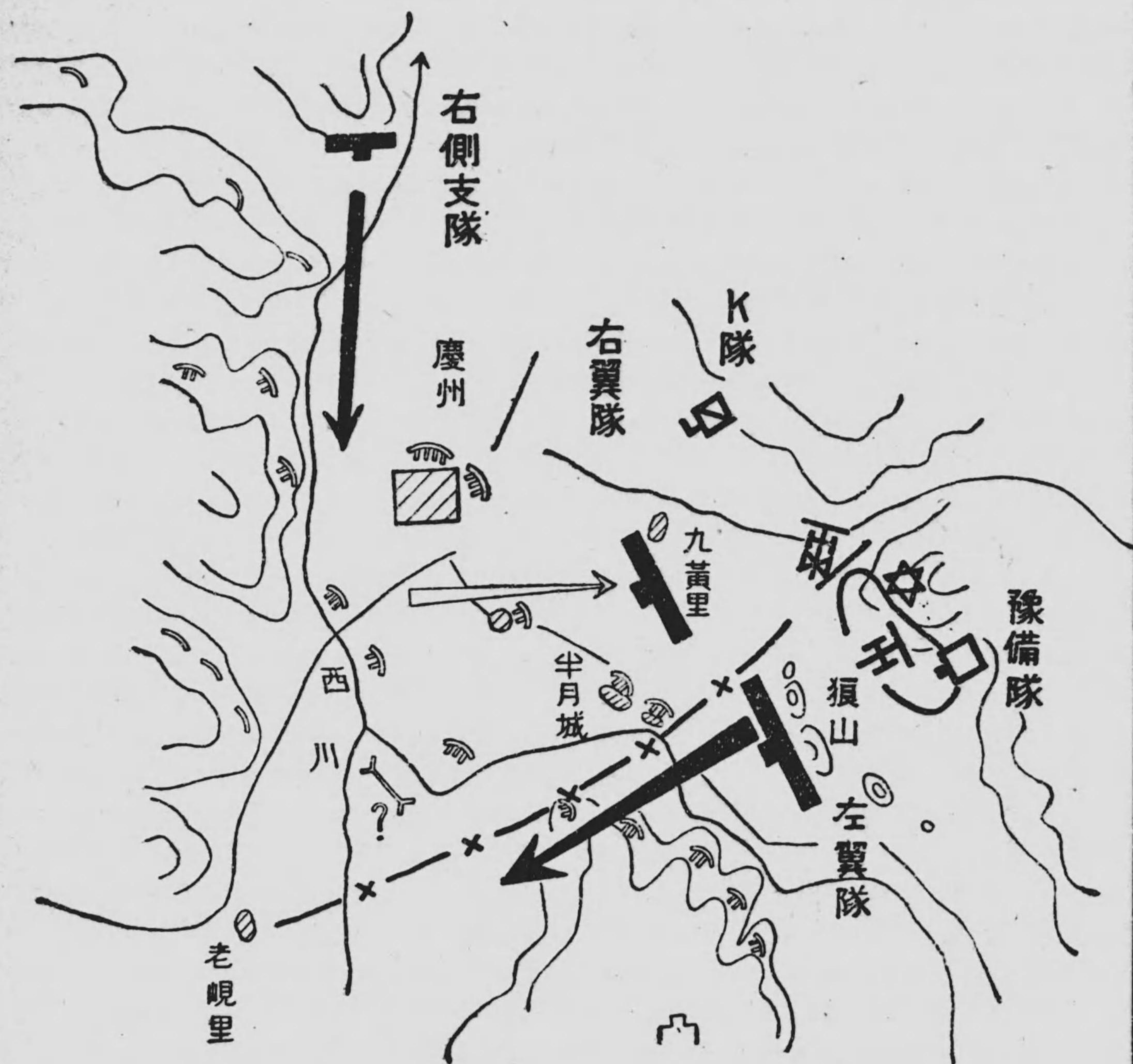
左翼隊(ロ、1i)

TK (-III. II (-11.12))

P(主力) (狼山附近ニ展開)

豫備隊

II/2i



狀況 第四

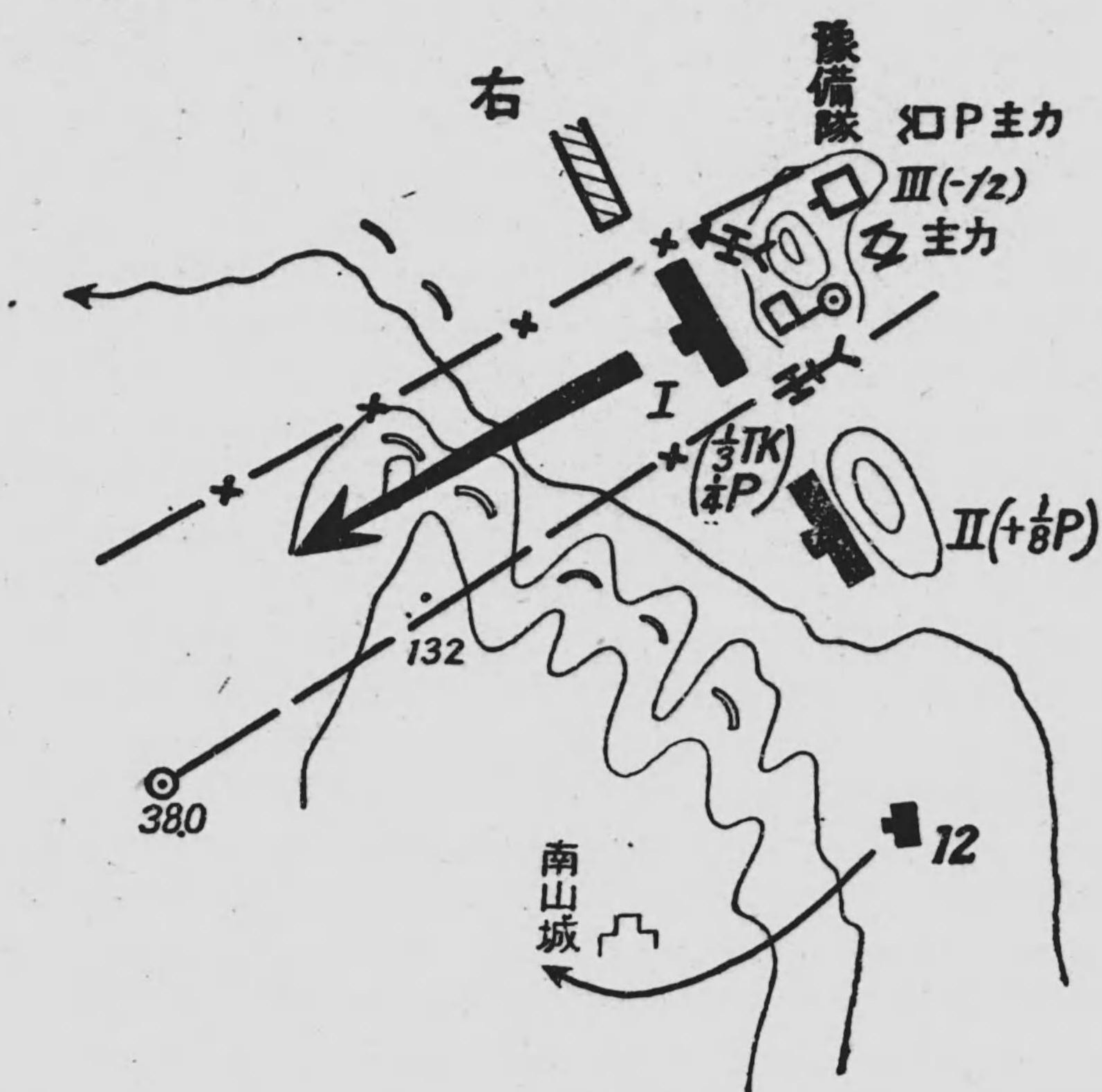
一、左縦隊長ハ旅團命令ニ基キ警戒陣地奪取ノ爲著々準備ヲ進メアリシガ夕陽仙桃峯頂ヲ染ムル頃一齊ニ攻撃前進ヲ開始ス陵旨東側高地及狼山北側高地ヨリスル熾烈ナル敵自動火器ニヨリ我

二、砲兵隊ハ天明ト共ニ効力射準備射撃ヲ高地及慶州附近ニ對シ開始シ速カニ完了ス
 三、兩翼隊展開完了時機ハ一月三十一日四時トス
 四、九黃里附近左縦隊ノ一部ト右翼隊トノ交代時機ハ四時トス
 五、兩翼隊ハ黎明ト共ニ攻撃前進ヲ開始ス(概ネ七時ト豫定ス)

右側支隊 西川ニ沿フ地區ヨリ敵ヲ攻撃シ旅團主力ノ戰團ヲ容易ナラシム
 砲兵隊 主トシテ左翼隊ノ戰團ニ協力
 K、GW、旅團主力ノ右側警戒
 展開ノ要領ハ次頁要圖ノ如シ

方針

左翼隊ハ重點ヲ仁旺里西方高地ニ保持シ一舉敵陣地ヲ突破ス



ガ第一線ノ前進一時困難ヲ呈シタルガ如キモ聯隊砲ノ適切ナル協力ニヨリ忽チニシテ敵ヲ沈黙セシム斯クテ天漸ク暗キ頃狼山南北一帯ノ所命ノ線ヲ奪取ス時二十八時三十分ナリ

二、是ニ於テ左縦隊長ハ爾後左翼隊長トナリ部下各隊長ヲ集メ敵陣地攻撃ノ爲所要ノ命令ヲ下達ス

第四問題

左翼隊敵陣地攻撃部署要圖

第四問題原案

要圖ノ如シ

狀況 第五

一、左翼隊ノ展開ハ夜間ノ錯誤ニヨリ若干ノ混雜ヲ生ジタリト雖モ概ネ所命ノ時刻ニハ終了シ七時旅團ノ電話命令ニヨリ勇躍攻撃前進ヲ開始ス

敵陣地未ダ曉霧ノ中ニ眠リ寂トシテ聲ナク第一線ハ肅々トシテ迫リ行ク

七時三十分稍、前我が第一線將ニ南川河岸ニ達セントスルヤ敵ノ自動火器一齊ニ火ヲ吐キテ戰場一時ニ噪然タリ此ノ時天漸ク明ケテ敵陣地咫尺ノ間ニアリ

既ニ第一線ハ處々ニ突撃ヲ開始セルガ如ク亂戰彼我ヲ辨ゼザルモノアリ

此ノ頃ヨリ我が砲兵射撃次第ニ敵陣地ノ要部ニ命中シ友軍ノ志氣愈々軒昂ナリ

二、斯クテ左翼隊長ハ狼山北方高地上ニアリテ戰況視察中ナリシガ九時稍、過遙カ西北方慶州方向ヨリ黃塵天ニ沖シテ二、三十輛ノ戰車右翼隊ノ後方ヲ經テ左翼隊方向ニ慕進シ來ルヲ目撃ス

第五問題

左翼隊長處置アリヤ(即題)

第五問題原案

方針

一部ヲ以テ對戰車攻撃ヲ實施スルト共ニ主力ハ依然前任務ヲ續行ス

處置ノ大要

- 一、速射砲及聯隊砲ヲ以テ敵戰車ヲ求メテ擊摧ス
- 二、豫備隊及工兵隊ヨリ肉迫攻撃班ヲ出シ戰車中隊ト協力シテ決戰攻勢ニ轉ズ
- 三、爾餘ノ部隊ヲ以テ重火器及指揮機關ヲ掩護セシム
- 四、第一線諸隊ハ依然前任務ヲ續行シ果敢ナル突撃ヲ督勵ス

狀況 第六

一、斯クテ翼隊長ノ適時ノ處置ト部隊ノ果敢ナル攻撃トニヨリ漸ク敵ヲ擊退スルコトヲ得敵ノ壞セラレタル戰車十數輛殘骸ヲ留メテ我が志氣大イニ振フ然レドモ此ノ戰鬪ニ於テ我モ亦相當破ノ損害ヲ蒙リタリ

二、十一時三十分頃左翼隊長ハ左ノ狀況ヲ知ル

1. 左大隊ハ既ニ標高一三二高地ヲ奪取シ續イテ西方ニ向ヒ戰果ヲ擴張中ナリ
2. 右大隊正面ノ敵ハ頑強ニシテ僅カニ標高高地稜線ノ一角ヲ奪取シタルニ過キス甚タ苦戰中ナリ

第六問題

左翼隊長處置アリヤ

第六問題原案

方針

翼隊ハ戰車隊及豫備隊ヲ以テ戰果ヲ擴張ス

處置

- 一、左大隊ヲシテ一意西方月南方向ニ對シ戰果ヲ擴張セシム
- 二、戰車隊ヲ以テ右翼隊トノ戰鬪地域ヲ迂回シテ右大隊正面ノ敵陣地ノ背後ニ突入シ之ヲ蹂躪シ

ヲ右大隊ニ協力セシム

三、豫備隊（一小隊ヲ軍旗衛兵トシテ殘置ス）ヲ左大隊ノ戰鬥地域ヨリ右大隊正面ノ敵ノ側背ヲ攻撃シ右大隊ノ攻撃ニ協力セシム

四、右大隊正面ノ敵陣地制壓ヲ砲兵隊ニ要求ス

狀況 第七

一、旅團長ハ普門里高地ニアリ正午稍、前左翼隊ヨリノ報告ニヨリ左翼隊ノ一部ハ既ニ南山城址ノ敵ヲ驅逐シ鮑石亭附近ニ進出セル外其ノ左大隊ハ月南附近近ク戰果ヲ擴張中ナル旨ノ戰況ヲ承知ス

二、尙旅團長ハ戰場全般ヲ視察シ左ノ狀況ヲ知ル

1. 左翼隊ノ右第一線方面ハ依然苦戰中ナルモノノ如ク戰局ノ進展緩慢ナルモノノ如シ

2. 右翼隊正面ニ於テハ半月城址ハ辛ウジテ奪取シ得タルガ如キモ爾後ノ攻撃ハ容易ニ進捗セズ

3. 慶州方向ヨリスル敵ノ攻勢ハ數回反復セラレタルガ如キモ我が砲兵隊ノ適切ナル射擊竝

GW 及騎兵隊ノ活動ニヨリ辛ウジテ阻止シアリ

4. 右側支隊方面ニアリテハ金丈里南方高地ヲ僅カニ奪取シ得タルノミニシテ爾後苦戰中ナルモノノ如シ

第七問題

正午旅團長處置アリヤ

第七問題原案

豫備隊主力ヲ左翼隊長ニ與ヘ一舉孝峴里ノ隘路口ニ突入シ敵ノ退路ヲ遮斷セシム

狀況 第八

斯クテ戰線ハ一喜一憂波瀾萬丈ナリシモ旅團長以下ノ堅確ナル意志ト第一線將兵ノ勇戰死闘トニヨリ遂ニ左翼ハ敵ノ陣地ヲ突破席卷シ一部ヲ以テ敵ノ退路ヲ遮斷スルト共ニ主力ヲ以テ北方ニ向ヒ敵主力ヲ求メテ茲ニ大殲滅戰ヲ展開シ慶州平地第二回ノ夕陽赤ク濃ク仙桃峯山頂ヲ彩ル頃遂ニ

榮光輝ク戰捷ノ凱歌ハ青軍旅團將兵ノ口ヲ衝イテ新羅ノ古都ヲ搖ガシテ暫シ止マズ

狀況 第九

- 一、明クレバ二月一日旅團ハ殘敵ヲ掃蕩シツツ主力ヲ慶州附近ニ集結ス
- 二、正午頃旅團長ハ慶州ニアリテ左ノ要旨ノ軍命令ヲ受領ス

軍命令ノ要旨

1. 軍ハ主力ノ集中完了ヲ待ツテ一舉慶尙兩道ノ攻略ヲ企圖ス
軍ノ迎日灣到着ノ時機ハ二月七日頃ト豫定ス
 2. 獨立混成旅團ハ慶州ヲ確保シ軍主力ノ慶北進出ヲ容易ナラシムベシ
 3. 慶州附近ニ軍兵站主地ヲ設定ス
- 三、此ノ時迄ニ旅團長ノ知り得タル狀況左ノ如シ
1. 大邱附近ノ敵部隊ハ旅團ノ慶州附近戰鬪ニ際シテハ永川附近ニ進出シタルガ如キモ慶州
陥落ト共ニ急遽引返シタルモノノ如シ
- 然レドモ近ク大舉シテ慶州ヲ恢復スベシトノ情報目下盛シニ流布セラレアリ

2. 釜山附近ノ敵部隊ハ極力海岸防備ニ專念シアリシガ如ク附近一帶漁船ノ出入ヲ全ク禁ジ
アリ

3. 又信ズベキ諜報ニヨレバ最近該方面ノ敵部隊ニシテ近ク北上ヲ準備中ナルモノアルガ如シ
3. 鎮海、馬山方面ノ敵ハ特ニ異狀ヲ認メザルモ海岸防備ハ特ニ嚴重ナルモノノ如シ

第八問題

獨立混成旅團任務達成ノ爲地形判斷

第八問題原案

判決

旅團ハ一部ヲ以テ遠ク敵ノ前進ヲ遲滯セシメツツ主力ヲ以テ機動ニ依リ敵ヲ各個ニ擊破スルヲ要
ス
止ムヲ得ザル場合ニアリテモ慶州外輪山系ヲ扼止シテ軍主力ノ慶北進出ヲ容易ナラシメザベカラ
ム

理由ノ骨子

- 一、敵ハ外線態勢ヲ發揮シツツ求心的ニ慶州恢復ニ努ムルナラン然レドモ時トシテ其ノ特性ニ鑑ミ各個ニ進出スルコトナシトセズ
- 二、地形一般ニ長隘路ニシテ寡ヲ以テ衆ヲ擊破スルコト可能ナリ故ニ飽ク迄積極的行動ニヨリ敵ヲ各個ニ擊破スルヲ要ス
- 三、然レドモ持久時間大ナルヲ以テ止ムヲ得ズ最悪ノ場合ニ至ルコトアルヲ豫期セザルベカラズ之ガ爲ニハ慶州外輪山系ヲ確保シ慶州平地ニ一步ト雖モ敵ヲ進入セシメザルヲ要ス蓋シ慶州ニハ大ナル兵站諸施設ヲ設置スル要アルヲ以テナリ

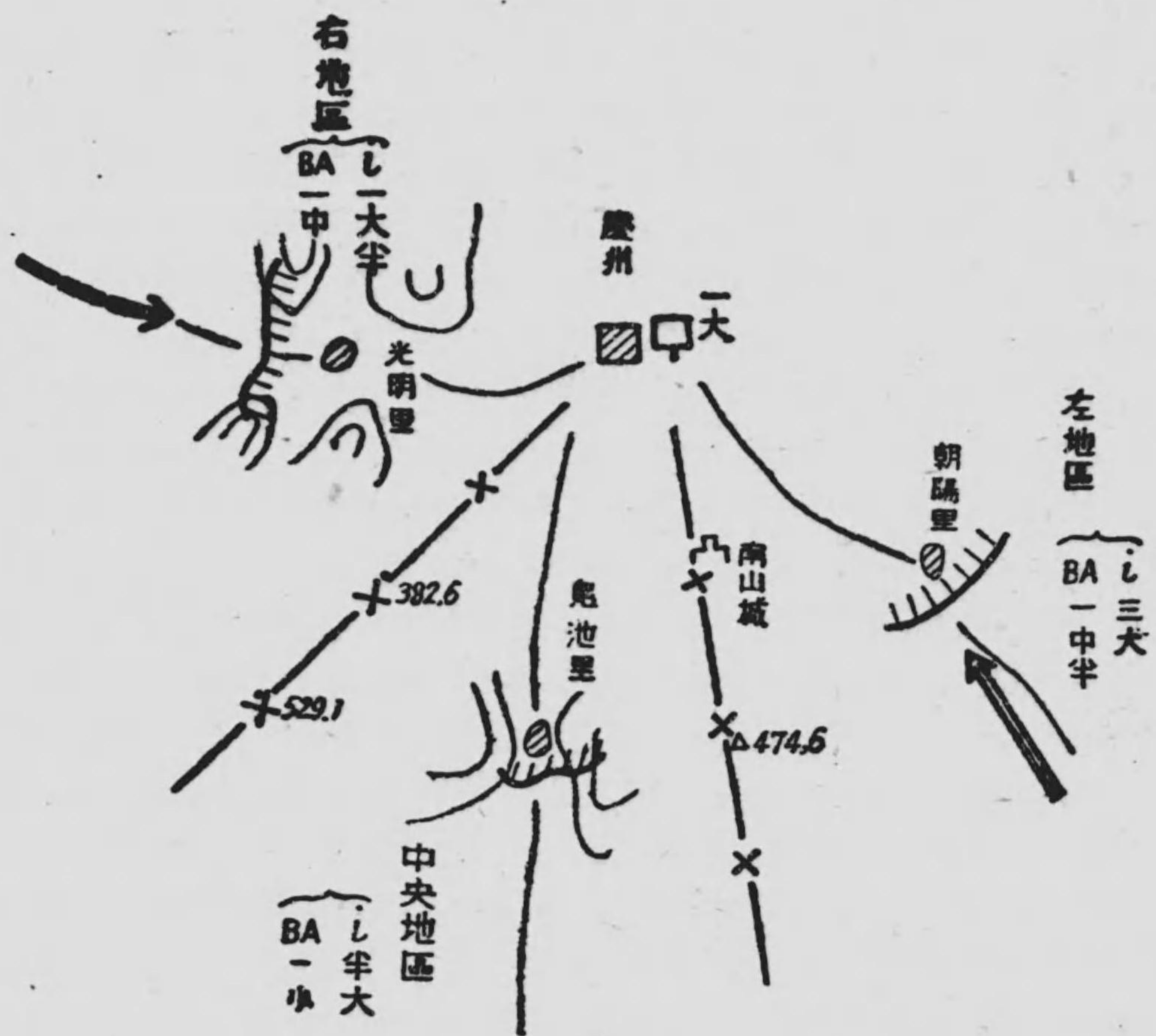
處置ノ大要

- 一、各歩兵一中隊、機關銃一小隊、砲兵一小隊ヲ基幹トセルモノヲ以テ永川街道及蔚山街道ニ、歩兵一小隊ヲ彦陽街道方向ニ派遣シ敵情ヲ搜索シ且敵ノ前進ヲ遲滯セシム
 - 二、旅團主力ハ慶州附近ニ集結シ隨時移動シ得ル如ク準備ス
 - 三、最悪ノ場合各方面同時ニ攻撃セラルル場合ヲ顧慮シ豫メ陣地占領ヲ準備ス
- 其ノ陣地配備ノ要領次ノ要圖ノ如シ

狀況 第十

- 一、旅團長ハ第八問題原案ノ如キ判決ニ基キ決心シ夫々部隊ヲ部署ス
- 二、歩兵第一聯隊長ハ旅團命令ニ基キ一部ヲ以テ蔚山街道ヲ遠ク南方ニ派遣シ敵情ヲ搜索セシムルト共ニ敵ノ前進ニ際シテハ之ガ前進ヲ遲滯セシメツツ敗退セシムルコトトシ主力ヲ以テ朝陽里附近ニ陣地ヲ構築スルニ決ス

圖要斷判地陣爲ノ禦防久持團旅



朝陽里附近左地區陣地占領要圖

備考 地形ヲ廣ク大觀スルヲ要ス

第九問題

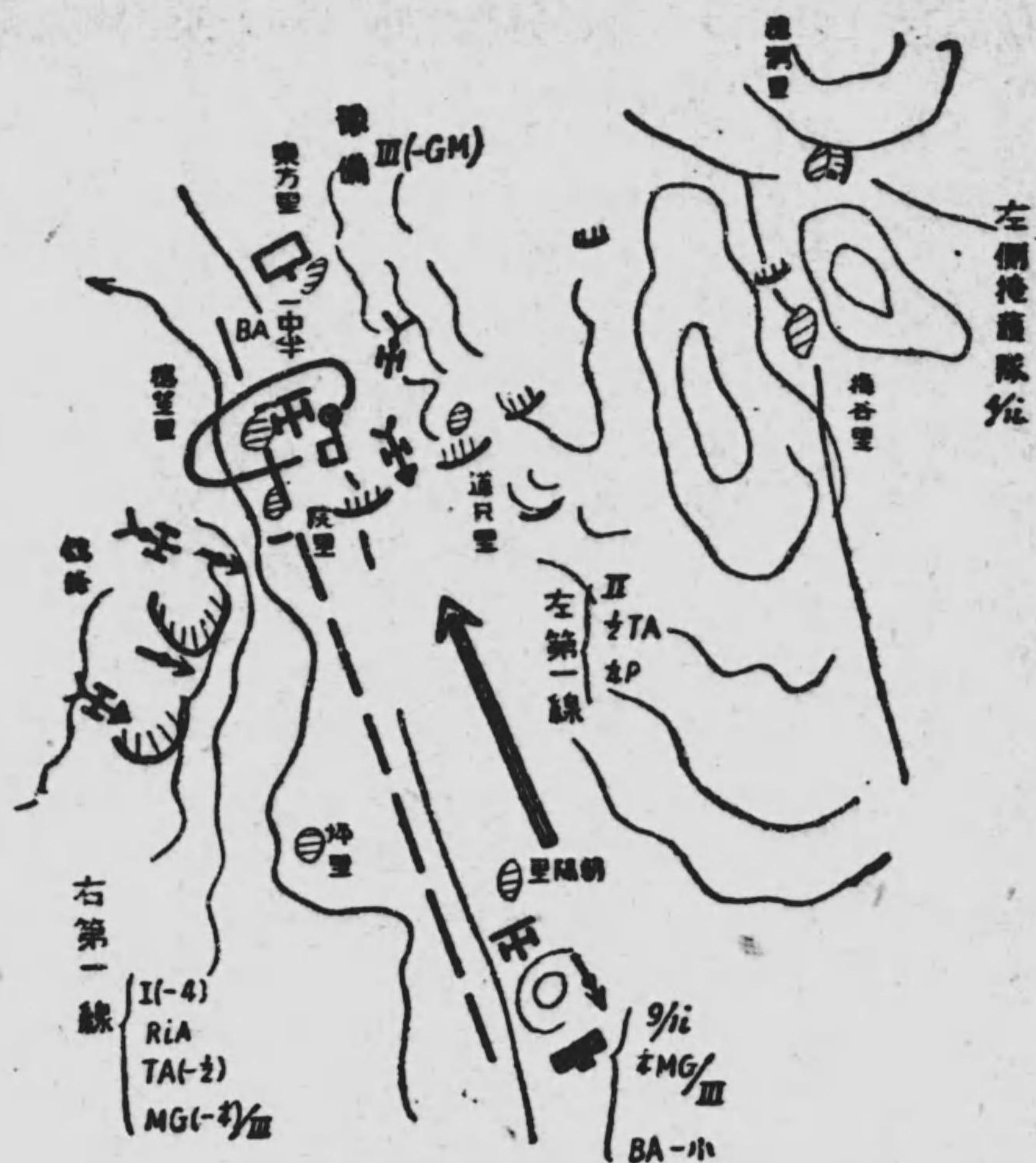
第九問題原案

方針

左地區隊ノ一部ヲ以テ敵ノ前進ヲ遲滯セシムルト共ニ主力ヲ以テ鵠峰、院里、道只里ノ線ヲ占領シ主トシテ火力ヲ以テ右第一線ヲ、白兵ヲ以テ左第一線ヲ充實シ敵ヲ陣前ニ擊滅ス

第十問題

先ヅ「文祿ノ役ニ於ケル慶州爭奪戰」ニ就キ研究シ之ニ伴フ教訓竝ニ所見ヲ述ブベシ



文祿ノ役ニ於ケル慶州爭奪戰

第一 我方軍ノ慶州占領

文祿元年四月加藤清正ヲ主將トスルニ番隊ハ梁山—慶州道ヲ北進ス慶州ノ守將其ノ風ヲ望ミ戰ハ

ズシテ逃ル

清正即チ其ノ城ヲ奪ヒ部將坂川采女及大木戸某ニ兵力五百餘ヲ屬シテ之ヲ守ラシメ自ラ主力ヲ以テ善戰シ遠ク咸北地方ニ進出ス

第二 我方軍ノ慶州放棄

時ニ小西行長平壤ニ敗レテ京城ニ退クヤ明軍大舉シテ南下ストノ報傳ハリ南鮮各地ハ所在ニ義勇兵起リ後方兵站線ヲ擾亂スルモノ續出シ漸ク騷然タルモノアリ是ニ於テ先ニ鵠院、密陽ニ敗レタル左兵使朴晋ハ密カニ四方ニ檄ヲ飛バシテ散民ヲ集ム
乃チ集ルモノ萬餘(二、三千ナラン)ニ及ブ朴晋之ヲ率キテ進ンデ慶州ヲ攻略セントス
守將坂川采女之ヲ知り謀ヲ設ケテ潛カニ兵ヲ北門ヨリ出シテ之ヲ伏セシメ敵ノ南門ヲ攻ムルヤ急ニ起ツテ其ノ背後ヲ衝キ前後挾擊シテ大イニ之ヲ敗リ殆ド晋ヲ生擒セントシテ遂ニ之ヲ逸セリ晋ハ身ヲ以テ辛ウジテ遁レ安東(慶北ニ在リ)ニ隠レタリ

其ノ後李長孫ナル者アリ震天雷ト稱スル爆彈ヲ發明ス朴晋是ニ於テ三度起ツテ兵ヲ集メ再ビ慶州城ヲ攻メ震天雷ヲ城中ニ投ズ

城兵大イニ怪ミテ馳セ集リテ之ヲ見テ私議ス俄ニシテ震天雷爆發シテ其ノ音聲天地ヲ震動シ鐵片

碎ケテ我が兵ノ死スル者三十餘人其ノ中ラザルモノト雖モ顛到シテ地ニ打タル者多ク城兵爲ニ
大イニ驚キ騒グ

朴晋勢ニ乗ジテ盛ンニ震天雷ヲ飛バシ晝夜之ヲ攻ム城兵支フル能ハス遂ニ城ヲ棄テ西生浦ニ退ク
朴晋乃チ慶州城ヲ奪ヒ之ニ入ル城中ニ在ル處ノ穀米萬餘石ニ及ブ朴晋ノ慶州城ヲ復スルヲ傳ヘ聞
クヤ諸道ノ義勇兵一時ニ蜂起セリ

第十問題原案

文祿ノ役ニ於ケル慶州爭取戰ニ對スル教訓竝ニ所見

一、準備不十分ナル所必勝ノ信念ノ確保ハ困難ナルベシ

文祿ノ役ハ朝鮮ニ取リテハ全ク豫期セザリシ戰爭ナリキ我が軍ノ釜山上陸ヲ見テ修交使ナリト
輕ク思ヒ甲冑嚴メシキ狀ヲ見テ多少薄氣味惡ク感ジ我が軍大邱ニ迫ルモ尙京城ニ在リテハ變ヲ
知ラザリシモ當時ノ朝鮮ハ全ク不意ノ戰爭ヲ仕掛ケラレタルモノニシテ物心兩方面共ニ何等戰
爭準備無カリシハ事實ナリ故ニ加藤軍一度慶州ニ迫ルヤ守將爲ス所ヲ知ラズ逃レ去リタルハ必
ズシモ了解ニ苦マザル所ナリ

吾人ハ決シテ斯クノ如キ行爲ヲ肯定シ自ラモ亦斯クノ如クナルベシトハ斷ジテ思考セザルモ如
何ニ無準備ノ放心狀態ガ全ク信念ヲ喪失セル失心狀態ニ陥ラシムルカノ教訓ヲ味ハザルベカラ
ズ又我が軍ニアリテモ嘗テ豫期セザリシ奇襲兵器タル震天雷ノ威力ニ一度潛伏セラルルヤ再ビ
戰フ力ナク遂ニ城ヲ放棄シテ十數里ノ山岳ヲ算ヲ亂シテ逃レ去リタルニアラズヤ而モ當時朝鮮
全土ヲ席卷シタル常勝日本軍而モ數百年來戰國時代ニヨリ訓練セラレタル將兵タルニ想到スル
トキ思半バニ過グルモノアリ

二、一度敗レタル敵ナリト雖モ之ヲ侮ルハ殆シ

積極企圖心ニ富ム軍隊ハ縦ヒ悲境ニアリト雖モ常ニ禍ヲ轉ジテ福ト爲ス迫力ト彈力性ト有ス
然リ而シテ一度油斷センカ小敵タリトモ遂ニハ侮ルベカラザル大敵ト化スルハ古人ノ戒ムル所
アマリニモ平凡ナル茶飯事ナリ然レドモ吾人ハ茲ニ再思三省シテ其ノ茶飯事ニアラザル重大教
訓ナルヲ銘心スルヲ要ス蓋シ坂川采女ハ其ノ一度朴晋ノ攻撃ヲ受クルヤ積極的反撃ヲ企圖シ寡
兵以テ遂ニ能ク之ヲ包圍殲滅セリ然ルニ再度朴晋ノ反撃ヲ受クルヤ城中ニ在リテ平然タリ而モ
震天雷ヲ弄シテ爆死スル兵ヲ制シ得ザリシガ如キハ全ク小兒病痴呆ノ徒ナリ
震天雷一箇ノ爆發ハ暫ク之ヲ許スモ既ニ二箇、三箇ニ及ババ武將タル者決然トシテ起タザルベ

カラス又驕然トシテ自己ノ責務ヲ大悟セザルベカラス吾人ハ本短史ヲ繕キ此ニ至リ卷ヲ掩ウテ長嘆セザルヲ得ザルナリ

三、奇襲兵器ノ威力ハ物的實效ヲ遙カニ凌駕ス

戰ノ妙ハ「先ノ先」ナリ積極主動ノ地位ハ此ニ生ル奇襲兵器ノ價值亦此ニアリ而モ之ガ對應策ヲ容易ニ考究シ得ザルニ於テ絶對的主動ノ地位ハ確保セラルルナリ震天雷ノ發明ハ此ノ間ノ消息ヲ語ツテ十二分ナルモノアリ

四、朴晋ノ慶州攻略作戰目標トシテ適當ナリトス

慶州ハ南鮮ニ於ケル政戰兩略ノ要衝ナリト謂ハンヨリハ寧ロ新羅一千年ノ歴史ヲ擔フ南鮮第一ノ古都ニシテ走卒兒童ト雖モ知ラザルナキ地名ナリ故ニ寡弱部隊ヲ以テスル「ゲリラ」戰術ノ目標トシテハ其ノ宣傳價值絶對的ナルモノ恐ラク慶州以外ニハ他ニ多ク求ムル能ハザルベシ況ンヤ日本軍ノ防備必ズシモ至嚴ナラザリシニ於テ特ニ然リトス

狀況 第十一

一、旅團ハ第八問題原案ノ如ク慶州確保ノ爲萬全ヲ期シ用意オサシ、怠リナカリシガ海軍ノ南方

海正面ヨリスル牽制ニ欺騙セラレタルモノノ如ク釜山ノ敵ハ遂ニ北上スルニ至ラズ

又大邱方面ノ敵ハ一時光明里附近迄殺到シタルガ旅團ノ果敢ナル攻勢ニ依リ遂ニ眞面目ナル決戰ヲ遂行スルノ勇ナク永川方面ニ退避シテ復タ來ラズ

慶州附近兵站施設ハ著々進捗中ナリ

二、斯クテ二月六日ニ至ルヤ軍ノ先著兵團ハ海ヲ掩ウテ迎日灣ニ到著シ軍司令部亦二月七日早朝浦項ニ入港ス

二月七日正午旅團長ハ左記要旨ノ軍命令ヲ受領ス

1、軍ハ主力ヲ以テ大邱方向ヨリ慶南地方ニ進出シ敵ヲ求メテ擊碎セントス

2、獨立混成旅團ハ速カニ朝陽里附近ニ兵力ヲ集結スルト共ニ二月十日日沒行動ヲ開始シ蔚山方向ヨリ慶南地方ニ策動シ軍主力ノ作戰ヲ容易ナラシムベシ

三、是ニ於テ旅團長ハ慶州附近ニ於ケル防備ヲ軍先著兵團ト交代シ先ヅ朝陽里附近ニ兵力ヲ集結シ次イデ南進ヲ開始セントス

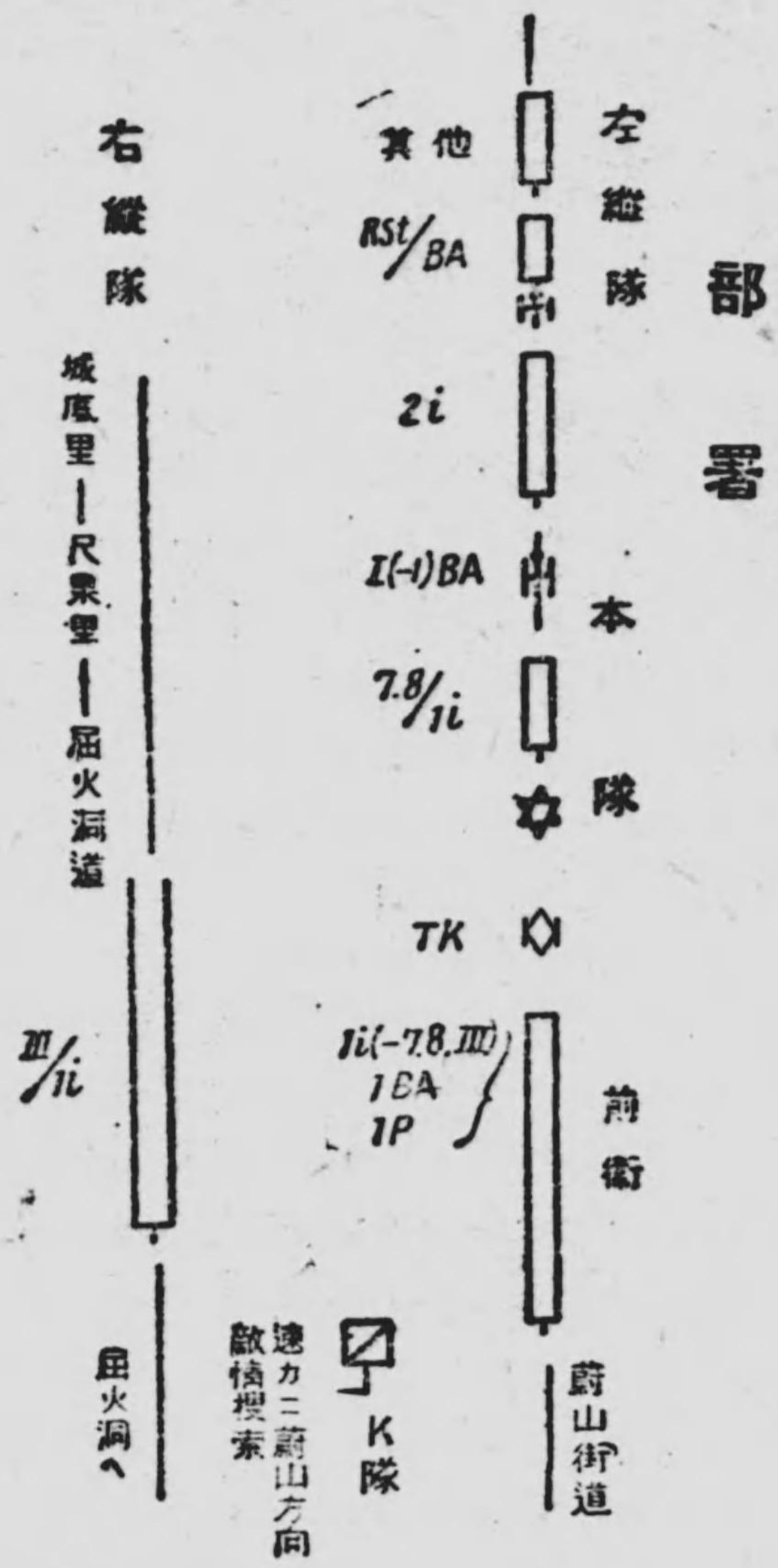
第十一問題

旅團前進ノ爲部署要圖

第十一問題原案

方針

旅團ハ敵ト遭遇ヲ豫期シ二縱隊トナリ重點ヲ蔚山街道上ニ保持シ先ヅ蔚山ニ向ヒ前進ス



狀況 第十二

一、二月十日日没ト共ニ諸隊ハ宿營地出發所命ノ行軍序列ニ從ヒテ南進ヲ開始ス此ノ夜寒氣凜冽肌ヲ刺スモノアリシモ將兵ノ志氣益々旺盛ナリ

二、明クレバ二月十一日紀元ノ佳節ナリ遙カニ東天ヲ拜シテ連戰連勝ヲ誓フ將兵ノ歩武正ニ堂々タリ

三、左縱隊前衛司令官ハ此ノ朝南方ヨリ歸來セル諜者ノ言ニ依リ釜山方向ヨリ優勢ナル敵北上中ナルヲ知リ前兵ノ先頭ニ躍進シテ前進中ナリシガ九時二十分蔣峴洞東側ヲ通過中我が騎兵隊ノ報告ニ依レバ約二、三大隊ノ敵ハ九時稍、過鶴城山及其ノ西北側高地ニ達シ停止セルガ如シト

第十二問題

左縱隊前衛司令官處置アリヤ

第十二問題原案

前衛司令官ハ直チニ兵營西側臺上ニ急行戰場ヲ大觀セントス

狀況 第十三

左縱隊前衛司令官ハ馬ヲ馳セテ兵營西側臺上ニ急進シ敵情ヲ偵察スルニ敵ノ兵力ニ大隊ヲ出テザルモノノ如ク目下工事ニ著手セントシテ器具ノ分配ヲ爲ス者アルヲ目撃ス

第十三問題

前衛司令官ノ決心

第十三問題原案

決心

前衛ハ直チニ當面ノ敵ヲ獨力攻撃セントス

第十四問題

左縦隊前衛攻撃ノ爲ノ部署要圖

第十四問題原案

次頁要圖ノ如シ

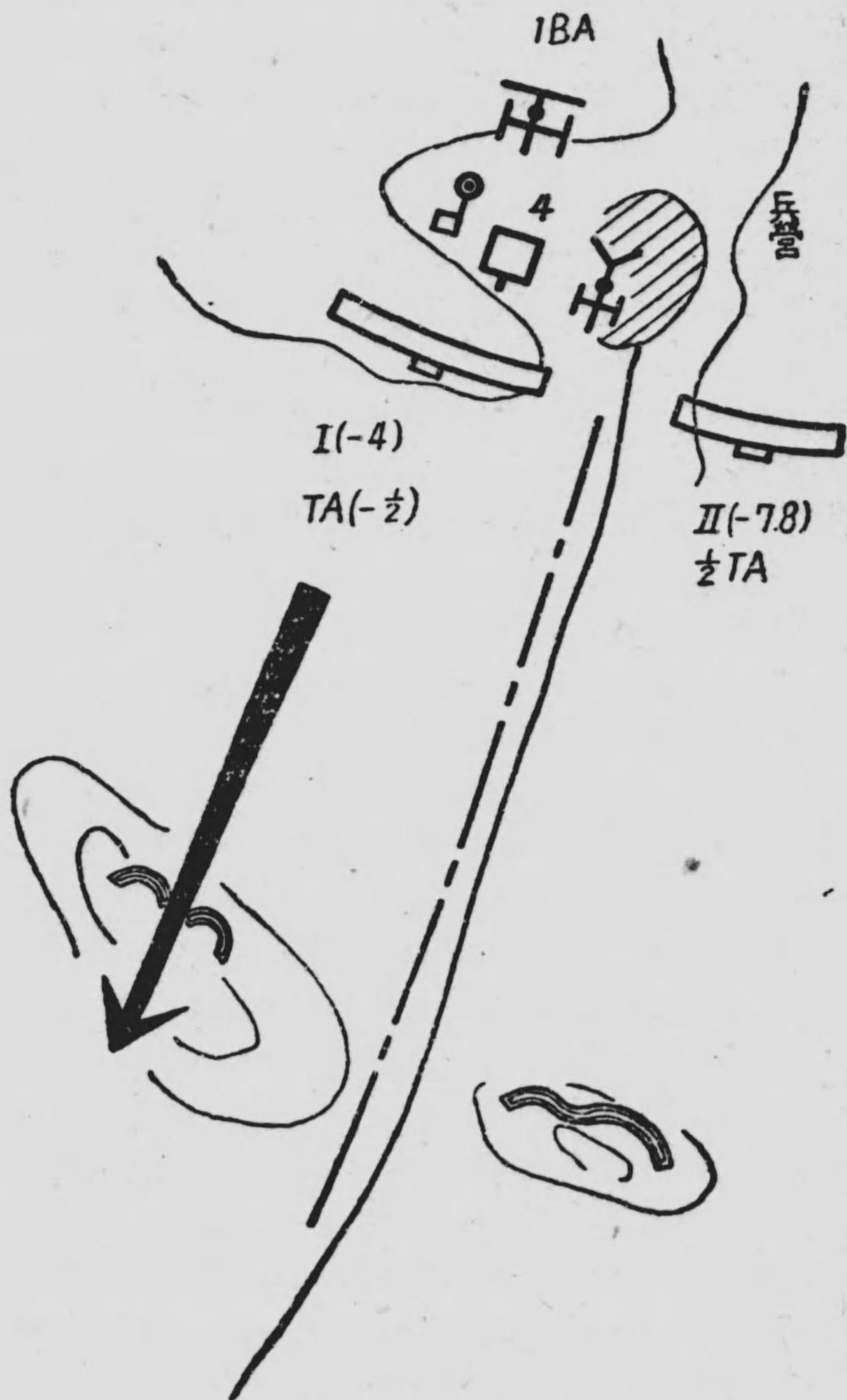
狀況 第十四

一、旅團長ハ九時四十分馬ヲ馳ツテ左縦隊前衛司令官ノ許ニ到リ前研究ノ如キ決心及處置ヲ承知

圖要署部擊攻前衛隊縱左

針 方

ス略攻擧一ジ乗ニ完未領占地陣ノ敵



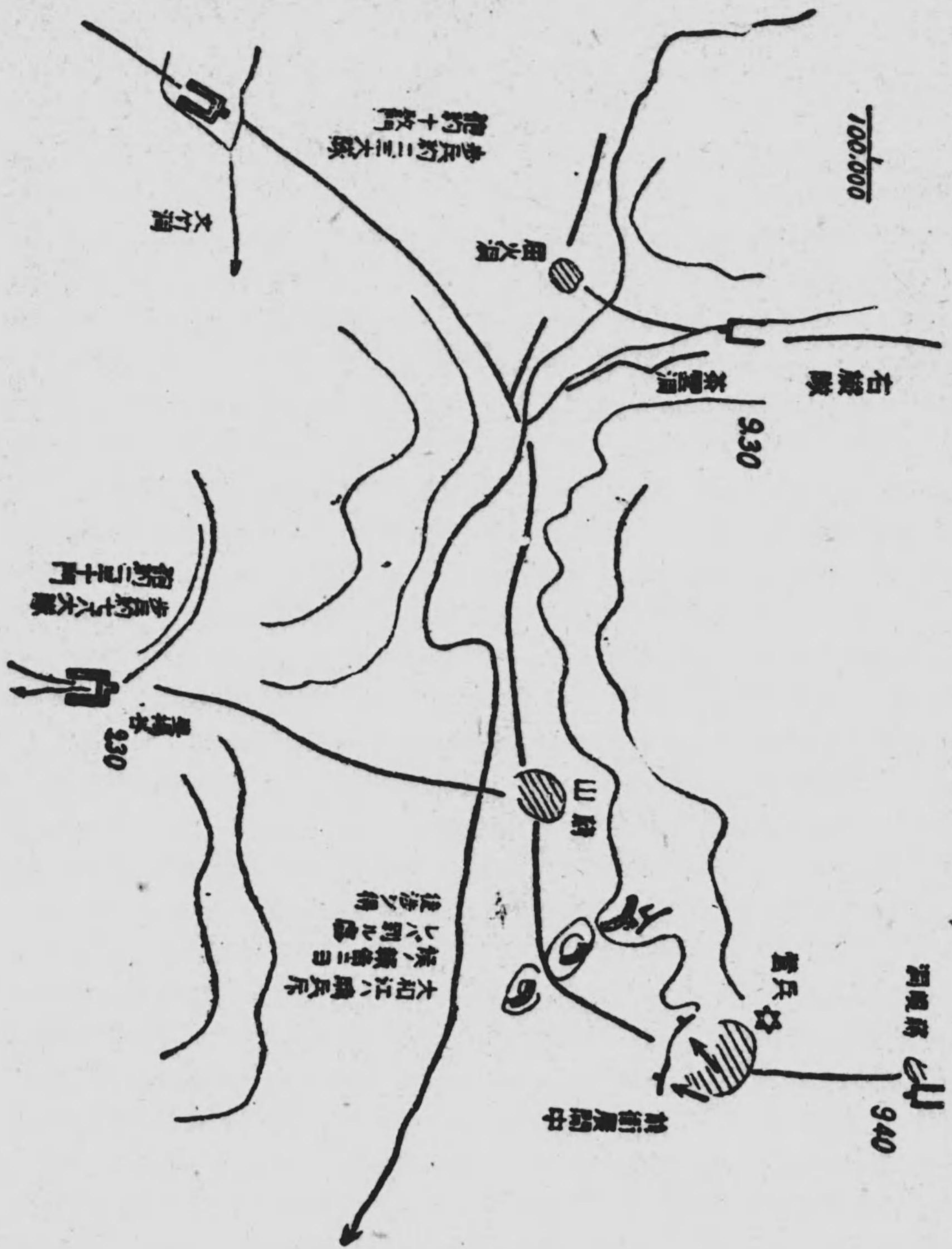
シ之ニ同意スルト共ニ戰場一般ノ地形ヲ大觀ス

二、此ノ時迄ニ協力飛行機其ノ他ニ依リ旅團長ノ知り得タル彼我ノ狀況次頁要圖ノ如シ

第十五問題

獨立混成旅團蔚山附近遭遇戰指導要領

圖要況狀ハタ得リ知ノ長團旅ニ迄時九



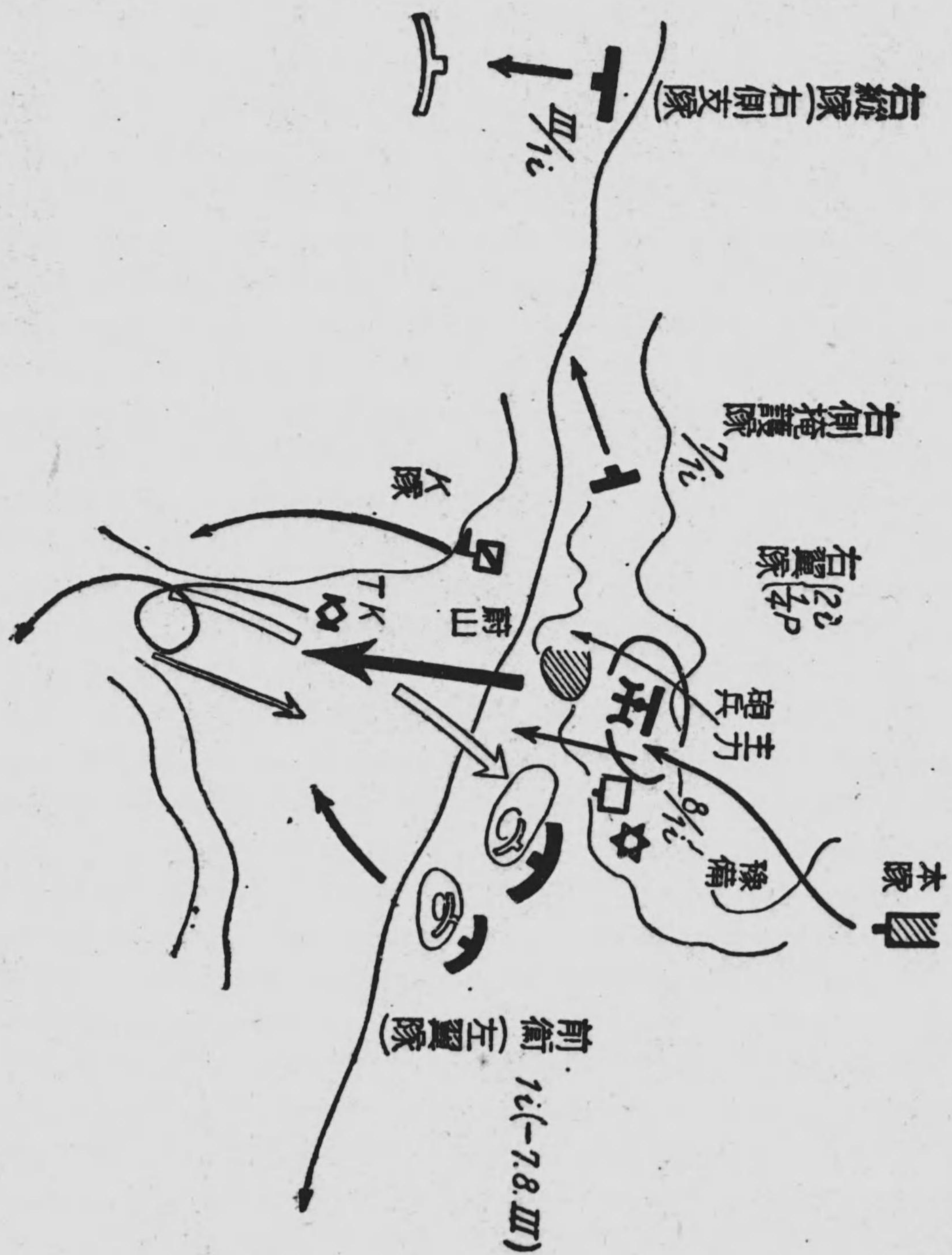
第十五問題原案

方針

旅團ハ一部ヲ以テ敵先遣隊ヲ拘束シ主力ヲ以テ敵海岸道部隊ノ隘路進出ニ乗ジ各個ニ之ヲ撃破ス

指導要領

- 一、前衛ハ直チニ敵先遣隊ヲ攻撃シ達洞方向ニ進出ス
爾今右翼隊トシ山砲及工兵ヲ旅團長ノ直轄トス
- 二、歩兵第二聯隊ハ直チニ蔚山方向ヨリ直路達洞方向ニ攻撃シ敵進出中ノ隘路口ニ殺到セシム爾今右翼進出中隊トス
- 三、戦車隊ハ直路達洞ニ慕進シ敵ノ隘路進出ヲ妨害シ且敵砲兵ヲ求メテ蹂躪ス、爾後右翼隊ト協力
- 四、砲兵隊(前衛砲兵ヲ復歸ス)ハ主トシテ右翼隊ニ協力
- 五、右翼隊ハ東萊街道ノ敵ヲ攻撃シ旅團主力ノ戦鬪ヲ容易ナラシム
- 六、歩兵第一聯隊第七中隊ハ右側掩護隊トナリ東萊街道方向ノ敵ニ對シ旅團ノ右側ヲ掩護



- 七、工兵隊主力、〇〇小隊ハ旅團長ノ直轄トシ歩兵第一聯隊第八中隊ハ豫備隊トス
- 八、騎兵隊ハ達洞方向ノ敵ノ左側背ヲ脅威セシム
- 九、戰圖指導ノ概要要圖ノ如シ

第十六問題

別冊『慶長ノ役蔚山籠城ニ關スル戰史』ヲ研究シ教訓竝ニ所見ヲ求ム
(別冊)

慶長ノ後蔚山籠城ニ關スル戰史

(主トシテ參謀本部編纂日本戰史ヨリ抄録ス)

第一、戰圖前彼我ノ狀況

慶長二年十月我が軍ノ全羅、忠清二道ヨリ沿海地方ニ退クヤ地ヲ相シテ各所ニ築城ス。蔚山城ハ其ノ一ナリ。本城ハ我が軍ノ最右翼ニ當リ西生浦城ト共ニ加藤清正ノ所管ニ屬シ兩者ノ距離水陸兩方面共ニ概ネ六里ノ行程ニ在リ。清正ノ躬ヲ設計スル所ニシテ、十月中旬其ノ部將加藤安政、

九鬼廣隆等兵三千人、淺野長慶(後ノ幸長)兵三千人、毛利秀元ノ部將宍戸元續、三澤爲虎等兵一萬ヲ以テ工事ヲ擔當シ、太田一吉之ヲ監ス。

城ハ蔚山府邑ノ東方約十餘町ノ島山ニ在リ。突兀タル孤立ヲ以テ牙城ト爲シ本丸其ノ南部ヲ占メ高サ約五十米、東西約一町、南北約半町其ノ北方稍、低キ部分ニ二之丸ヲ置ク。東西約一町、南北二十間許リ。三之丸ハ其ノ西北ニ突出シ東西約二十間、南北約一町アリ。我が軍附邑ノ城郭ヲ毀テ其ノ石材ヲ搬致シテ之ニ高サ七間半乃至九尺、延長七百六十餘間ノ石壁ヲ築キ、大小ノ城櫓十二ヲ置キ城門ヲ開ク。外郭東北西ノ三面ヲ繞リ土堤ヲ築キ木柵ヲ樹ツ。其ノ長サ一千四百間餘、南方ノ一面太和江ノ水ニ臨ミ船舶直チニ城下ニ到ルベシ。我が軍之ヲ新城ト呼ビ鮮人之ヲ甌城ト稱ス。十二月下旬城郭略、成ルニ垂ントシ突然明鮮聯合軍ノ襲撃ヲ受クルニ至レリ。

明ノ經略楊鎬、提督麻貴共ニ京城ニ在リ、宣、大浙、福等ノ兵相繼デ來リ、十一月下旬總督邢玠亦遼東ヨリ來リ會ス。是ニ於テ諸將相議シテ曰ク、釜山ハ敵ノ本據ナリ、然レドモ路險ニシテ備堅シ、宜シク先ヅ蔚山ヲ攻メ以テ敵ノ右臂ヲ斷ツベシト。十二月三日(明曆四日)三將壇ニ上リ天地ニ祭告シ諸將士ヲ會シテ盟ヒ、諸軍ニ令シ齊シク銃砲ヲ發射セシム。其ノ聲天地ニ震フ。此ノ日先鋒京城ヲ發シテ梯次南下シ七日鎬、貴後軍ヲ率キテ之ニ續ク。邢玠兵數千ヲ以テ京城ニ留

レリ。南下セル明軍合計四萬四千八百人、之ヲ三協ニ區分シ、銃砲一千二百四十餘、火箭十一萬八千、火藥六萬九千斤、彈丸百七十萬六千斤ヲ携へ、遼陽分守張登雲之ガ運輸ヲ掌ル。

朝鮮ノ都元帥權慄以下兵一萬二千五百人分レテ三協ニ屬ス。鎬別ニ遊擊黨正誼ヲシテ精騎一千五百ヲ率キ所在ノ鮮兵ヲ合セ天安、全州ヲ經テ南原ニ赴キ、以テ順天方面ノ日本軍ヲ牽制セシメ又中協ノ兵ヲ義城ニ先遣ス。鎬尋デ忠州、鳥嶺、安東ヲ經テ十七日義城ニ到リ朝鮮ノ接伴使李德馨ニ命ジ鮮人呂余文ヲシテ倭裝ヲ爲シ密カニ往イテ蔚山ヲ偵察セシメ、十九日中協ノ兵ヲ合セ進ンデ慶州ニ駐マル。翌日呂餘文回リ袖中ヨリ島山城ノ圖ヲ出シテ之ヲ示シ、且曰ク城未ダ完成セズ、兵寡ク備亦堅カラズト。鎬大ニ喜ビ急ニ諸將ヲ招キ圖上ニ前進路ヲ朱書シテ之ヲ示ス。即チ左協ハ東路ヨリ、中協ハ中路ヨリ、右協ハ西路ヨリ一時ニ並ビ進マシム。其ノ部署左ノ如シ。

左協

馬、歩兵一二、六〇〇人

副總兵李如梅、忠清兵使李時言等

鮮兵四、〇〇〇人之ニ屬ス

中協

馬、歩兵一一、七〇〇人

副總兵高策、慶尙道右兵使成允門等

鮮兵五、二〇〇人之ニ屬ス

右協

馬、歩兵一一、六〇〇人

副總兵李芳春、慶尙道左兵使鄭起襲等

鮮兵三、三〇〇人之ニ屬ス

本軍 兵八、五〇〇人

經略 楊鎬

提督 麻貴

兵力合計 五七、〇〇〇人

第二 蔚山防禦戰鬪ノ經過

二十一日(明曆二十二年)三協ノ兵同時ニ慶州ヲ發ス。麻貴乃チ副總兵吳惟忠ヲシテ歩兵四千ヲ率キ彦陽ニ赴キテ釜山、梁山方面ヲ扼シ、參將盧繼忠ヲシテ馬兵二千ヲ以テ水路ノ敵ヲ監視セシメ、躬ヲ參將楊登山、游擊擺賽、頗貴等ノ馬兵數千ト急行シ夜半蔚山ノ北方約六里ノ地ニ到リ、

擺賽ヲ先鋒トナシ楊登山ヲシテ之ニ次ギ未明ニ乘ジ我が軍ノ假營ヲ急襲セシム。

時ニ我が軍ニ於テハ清正西生浦ニ駐在シ蔚山築城ノ諸部隊ハ城西ノ假營ニ在リ、城郭ノ經營略、成レルニ因リ糧食雜品等ヲ水路釜山ニ輸送シ不日將ニ城郭ヲ清正ニ交付シテ撤退歸朝ノ途ニ就カシトシ、頗ル警戒ヲ怠レリ。

二十二日未明擺賽、楊登山等蔚山府邑(我が軍之ヲ古館又ハ古城ト呼ブ)ニ到リ、擺賽先ヅ輕騎一千ヲ以テ毛利ノ部將冷泉元滿、阿曾沼元秀、都野家賴等ノ假營ヲ襲撃シ、火箭ヲ發シテ之ヲ火ク。我が士卒驚キ起チ俄カニ出デテ之ヲ防ギ死傷頗ル多ク元滿、元秀、家賴等奪戰シテ之ニ死ス。我が軍始メ銃聲ヲ聞キ是我が士卒ノ曉ニ出デテ白鳥ヲ獵スルモノナラント思惟セシガ、此ノ警報ヲ得テ結束之ニ赴ク。淺野長慶、加藤ノ部將加藤與左衛門等直チニ進ンデ毛利ノ部將宍戸元續等ヲ援助シ、太田一吉亦兵五、六百ヲ以テ府邑方向ニ進ム。

時ニ六時頃ナリ。擺賽我が軍ノ大イニ出ヅルヲ見伴リテ退却シ、楊登山ノ馬兵二千ト合シテ返戰ス。偶、遊擊頗貴、副總兵李如梅等ノ兵亦到リ將ニ我が軍ヲ包圍セントス。一吉之ヲ曉リ長慶ニ謂ウテ曰ク、是尋常ノ敵ニアラズ惟フニ敵大イニ伏兵ヲ置キテ我ヲ誘ヒ以テ我が軍ノ後方ヲ斷タントスルモノナラント。長慶之ヲ領ス。一吉乃チ令ヲ諸隊ニ傳ヘ速カニ退却シ直チニ城中ニ入

ラシム。是ニ於テ加藤ノ兵ハ太田ノ兵ト共ニ山手ノ路ヨリ、長慶、一吉ハ毛利、淺野ノ二隊ト共ニ、其ノ南方ノ路ヨリ退却ヲ開始ス。明軍之ヲ認メ追撃スルコト甚ダ急ナリ。

加藤ノ部將加藤與左衛門、九鬼廣隆、酒井善助、喜田孫兵衛、加藤安行(安政ノ子)等交、殿戰シテ屢、敵ヲ擊攘シツツ退ク。長慶ハ其ノ隊ヲ二分シ淺野忠知ノ隊ヲ先ヅ小流ノ對岸迄退ケ、淺野忠吉ノ隊ノ退却ヲ收容セシメ、敵ノ近ヅクヲ待チテ銃ヲ發シ交互返戰スルコト三合、毛利兵ハ騎士ヲ前後ノ二段ニ、步卒ヲ圓陣ニ備ヘテ且戰ヒ且退キシガ遂ニ潰亂セリ。吉見廣行手兵五百ヲ以テ殿戰シテ友軍ヲ掩護シ、成和紀伊守槍ヲ揮ヒテ敵陣ヲ突ク。是ニ於テ長慶等本道ニ出デ躬ヲ敵ノ追撃ヲ拒止ス。其ノ勢甚ダ急ナリ。淺野ノ士龜田高繩、太田源左衛門、岡野彌右衛門、森島新吾等馳セテ之ヲ救ヒ、太田以下ノ三士之ニ死シ、高繩獨リ敵ノ一部將ヲ斬リテ退キ、長慶等纒カニ城ニ入ルコトヲ得タリ。時ニ十一時頃ナリ。

長慶、一吉、元續等相議シテ諸隊ヲ部署シ外郭ノ配備ニ就カシム。其ノ區分左ノ如シ。

外郭東面	淺野長慶
北面	宍戶元續、加藤與左衛門等
西面	太田一吉

牙城(本丸及二、三之丸)

加藤安政

此ノ日ノ戰我が軍ノ戰死四六〇餘、負傷太田一吉以下若干。

明軍ノ主力ハ行軍中ニシテ先鋒ノ兵力寡キニ因リ此ノ日ハ攻城ヲ開始セズ、盡ク城外ナル我が假營ニ放火シ夕刻左協ノ兵ハ城東ニ、中協ノ兵ハ城北ニ、右協ノ兵ハ城西ニ屯ス。經略楊鎬亦到リ提督麻貴ト共ニ城北古鶴城山ニ陣シ以テ諸軍ヲ督ス。我が將士相謂ヒテ曰ク、今日ノ戰、敵若シ急ニ城ヲ攻メナバ我が軍遺類ナカラン。然ルニ唐人輩ガ動作ノ緩慢ナル空シク此ノ好機ヲ逸シ小利ニ甘ンジテ兵ヲ收メ、我が軍ヲシテ備フル所アラシメシハ我が軍ノ幸慶ナリト。

長慶ノ城ニ入ルヤ近臣木村甚藏ニ駿馬ヲ與ヘ、直チニ西生浦ニ赴キ急ヲ清正ニ告ゲシム。清正之ヲ聞キ老臣等ニ謂ツテ曰ク「蔚山ハ是我ガ擔當ノ城ナリ、萬一之ヲ敵手ニ委セバ予何ノ顔アリテ太閤ニ對セン、且予ノ本國ヲ出ヅルヤ彈正(淺野長吉)予ニ左京(長慶)ヲ託ス、若シ予ノ入城遲延シ左京空シク死セバ永ク信ヲ天下ニ失ハン。」ト。乃チ部將加藤美作、片岡右馬允等ヲ留守ト爲シ援兵ヲ釜山ニ請ハシメ直チニ結束シテ起チ、左右二十人許リト開舟(中型ノ軍艦)一隻ニ搭ジ、急航シテ此ノ夜蔚山ニ達シ、二十一時頃城ニ入り、長慶ニ面シテ敵情ヲ問ヒ、諸部將ヲ會シテ軍議シ、即夜左右數人ニ命ジ直チニ舟ヲ回シテ西生浦ニ到リ其ノ兵ヲ招致セシム。城兵清正ノ來ル

ヲ聞キ志氣爲ニ振フ。然レドモ城中ノ貯糧甚ダ乏シク、僅カニ兩三日ヲ支フルニ足ラザリキ。

二十三日四時頃明鮮軍前進ヲ起シ、左協ノ兵ハ東面ヨリ、中協ノ兵ハ北面ヨリ、右協ノ兵ハ西面ヨリ外郭ニ逼リテ六時頃一齊ニ攻撃ヲ開始シ楊鎬躬ヲ甲ヲ擲シ戰ヲ督ス。銃砲ノ聲天地ニ震フ。我が軍壘柵ニ嬰リカヲ極メテ防禦ス。明軍ハ先ヅ主攻擊方面ヲ城東ニ選ビ密集蟻附ス。長慶自ラ銃ヲ執リテ射擊シ士卒ヲ勵マシ、防戰最モ易メ、矢丸概ネ虚發ナク、敵屍山積シ、此ノ方面ノ攻撃自ラ緩メリ。既ニシテ明軍ハカヲ西面ニ專ニシ攻撃ヲ反復セシガ、十一時頃遂ニ西北ノ柵二重ヲ破リ遊擊柔國器浙兵ヲ以テ先登シ敵軍ノ外郭内ニ全入スル宛モ驚潮ノ如シ。我が軍且戰ヒ且退キ牙城ニ入ル。長慶及宍戸元續等後レテ退キ、明兵ノ背後ヨリ突貫シテ纒カニ城ニ入ルヲ得タリ。明軍從ツテ牙城ヲ攻ム。

清正二之丸ニ在リ躬ヲ銃ヲ執リテ敵ヲ狙擊シ、諸隊ヲ鼓舞シテ防戰ス。加藤、淺野、太田ノ勇士數十人門ヲ開キテ出擊シ、首級ヲ得テ回ヘル。明軍遂ニ攻撃ヲ中止シ城ヲ圍シテ陣セリ。朝鮮ノ接伴使李德馨等鎬ニ面シテ戰捷ヲ賀シ且謝辭ヲ述ブ。鎬笑ツテ曰ク、是小捷ナリ、吾ガ西生、釜山ノ敵ヲ殲スヲ待チテ其喜ヲ言フベシト。此日ノ戰我が軍ノ戰死六六〇餘人、城中ニ於テハ牙城ノ部署ヲ左ノ如ク定ム。

本 丸

東側 太田一吉

南側 淺野長慶

西側 加藤兵加藤安政

二之丸

加藤清正

毛利兵宍戸元續、桂孫六

三之丸

加藤兵加藤與左衛門、近藤四郎右衛門

毛利兵口羽元良、和知元盛、日野元重、吉見廣行

二、三之丸ノ中間

加藤兵美濃部金太夫、九鬼廣隆

曩ニ清正ガ西生浦ヨリ召致セシ其ノ部兵若干、艦船二、三十隻ニ搭ジ此ノ日十四時頃大和江ヲ溯リテ城ノ附近ニ來リシガ、明軍浙江兵ノ一隊江岸ヲ遮斷シ布陣スルニ因リ城ニ入ルコトヲ得

ズ。銃火ヲ交換シテ後江ヲ下リ鹽浦ニ泊ス。

此ノ夜太田ノ士田中小左衛門健士五十許リヲ率キ敵陣ヲ夜襲シテ回ル。

二十四日八時過ギ明軍三面ヨリ均シク牙城ニ逼リ各種ノ火砲、火箭ヲ發射シ、就中其ノ力ヲ東面ニ專ニス。楊鎬躬ヲ陣ニ臨ミ遲延スル兵卒二人ヲ斬リ以テ軍中ニ徇ヘ、必ズ城ヲ拔カンコトヲ期ス。左協將李如梅等部下ヲ激勵シテ雲梯、鐵塔ヲ持チ城底ニ迫ル。城壁高ク且堅ナリ。敵ノ士卒蟻附シテ仰ギ攻ム。我が軍極力防戦シ清正、長慶等手カラ銃ヲ執リテ敵ヲ射撃シ、以テ志氣ヲ振作ス。明軍死傷甚ダ多ク伏屍城底ニ累々タリ。遊撃陣寅亦丸ニ中リテ負傷ス。鎬更ニ新銳兵ヲ交代シテ反復攻撃スルコト七回ニ至リシモ、毎ニ我が銃火ノ爲ニ阻止セラレ、適、城壁ヲ攀ヅルモノアルモ悉ク我が軍ノ槍鋒ニ斃ル。此ノ日、我が軍防禦甚ダ努メ加藤安行ノ發射セシ銃彈二百七十發ニ及ビシト云フ。

四時鎬、鐘ヲ鳴ラシテ兵ヲ收ム。此ノ攻城中加藤ノ舟鹽浦ヨリ來リ江岸ノ敵ト戦ヒテ去ル。

此ノ夜宍戸ノ士渡邊壹崎、難波三郎兵衛等兵若干ヲ率キテ城ヲ出デ敵陣ヲ襲撃シテ回ル。

楊鎬、李德馨ヲ召シテ曰ク「鮮兵宜シク薪柴ヲ準備シ以テ火攻ノ用ニ供スベシ、且城中糧ナク井泉亦乏シ、須ラク一隊ノ人馬ヲ以テ其ノ汲水路ヲ斷ツベシ」ト。德馨及都元帥權慄ト議シ金應

瑞ヲシテ一隊ヲ率キ爾後毎夜城南ノ汲水路ヲ斷タシメ天明ニ至リ退ク。

二十五日明軍ハ昨日ノ攻城ニ死傷極メテ多大ナリシニ因リ、其ノ整理ニ忙シク四面列圍シテ動かズ、諸兵ヲ休養セシム。楊鎬亦彥陽ニ駐屯セル吳惟忠ノ隊ヲ招致ス。

二十六日未明朝鮮ノ都元帥權慄等ノ兵挨牌(楯ノ類)ト乾柴トヲ持チ三之丸ニ逼リ、機ヲ見テ火攻ヲ實施シ、城櫓ヲ火カントス。

加藤與左衛門等銃ヲ攢メテ之ヲ射撃ス。彈丸牌ヲ透徹シテ敵ノ死傷頗ル多シ。鮮軍遂ニ牌ト柴トヲ放棄シ八時頃退却ス。此ノ夜近藤四郎右衛門等出デテ之ヲ燒夷ス。

二十七日天大ニ雨降ル。明鮮軍凍餒シテ戦心ナシ。翌日西風大ニ起リ寒氣凜冽士卒指ヲ墜ス者アリ。鎬乃チ諸軍ヲシテ草房ヲ設ケ久駐ノ計ヲ爲サシム。城中ニ於テモ亦糧食全ク竭キ紙ヲ嚼ミ馬ヲ屠リ或ハ夜間城外ニ出デテ敵屍ヲ探リ其ノ行糧ヲ得テ食フニ至レリ。士卒困憊疲勞シ或ハ寒氣ノ爲指ヲ墜シ或ハ銃ヲ執リシ儘凍死セシ者アリ。然レドモ將卒ノ意氣毫モ衰ヘズ。

二十八日未明、鮮軍柴草ヲ準備シテ三之丸ニ接近シ再ビ城櫓ヲ火カントセシガ、我が銃火ノ爲阻止セラレテ退ク。加藤ノ水軍モ亦來リ江岸ノ敵ト戦ヒテ去ル。

此ノ日岡本越後、楊鎬、麻貴ノ旨ヲ含ミテ明軍ヨリ來リ城門ノ守兵ヲ呼ビ和ヲ講ジ、兵ヲ弭メ

彼我ノ將領相會盟シ城ヲ開キテ退クベキコトヲ勸告ス。

岡本ハ元清正ニ屬シ罪ヲ獲テ海外ニ出奔シ明ニ仕ヘシモノナリト云フ。清正之ヲ聞キテ曰ク「是皇天我ヲ助クルナリ。惟フニ我が援軍既ニ近キニ在リ、不日來リテ我ヲ救ハン、然レドモ城中食竭キ彈藥亦乏シク、援軍ノ來リ救フニ及バザランコトヲ恐レタリ、今敵將幸ニ和ヲ請フ、我之ヲ利用シテ姑ク敵ノ攻撃ヲ緩メ、以テ矢丸ヲ節約シ士卒ヲ休息セシムベシ。」ト。乃チ會見ヲ約シテ去ラシム。

二十九日清正、幸長夜襲隊二箇ヲ放チ城ヲ出デテ敵陣ヲ擾亂シテ回ヘル。

第三 解圍軍ノ行動

是ヨリ先、蔚山ノ警報諸城ニ達ス(釜山、梁山二十三日、南海ニハ二十四日、泗川ニハ二十七日)。小早川秀秋釜山ニ在リ、乃チ老臣山口宗永ヲシテ代リテ赴援セシム。毛利吉成亦行ヲ偕ニシ、二十六日西生浦城ニ入り、翌日未明吉成、宗永左右數十人ト輕舸ニ搭ジテ海路蔚山ニ赴キ太和江ヲ遡リ、十一時頃城ノ附近ニ來リ、馬標ヲ揮ヒ城中ト信號ヲ交換シテ回ヘル。毛利秀元時ニ梁山築城ノ事ヲ督シ工ヲ竣リテ城南里許ノ地(蓋シ孤浦附近)ニ在リシガ、黒田長政ト議シ黒田如水ヲ城ニ留メテ赴援ノ途ニ就キ、長政及安國寺惠瓊、軍監竹中重利ハ二十七日、秀元ハ二十八日西生浦

城ニ著ス。二十九日秀元、長政、重利、宗永等輕舸ニテ太和江ニ入り、城ノ下流數町ノ處ニ到リ豫メ援軍ノ陣地ヲ偵察シ、又左岸ノ小丘(我が軍之ヲ小圓山ト稱ス蓋シ三山)ニ上リ、馬標ヲ以テ城中ニ示ス。城中之ヲ望見シテ志氣爲ニ振ヒ馬標ヲ揮ヒテ之ニ答フ。秀元等即日西生浦ニ還ル。

此ノ日、鍋島直茂父子ハ竹島城ヨリ加藤嘉明、脇坂安治ハ南海城ヨリ、其ノ他蜂須賀家政、生駒一正、早川長政等各、西生浦ニ來リ、翌正月元日垣見一直、熊谷直盛、長曾我部元親、中川秀成、池田秀氏、毛利膝永、秋月種長、高橋元種、伊東祐兵、相良頼房等泗川城ヨリ來リ會ス。宇喜多秀家、順天ノ築城ヲ爲セシガ之ヲ聞キ釜山ニ還ル。泗川ノ島津義弘、順川ノ小西行長、固城ノ立花統虎等ハ各、其方面ノ情況ヲ顧慮シテ敢テ援軍ヲ發セズ。

慶長三年正月二日、秀元西生浦ニ於テ諸將ト議シ赴援軍ノ部署ヲ定ムルコト左ノ如シ。

一番隊 四、五五〇人

一、六〇〇人 鍋島直茂、同勝茂

一五〇人 毛利吉成、同勝永、秋月種長、高橋元種、伊東祐兵、相良頼彦

二、二〇〇人 蜂須賀家正

六〇〇人 黒田長政

軍監早川長政、垣見一直、熊谷直盛、竹中重利各、小部隊ヲ率キテ之ニ續ク
二番隊 三、七七〇人

七〇人 加藤嘉明

五〇人 中川秀成

五〇〇人 生駒一生

二五〇人 脇坂安治

三、〇〇〇人 山口宗永

兵數未詳 池田秀雄

三番隊 三、九〇〇人

水軍

長曾我部元親、池田秀雄、加藤清正ノ兵

合計兵力 一、三〇〇〇人

水軍ハ即日鹽浦ニ赴カシム。

赴援軍ハ此ノ日西生浦ヲ發シ前進スルコト四里許ニシテ山地ニ陣シ(蓋シ下倉附近)、翌三日更ニ一里許リヲ進ミテ府邑ノ南方ナル一帯ノ高地ニ陣地ヲ占ム。曩ニ固城ヲ發セシ毛利高政、吉川

廣家等兵亦若干ヲ以テ此ノ日來リ會ス。旌旗翻々朔風ニ翻リ軍容大ニ熾ンニ城中望見シテ始メテ生色アリ。

第四 防禦軍最後ノ反撃ト攻勢移轉

之ヨリ先キ清正、幸長ハ援軍ノ既ニ近キニ在ルヲ知り正月元日連署ノ書ヲ裁シ籠城ノ顛末及糧食ノ絶無ヲ述べ、且曰ク「救援若シ成ラズンバ上下各、決心スル所アリ謂フ意ヲ安ンセヨ」ト。此ノ夜之ヲ淺野ノ士二人、太田ノ士一人ニ付シ潜カニ赴援軍ニ使シテ秀元等ニ呈セシメ、二日夜更ニ加藤ノ士一人ヲ出セリ。

明將楊鎬、麻貴ハ我が軍ノ水陸並ビ進ミテ城兵ヲ救援セントスルノ狀アルヲ見テ、二日擺賽、頗貴ノ二隊ヲシテ箭灘ニ赴キ水軍ヲ防遏セシメ、吳惟忠、葉國器ノ二隊ヲシテ邑南ノ江岸ヲ裁斷シ以テ陸路ノ援軍ニ當ラシム。三日使ヲシテ城門ニ到ラシメ約ノ如ク彼我兩將ノ會見ヲ要ム、城兵答ヘズ。

四日零時、明軍大舉城ニ向ヒ三面ヨリ總攻撃ヲ行フ。楊鎬心必ズ城ヲ陷レンコトヲ期シ、躬ラ陣頭ニ臨ミ士卒ノ退却スルモノヲ斬リ、以テ總軍ヲ激勵シ、又遊擊李化龍遂巡進マザルヲ捕縛シテ軍中ニ示ス。諸軍競ヒ進ミ、銃砲火箭ヲ城ニ注ギ吶喊ノ聲雷ノ如ク其ノ勢甚ダ猛烈ナリ。城兵

屈セズ銃ヲ以テ極力防戦シ、又巨石ヲ投ジテ敵ヲ粉碎ス。明軍死傷甚ダ多ク、遂ニ力取スベカラザルヲ知り、七時頃兵ヲ收ム。

時ニ右脇ノ兵來リ告ゲテ曰ク「諜報ニ依レバ敵ノ水師九十餘隻江ヲ遡リテ來リ陸路ノ十一倭將亦六萬ノ兵ヲ領シ正ニ我が軍後ニ出ヅルノ形勢ニアリ」ト。楊鎬乃チ背後ヲ遮斷セラレンコトヲ恐レ擺賽、楊登山、吳惟忠、葉國器ノ四隊ヲ殿軍ト爲シ擺、楊ノ二隊ヲシテ城兵及水軍ニ吳葉ノ二隊ヲシテ陸路ノ我が援軍ニ備ヘシメ、十時頃圍ヲ解キテ城高ノ高地ニ退キ逐次退却ニ就カシム。十五時頃撤退ヲ畢レリ。

城中ニ於テハ敵ノ退却ヲ知ルヤ、十時使ヲ我が水軍及陸路ノ援軍ニ派シ之ヲ告グ。

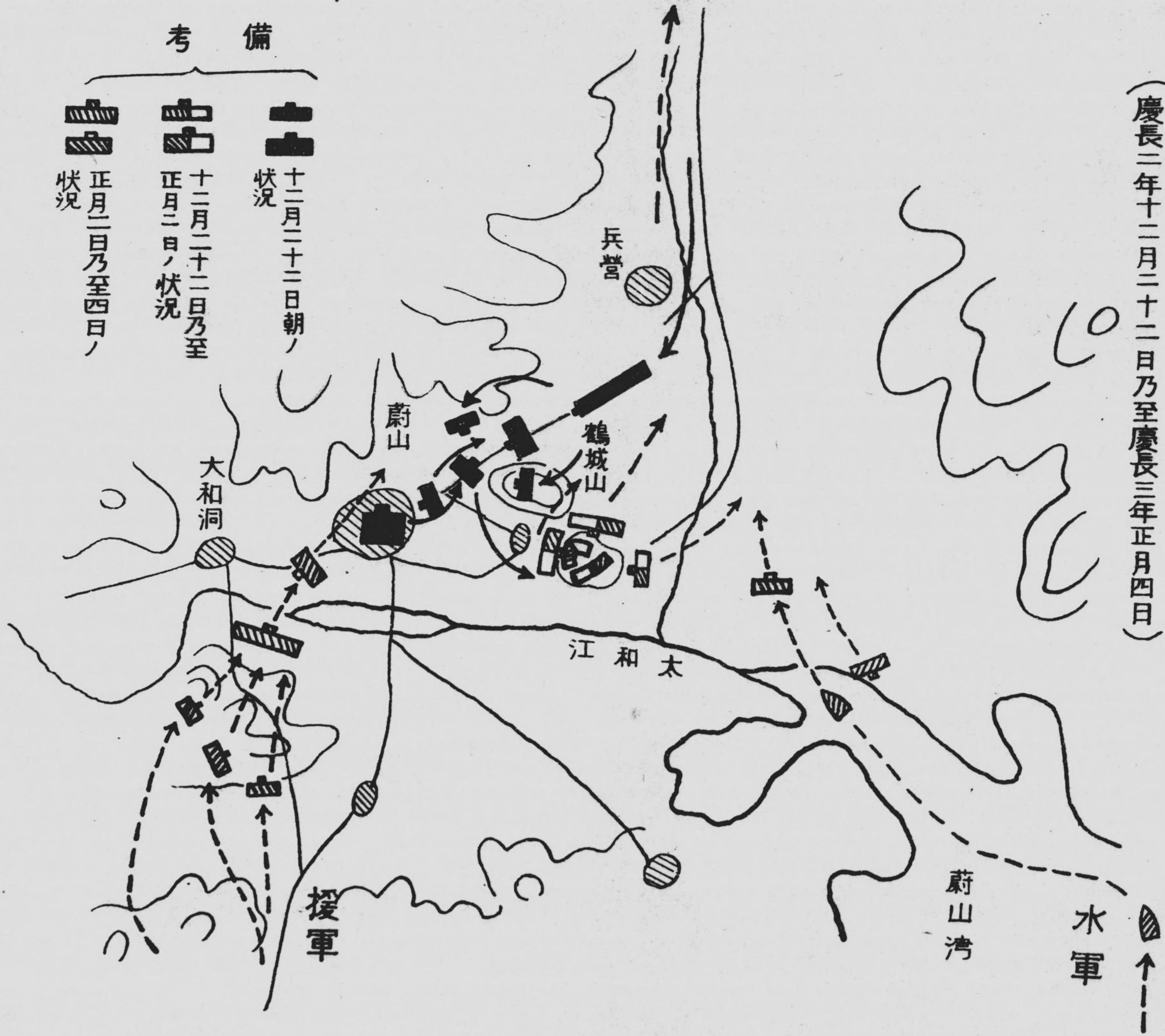
我が援軍ハ此ノ日攻撃ヲ準備シ山下下リテ陣セシガ、敵軍動搖シテ退却ノ色アルヲ察シ、十五時頃太和江ヲ渡リテ攻撃シ吉川廣家先登躬ヲ刀ヲ揮ヒテ敵陣ヲ突ク。吳惟忠、葉國器防戦少時ニシテ敗レ退ク。諸隊追撃スルコト二里許リニシテ兵ヲ收ム。斬首四、五百級、水軍モ亦上陸シテ敵軍ヲ追撃ス。擺賽、楊登山、馬兵ヲ回シ水軍ト戦ヒ姑クニシテ兵ヲ收メ北方ニ退却セリ。赴援軍ハ其ノ兵ヲ府邑附近ニ宿營セシメ此ノ夜諸將城ニ入り清正等ヲ慰問ス。

此ノ戦明年ノ死者殆ド二萬人ニ達シ、遺棄セル屍體一萬三百八十六ヲ算ス。負傷者遊撃陳寅、





蔚山城戰鬥要圖 (其二)

(慶長二年十二月二十二日乃至慶長三年正月四日)



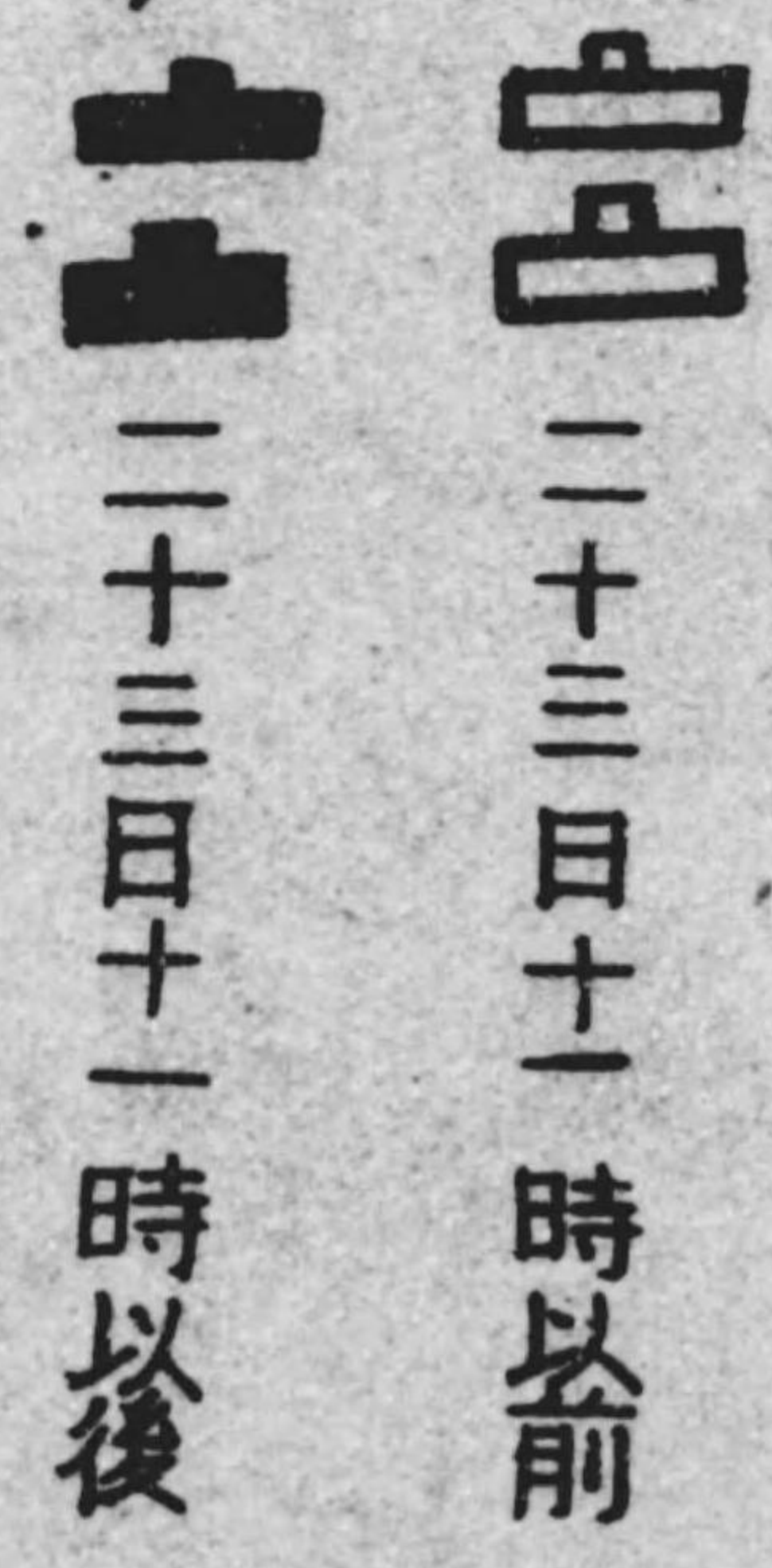
考 備

- | | | |
|--|--|--|
| 
狀況
正月二日乃至四日ノ | 
十二月二十二日乃至
正月二日ノ 狀況 | 
狀況
十二月二十二日朝ノ |
|--|--|--|

(四)
二十日



備考



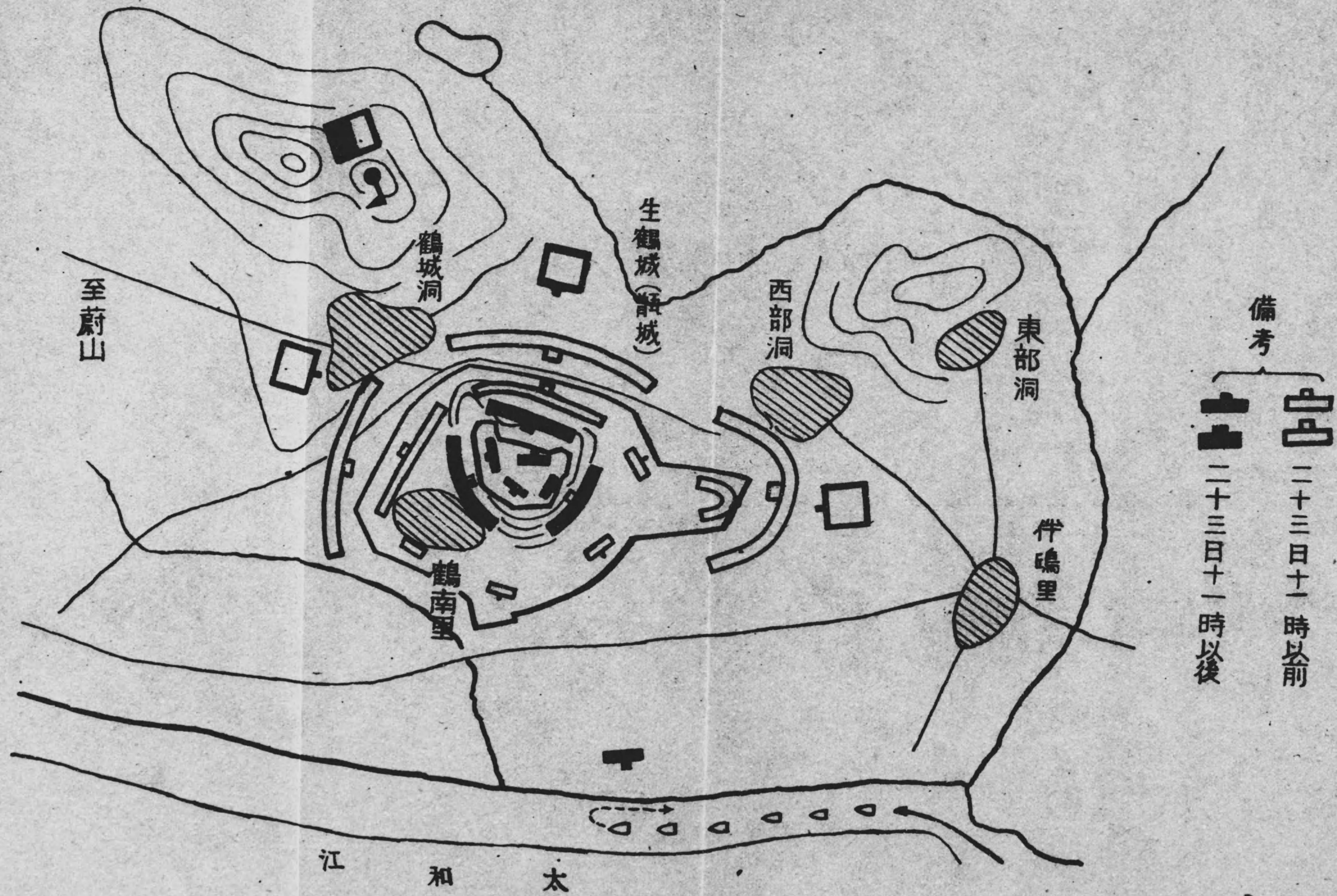
礪山嶽輝圖要圖 (其二)

(要圖二十日二十二日二十三日至二十四日)



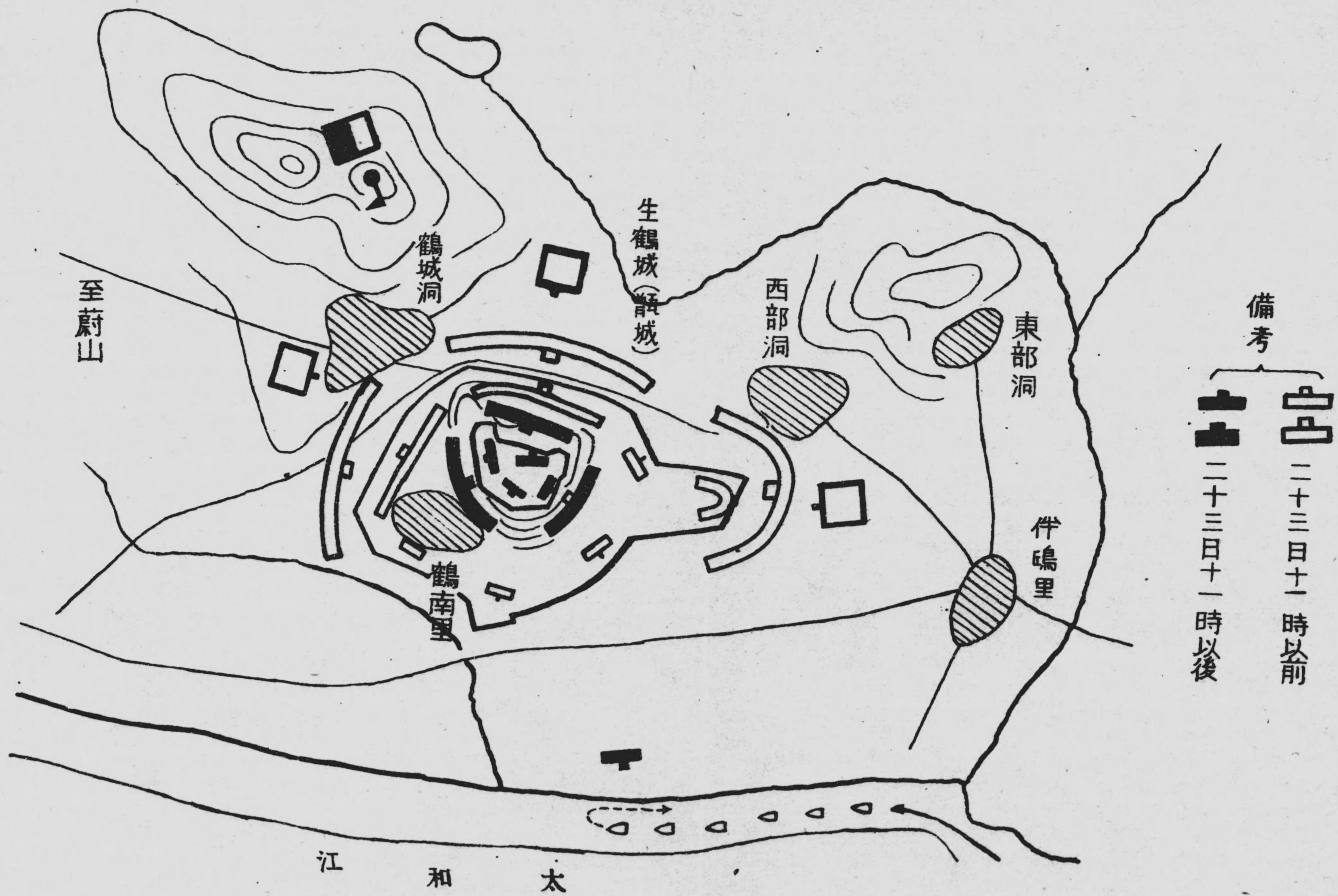
(二其) 圖要鬪戰城山蔚

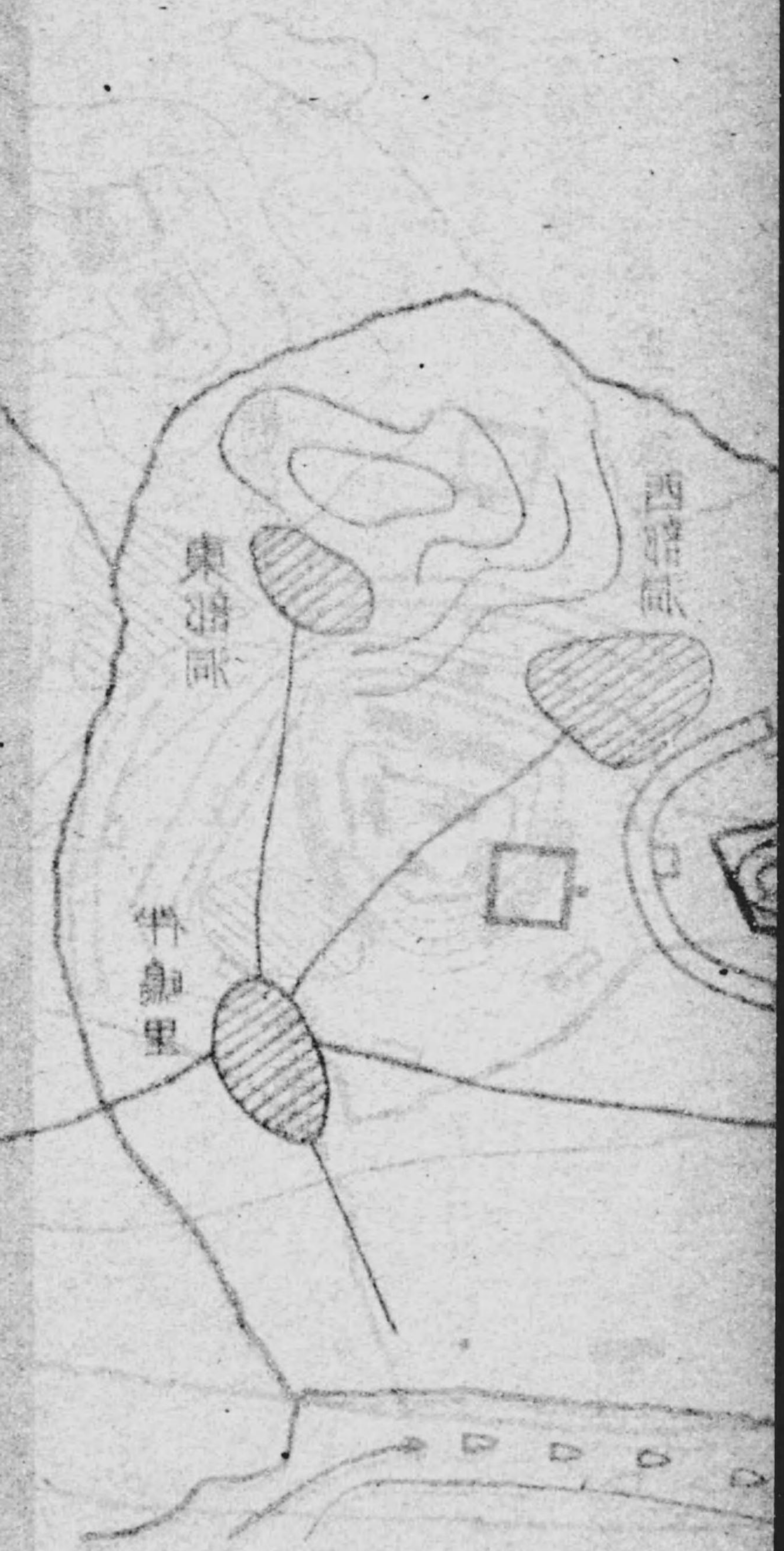
(日四十二日三十二月二十)



(二其) 圖要鬪戰城山蔚

(日四十二日三十二月二十)





二十三日十一時以迄
 二十三日十一時以迄
 二十三日十一時以迄

陳愚聞、楊萬全以下數千、資糧、器械、蕩然トシテ遺ス所無シト云フ。

楊鎬等慶州ニ回リ、我が軍ノ追撃ヲ恐レ一部ヲ以テ星州、安東、南東等ニ留メ爾餘ヲ以テ京城ニ退ク。

五日早朝、援軍諸將城中ニ會シ慶州迄追撃スベキヤ否ヤヲ議ス。然レドモ糧乏シク兵亦多カラザルヲ以テ之ヲ罷メ、大斥候數組ヲ諸路ニ出シテ敵軍ヲ搜索セシメシガ、隻影ヲ認メザリキ。乃チ西生浦ノ加藤兵ヲ招致シテ蔚山城ヲ守備セシメ、六日援軍ハ各、其ノ守地ニ向ヒテ還リ去リ、籠城ノ士卒ハ西生浦ニ到リ休養ス。

第十六問題原案

慶長ノ役蔚山籠城ニ對スル教訓竝ニ所見

- 一、消極的ニシテ且不明確ナル作戰方針ハ將兵ノ志氣ヲ萎靡セシム
- 慶長二年秀吉再征ノ役ハ先ヅ全羅、忠清二道ヲ領有シテ朝鮮ヲ屈服セシメントスルニ在リ其ノ氣宇ノ狭小ナル文祿ノ役ノ大明國蹂躪ニ比スレバ實ニ宵壤ノ威ナクンバアラズ而モ其ノ野戰軍ニシテ既ニ概不全、忠兩道ヲ領有シ終ラントスルヤ爾後如何ニシテ朝鮮ヲ屈服セシメントスル

ヤノ作戰指導ノ方針明確ヲ缺キタルハ眞ニ遺憾ナリ是ニ於テ漸ク戰ニ倦ミタル將兵ハ次第ニ積極的企圖心ヲ消磨シ大明軍大舉南下ノ聲ヲ過大ニ信ジ遂ニ消極退嬰敵ニ勝タンヨリハ寧ロ如何ニシテ犧牲ヲ最少限度ニ止メテ己ヲ全カラシメンカニ苦心スル傾向顯著トナリ戰鬪ニ勝テツツ而モ狀況ヲ危險視シテ後退シ却ツテ敵ノ志氣ヲ振興セシメテ全線ヲ舉ゲテ沿海ノ方ニ退却シ全ク守勢ニ立ツノ止ムヲ得ザルニ至レリ

二、統帥ハ將帥人格ノ反映ナリ

古來日本國民ニシテ清正ヲ愛好セザル者ハ一人モ無カルベシ是蓋シ彼ノ積極敢爲ニシテ勇猛果斷ナル實ニ男子ノ本懷ヲ躍如タラシムルノミナラズ彼ノ忠誠無二ニシテ義ニ篤ク私心ナキ其ノ純真ナル赤誠ハ後世人ヲシテ絶對ノ信賴ヲ博セシムル所以ナルベシ
單身猛虎ト闘ツテ之ヲ倒シタル勇將ハ夫レ自體ニ於テ既ニ人心把握ノ要諦ヲ收メアリト雖モ彼ノ無根ノ罪ニ依ル謹慎ノ身ヲ以テ桃山城ヲ警備セシ地震加藤ノ名ハ復タ蔚山龍城ニ部將ト運命ヲ共ニセシ中外ノ史實ト共ニ其ノ人格ノ崇高サニ感激セザル者ナカルベシ是清正ガ其ノ性格ノ反面ニ剛直潔癖ノ偏狹性アリシニ拘ハラズ尙後人ヲシテ惡評ヲ聞カシメザル所以ナリ
夫レ統帥ハ將帥人格ノ反映ナリ決シテ口舌弄策ノ能クスル所ニアラズ清正一度蔚山ノ急ヲ聞ク

ヤ左右ノ諫言ヲ排シテ曰ク「我彈正ト約ス左京ニシテ空シク死セバ我何ノ顔アツテカ彈正ニ見エン」ト近從二十餘ト共ニ單舟ニ揖シテ敵軍重圍ノ孤城ニ入ル其ノ利害打算ヲ超越シテ義ニ赴ク赤誠ハ既ニ全軍將兵ノ衆心ヲ歸一ス是統帥ノ妙諦ト謂ハズシテ何ゾヤ

此ノ際一椀ノ米麥一粒ノ梅干ノ追送固ヨリ必要ニシテ清正ニシテ之ガ補給ニ對スル處置ヲ講ズルコトナカリシハ遺憾ナリシト雖モ彼將帥トシテ單身義ニ死セントセシ其ノ決心ニ對シ吾人ハ最大限ノ敬仰ノ念ヲ禁ズル能ハザルナリ

是ニ於テカ城中食フニ食ナク憩フニ暇ナク每戰多大ノ死傷者ヲ續出シタルニ拘ラズ最後ニ至ル迄衆心一致壁土ヲ甜メ愛馬ヲ食ウテ戰ヒ而モ一人ノ弱音ヲ吐ク者ナシ斯クテ城中食盡キ體力衰ヘテ戰フ力サヘ失ハントシタル正月元日清正ハ書ヲ友軍ニ送リテ曰ク「救援若シ成ラザレバ上下各、決心スル所アリ請フ意ヲ安ンゼヨ」ト其ノ意ヤ簡ニシテ其ノ人格躍如トシテ眼前ニ彷彿タルモノアリ決死ハ固ヨリナリ此ノ期ニ及ンデ無理ニ救援ヲ強要シ哀訴スル所ナク淡々トシテ水ノ如キ悟道ノ心境是將帥最後ノ人格ノ發露ニアラズシテ何ゾヤ

三、統帥指揮ニハ一元的獨裁力ヲ必須トス

文祿及慶長兩役ヲ通ジ秀吉ノ外征ハ何レモ自ラ出馬シテ之ヲ統帥スル勢ヲ執ラズ派遣諸將領

ノ合議ニ依リ進退掛引ヲ決セシムル方法ニヨリ大軍ノ統帥ヲ委シタリ是秀吉ガ國內作戰ニ於テ常ニ能ク統帥指揮ノ妙ヲ發揮シ赫々タル偉業ヲ完成シ得タルニ反シ今次外征ガ更ニ偉大ナル抱負ノモトニ畫策セラレタルニ拘ラズ其ノ效果ノ收ムベキモノナカリシ所以ノ一ナリト斷ゼサルヲ得ザルナリ然リ而シテ文祿ノ役ニ於テハ何ハ兎モアレ何レモ遠大ナル企圖ヲ有スル進攻作戰ナリシヲ以テ大局的ニ諸將領ノ意圖ハ積極的ニ協力シ得ル素因ヲ共有シタリ然ルニ慶長ノ役ニ至リテハ作戰自體ニ於テ極メテ消極的ナルト其ノ作戰方針ハ勿論作戰目標ニ於テ不明確ナリシ爲衆心常ニ合一スル能ハズ從ツテ指揮統帥敏活ト徹底トヲ缺キタリ蔚山城ノ構築ニ於テサヘ其ノ單一ナル責任ノ歸著ヲ知ラズ從ツテ對敵處置機ヲ失シテ敵ニ致サレ更ニ援軍ハ清正ノ人格ヲ反映シテ遠ク全羅道ノ西南ヨリモ馳セ參ゼリト雖モ之ガ軍議ニ數日ヲ費シ城中ノ飢餓ヲ眼前ニ認メツツモ之ガ實行敏速ナラズ而モ漸ク蔚山平地南方臺上ニ到着シ敵ヲ眼下ニ望見シツツ更ニ二日ヲ空費シ敵ノ隨意退却シ去リ終ツテ漸ク山下ツテ平地ニ進出セル如キ圖志全ク喪失セルモノト看做スモ過言ニアラザルナリ是實ニ統率指揮ノ一元化ナク強力ナル迫力ヲ以テ軍ヲ死地ニ投ジテ活ヲ求ムル底ノ獨裁力ヲ缺キタル罪ナリト謂ハザルベカラズ

四、夜襲ハ奇襲的效果ヲ收ムルニ從ヒ其ノ成果極メテ大ナリ十二月二十二日未明近ク實施シタル

明軍ノ大部隊ヲ以テスル夜襲ハ全ク我が軍ノ不意ニ出デ其ノ宿營地タル假營ヲ奇襲シタルモノニシテ我が將兵ノ狼狽其ノ極ニ達シ死傷頗ル多ク殊ニ其ノ損害ノ大部ハ戰死ナリシニ想到セバ敵ナガラ如何ニ其ノ戰果ノ大ナリシカ思半ニ過グルモノアラン又我が軍ニ在リテモ蔚山籠城ノ翌日タル十二月二十三日以降殆ド毎日小部隊ヲ以テ不意ニ乘ジテ夜間出撃ヲ敢行シ以テ敵ノ心膽ヲ奪ヒタルハ蔚山持久ニ相當大ナル效果ヲ收メタリ特ニ城中食竭キ將士困憊シテ戰鬪力著シク低下シタル際ニ於ケル連夜ノ夜襲決行ハ敵ノ晝間攻撃ノ壓力ヲ大イニ減殺シタルハ看過シ得ザル所ナリトス

五、我が軍ハ如何ナル場合ニ在リテモ退却ハ絶對ニ之ヲ避ケザルベカラズ

二十二日朝府邑方面ヨリ蔚山城ニ對スル我が軍ノ退却ハ隨意退却ニシテ決シテ敗退コトヲズ而モ其ノ退却部署タルヤ極メテ組織的ニシテ逐次後衛ヲ以テ收容シ且戰ヒ且退キタルニ拘ラズ而モ遂ニ潰亂状態トナリ多大ノ犠牲ヲ拂ヒタルハ吾人ノ大イニ反省スベキ所ナリトス然レドモ戰場機動ハ時トシテ其ノ形態ハ退却ニ類似スルコトアリト雖モ其ノ精神ハ飽ク迄新企圖ニ基ク積極的手段タルヲ以テ相當活用ノ要アリトス故ニ吾人ハ退却ハ絶對ニ之ヲ避クベキモ戰場機動ハ自在ナル如ク軍隊ヲ訓練スル要アリト信ズ

六、警戒ノ不備ハ常ニ不測ノ大敗ヲ招クモノナリトス

蔚山籠城ノ戰史ヲ繙キ最モ奇異ノ感ヲ懷キ而モ残念ナルハ當時國軍ノ中堅トシテ自他共ニ許シタル加藤麾下ノ軍ガ脆クモ猫額大ノ孤城ニ退嬰籠城シ戰捷ノ光明サヘ認メ難キ專守防禦ニ陥リタル一事ナリトス是其ノ原因一ナラズト雖モ其ノ最モ主要ナル直接原因ハ曉夢未ダ覺メザルニ至ク奇襲ニ依リ寢込ミヲ襲ハレタルニ由ラズンバアラズ即チ斥候派遣、步哨配置等ノ警戒手段ヲ全然講ゼザリシ天罰ナリ是ニ於テ敵兵五、六萬大舉シテ慶州ヨリ南下スルモ之ヲ偵知スル能ハズ殊ニ敵夜襲決行ノ際其ノ銃聲ヲ聞キテ狩獵ノ類ナリトシテ一觀セザリシガ如キハ實ニ沙汰ノ限ナリ

之ニ反シ敵ガ鮮人呂餘文ヲシテ倭裝シテ蔚山城中ニ入レ其ノ蔚山城圖ヲ入手セシメタルガ如キ或ハ援軍ノ狀況ヲ機ヲ失セズ偵知セルガ如キハ自國內ノ作戰ニシテ情報蒐集ノ便モアリタランモ亦之ニ對スル關心大ナリシ賜ナリト謂フベシ

七、水軍ノ不活潑ナリシハ緒戰大敗ノ瘡痍ニ依ル所大ナルベシ

前役タル文祿ノ役ニ於テ我が水軍ハ連戰シテ殆ド連敗セリ故ニ一度水上ニ浮ブヤ地上ノ勇猛心モ不知不識ノ間ニ滅殺セラレ動モスレバ恐怖感ヲ密カニ抱懷スルニ至レルニアラザルヤ疑ハ

シムルモノアリ

蓋シ清正ノ命ニ依リ西生浦ヨリ招致セラレタル艦船二、三十隻ハ二十三日十四時頃既ニ太和江ヲ遡リ城ノ附近ニ到着シタルニ拘ラズ敵前ニ上陸シテ機ヲ見テ解圍攻撃ニ出デントスル策ナク鹽浦ニ退避ス爾後翌二十四日、二十八日及其ノ以降ハ殆ド連日特ニ二十九日以降ニ在リテハ援軍舟艇逐次到着シ遂ニ艦船百餘ニ及而モ城中苦戰ノ狀況ヲ熟知シアリシニ拘ラズ決然上陸戰闘ヲ敢行スル意志ヲ忘失シ徒ラニ鹽浦ト太和江口間ヲ游弋シアリシガ如キハ腑甲斐ナキ限ナリ是緒戰戰果ノ如何ニ永ク將士ノ志氣ヲ支配スルモノナリヤ戒ムル資タラズンバアラザルナリ

八、敵ガ其ノ作戰目標ヲ先ヅ蔚山ニ選定シタルハ適當ナリ

慶長ノ役ニ於ケル日本軍將士ノ志氣一般ニ振ハザリシハ敵軍モ亦數度ノ戰闘ニ於ケル抵抗ノ度ニ依リ概ネ判斷シ得タル所ナルベシ然ルニ獨リ加藤清正ノ率キル軍ハ日本軍ノ中堅ニシテ明軍鮮軍共ニ重大ナル關心ヲ有シタルベシ

故ニ加藤軍ヲ擊破セバ日本軍ノ戦力ハ甚シク低下スベク而モ今ヤ日本軍ノ消極退嬰ニシテ兵團配置分數セルハ加藤軍各個擊破ノ好機ナリ加藤軍ノ蔚山ハ日本軍陣地ノ最右翼ノ據點ニシテ之ヲ奪取セバ一舉上陸根據地タル釜山ヲ攻路スルコト容易ナル利アリタレバナリ

第三想定

所要地圖 二十萬分一 東京、横須賀、甲府、靜岡
五萬分一 藤澤、大磯、秦野、小田原

- 一、水戸方向ヨリ南下シ相模平地ニ進入スル赤軍ヲ撃攘スベキ任務ヲ有スル青軍第一師團ハ三島平地ヨリ東進シ三月三日夕遅ク酒匂川河孟ニ進出シ宿營ス
- 二、青軍第一師團長ハ二十三時迄ニ左ノ如キ狀況ヲ知ル
 - 1、一師團半ヲ下ラザル敵ハ數縱隊トナリ今朝東京附近ヲ發シ大山街道及其ノ以北ノ諸道路ヲ經テ南下シ本夕遅ク原町田、上溝附近ニ達シ宿營ス
 - 2、海濱ハ一帯ニ波浪高ク船舶ノ近接ヲ許サズ
彼我ノ空中勢力ハ概ネ相伯仲ス
 - 3、相模川ハ戸田ヨリ下流徒渉場ナク曾我原―六本松―寺前道ハ近時改修セラレテ野戰重車輛ヲ通ズ
- 三、師團ハ其ノ固有編制ノ外左記部隊ヲ編合ス
戰車一中隊

山砲兵一大隊
野戰重砲兵一大隊
野戰高射砲二隊
軍通信部隊
飛行一中隊(偵)
架橋材料一中隊
其ノ他 略ス

第一問題

三月三日二十三時ニ於ケル青軍第一師團長ノ決心

第一問題の研究

- 一、前進目標に就て 諸官の案を大別すれば概ね左の五案に分つことが出来る。
第一案 鈴川の線

第二案 伊勢原附近

第三案 愛甲原附近

第四案 尼寺原又は小鮎川の線

第五案 相模川の線

各案につき若干研討すれば次のやうである。

第一案は敵は必ず我と對進すべく其の豫想する遭遇戦は鈴川附近である、故に目下の企圖として鈴川以東への進出は不可能と見るべきであるとするものである。併し目下の彼我の態勢は宿營中にして靜止の状態である、之が動的に移行するものと豫想するも其の方法及行動發起の時機さへ全く不明である。然るに之を簡單に彼我同様と斷定し、地圖上の中間點を以て遭遇戦と決定し、而も之を以て自己の企圖心を制扼せんとするは愚案の甚しいものである。況や鈴川の如き叢爾たる小便川にして戰術的價値の認むべきものなきに於て特に然りと謂はねばならぬ。第二案の理由とする所は、距離上の豫想遭遇線附近に於て、戰術上の要點は敵手に委することなく必ず奪取せんとするもので、第一案に比し積極案である。併し此の案も亦距離上の遭遇戦を架空して、自ら其の企圖心を制肘するもので、同意し兼ねる。本案は更に細分すると左の三

案がある。

a、伊勢原南方高地線に向ふもの

b、伊勢原東西の線に向ふもの

c、伊勢原北方高地線に向ふもの

a案は敵に占領されては甚だ不利だから是非奪取せんとするものであり、c案は有利な要點だから是非奪取せんとするものである。之に反しb案はc案を欲するが行程の關係上b案で満足しなければならぬだらうとするものである。

第三案は第二案よりも更に積極案で、敵の行動如何に拘らず此の要線迄は是非進出せんとするものである。蓋し愛甲原の線は厚木附近の敵情に依つては爾後部署の變更を要する線だから、最少限先づ之を奪取せんとする案のやうである。理由としては一應筋が立つやうだが、現在の敵情に於て、斯くの如き決定的價値を有する唯一の要線なりや否やを再検討する必要がある。第四案は敵は主力を以て相模川右岸に進出すべく、我は任務上之を擊破して先づ相模川に近く其の附近の要線に進出することが必要であると爲すものと、又別に我は任務上積極的に遠く進出せざれば地形錯雜にして用兵上不利である、併し今直ちに相模川以東へ進出を企圖するは、

明一日の行程としては無理だから、此の線で満足すると云ふものと二様の理由があるやうだ。案としては以上四案中、一番積極案ではあるが、案者の理由とする所は二つながら明瞭を缺くものがある。即ち敵の主力が相模川右岸へ来るものと判断するならば、之を捉へて撃滅せんとする所に目標を選ぶ必要があり、或は然らずして一日の行程を顧慮するとするならば一日の行程其のものには相當弾力性のあるものなることを忘却した感がある。今少し自主的に目標を選定したいものである。

第五案は、敵の行動は不明なるも我は任務上之を求めて攻撃しなくてはならぬ、相模川は地形上の要線であり該線以東への進出は状況を顧慮して部署變更を要するから、先づ此の線迄取敢ず進出する、若し途中敵と遭遇せば隨所に之を攻撃するのみであるとの理由に基くもので、趣旨極めて一貫してゐる案であり、出題者も同意する所である。

之を要するに作業者の大部は、敵情を單純にきめつけて之を基礎としたり、未知數の極めて多い本想定の如き状況を軽く取扱つて自から褊狹な判断をなし、之に基いて自からの企圖心や行動を制扼せんとする傾向があるのは遺憾である。之は實に愚の骨頂で、戦術を研究せんとして其の末技に拘泥されたものである。宜しく状況不明の際は任務に向つて邁進する氣魄を養成す

ることが肝要である。

次に師團の要線について一言所見を述べる必要がある。抑、師團の要線とは師團幾萬の生靈を賭して勝利を制すべき大著眼のもとに其の價値を研究すべきものである。諸官の案中鈴川の線の如き貧弱なる細流に戰術的價値を求めんとするものがあつたのは、此の嚴肅なる意義を忘却したものである。他の案者と雖も同様の感があり、諸官の要線と稱するもの多くは何れも局部的の要點であつて、彼我の態勢變化或は戦場の波瀾に依つて忽ち幻滅するやうな微弱な要點に氣を奪はれてゐるやうである。

二、師團の重點に就て 諸官の重點指向方向に三案がある。即ち左方に重點を保持する案は絶えず山脚方面に據點を占めつゝ敵を東南方相模灣に壓迫せんとするものである。重點を右方に保持する案は、北方山地方面に大部隊を投ずるは不利であるから、行動容易な南方から敵を北方山地に壓迫せんとするものである。又重點を中央に保持せんとする案は、隨時所望の方向に重點を成形し得る如く行動容易な中央方面に保持せんとするものである。併し本が茲に注意すべきことは、如何なる地域に於て敵と遭遇するも常に有利な態勢を以て速かに戦鬪を指導し得ることと、其の戦果の絶大を豫期し得ることを考慮しなければならぬ。換言すれば戦略態

勢の優越を保持する著意を必要とする。之が爲には左方に重點を保持する案に同意する。右方に重點を保持して山地に敵を壓迫する案は、常に山地等の有利なる據點を容易に敵に與へることになるから同意し兼ねる。中央案は、不徹底であるのみならず特に諸官の中には中央案は最短道路なれば速かに目標に到着し得るとの理由を爲すものがある如きは大きな誤である。距離短小なりと雖も敵の妨害排除に長時間を要することがあれば何の役にも立たないのである。

三、秦野平地の價値に就て 秦野平地に對する戰略的價値を認めないものがあつたが、不同意である。諸官宜しく二十萬分一の地圖を大觀し、小田原平地と相模平地とを連絡する秦野平地の關係を靜觀されたいのである。自ら秦野平地の戰略的意義が了解されるであらう。

四、支隊と縱隊と側衛との關係に就て 諸官は此の三者に對し觀念が混同しあるやうである。側衛は警戒部隊であつて、其の行動は常に其の本隊に従屬すべきものである。又縱隊とは常に高級指揮官の掌握下に行動を律せられるものであつて、支隊とは其の任務に基いて相當廣汎な獨斷專行の餘地のあるものである。故に此の三者は其の編組、兵力等がたとひ近似してゐても、此の本質的差異のあることを知らなければならぬ。之だけの豫備智識を以て再び兵語の解を一讀されんことを望む。

第一問題原案

決心

師團ハ原町田、上溝方向ノ敵ヲ攻撃スル目的ヲ以テ明早朝出發ニ縱隊トナリ重點ヲ左方ニ保持シ相模川ノ線ニ向ヒ前進セントス

理由

- 一、敵情ハ不明ナルモ恐ラク我ニ對シ攻撃ヲ企圖スルナラン然レドモ時トシテ厚木、伊勢原間ノ要點ヲ利用シ或ハ相模川ノ線ヲ利用シテ術策ヲ弄スルコトナシトセズ
- 二、師團ハ任務上絶對攻勢ヲ必要トス之ガ爲隨所ニ敵ヲ擊破シテ前進スルノ用意ヲ以テ敵ヲ求メテ前進スルヲ要ス
- 三、相模川ノ線ハ戰略要線ニシテ其ノ以東ヘノ進出ハ狀況ニ依リ部署ノ變更ヲ要ス故ニ該線ヲ目標トシテ積極的ニ前進スルヲ要ス
- 四、秦野平地ハ小田原、相模兩平地ヲ連絡スル戰略的要地ニシテ敵ノ如何ナル企圖ニ際シテモ之ニ對應セントスルニハ隨時之ヲ我ガ手ニ收メ得ル態勢ヲ以テ前進スルヲ要ス

五、地形一般ニ複雑ナルヲ以テ數縱隊トナリ前進スルヲ要スルモ三縱隊以上ヲ以テ前進スルハ途中敵ト遭遇スルニ際シ動モスレバ兵力分離ニ陥リ隨時重點ヲ成形スルニ困難ナリ故ニ二縱隊トナリ前進スルヲ可トス

重點ハ絶エズ北方山脚ニ地歩ヲ占メツツ南方相模灣ニ敵ヲ壓迫スル如ク之ヲ左方ニ保持スルヲ有利トス

六、主力ノ出發ハ其ノ宿營狀態ニ鑑ミ過早ナルハ兵力ヲ勞スルコト多ク又特ニ明拂曉迄ニ進出セザルベカラザル要線アラザルヲ以テ早朝出發スルヲ有利トス

處置ノ大要

一、騎兵隊ハ厚木方向ヨリ原町田、上溝方向ノ敵情搜索

二、飛行隊ハ天明ト共ニ飛行開始相模川河畔ニ於ケル敵情搜索、一部ヲ以テ茅ヶ崎方向ノ敵情ヲ監視、戦闘ニ際シテハ三機ヲ以テ砲兵協力

三、右縱隊 \star $\begin{matrix} 2iB \\ (-4i) \end{matrix}$ $\frac{1}{16}K$ IIA $\frac{1}{4}P$ S —中
ハ會我原—寺前—井ノ口—片岡—伊勢原—厚木道ヲ厚木

一方向ト前進

四、左縱隊前衛 \star $\begin{matrix} 1iB \\ (-2i) \end{matrix}$ $\frac{1}{16}K$ IA $1P$ —主カ S —中
ハ松田—秦野—伊勢原—原—千頭—才戸道ヲ才戸へ

五、爾餘ノ主力 DLT DTL ♪ $2i$ —主カ IBA $2i$ —部 $1A$ —主カ $4i$ —主カ ISA $4i$ —部 Rst S —主カ
但シ戰車ハ左縱隊本隊ト前衛トノ間ヲ躍進

六、其ノ他略ス

狀況 第一

一、師團諸隊ハ概ネ豫定ノ如ク行動ヲ開始シ意氣軒昂相模川ノ線ニ向ヒ前進ス

二、六時四十分頃師團長ハ菖蒲附近ヲ通過中左ノ報告ニ接ス

敵縱隊ノ先頭ヲシキモノ六時三十分頃下愛甲及岡津古久附近ヲ通過南進中ナルモ其ノ後方ノ狀況ハ濃霧ニ遮ラレテ明カナラズ

問 師團長ノ決心

答 決心變化ナシ

問 師團長處置アリヤ

答 Ⅲ(-9.10) 左側支隊トナシ秦野ヨリ分進、大山町ヲ經テ敵ノ側背ヲ脅威セシム

三、左縱隊前衛司令官ハ同時頃平澤附近ヲ前進中概ネ前項ト同様ノ狀況ヲ知ル
問 前衛司令官ノ決心

答 前衛ハ Ⅲ(-9.10) $\frac{1}{2}$ RA/li ヲ以テ秦野ヨリ分進、善波峠ヲ經テ觀音谷戸方向ニ前進セシム

四、七時十分左縱隊前衛ハ其ノ先頭ヲ以テ上大槻附近ニ達ス

此ノ時飛行機ヨリノ通報ニヨリ左ノコトヲ知ル

敵縱隊ノ先頭ハ西富岡、下糟屋ヲ通過南進中ナリ

是ニ於テ前衛司令官ハ馬ヲ馳セオケ分閉鎖曲線ノ高地ニ到リ戰場一帯ヲ大觀ス

問 前衛司令官ノ決心

答 前衛ハ速カニ觀音谷戸ヲ奪取セントス

問 處置アリヤ

答 前兵ヲシテ速カニ觀音谷戸方向ニ急進セシム

前衛砲兵ヲシテ速カニ根古屋小學校附近ニ陣地ヲ占領シ前兵ノ戦闘ニ協力セシム
爾餘ノ諸隊ヲ速カニ根古屋高地緣端ニ急進セシム

五、八時稍、前師團長ハ幕僚及砲工兵隊長ヲ伴ヒオケ分高地ニ到リ前衛司令官ニ會シ其ノ企圖ヲ承知セルモ全般ノ態勢ヨリ判斷シ觀音谷戸奪取ノ至難ナルヲ認メ前衛ヲシテ根古屋高地確保ヲ以テ満足スベキヲ命ズ

狀況 第二

一、師團長ハ依然オケ分高地ニ在リテ戰場一般ヲ大觀シアリシガ九時頃迄ニ概ネ左ノ狀況ヲ知ル

1、前衛ハ主力ヲ以テ鶴卷北方高地占領ニ勉メタルモ優勢ナル敵ノ攻撃ニ會ヒ頗ル苦戦ニ陥リ大根驛西北稜線附近ニ在リテ極力攻撃ヲ續行中ナリ

2、騎兵隊ハ之ヨリ先觀音谷戸附近ニ於テ優勢ナル敵ト遭遇セシガ遂ニ壓迫セラレテ善波附近ニ後退ノ止ムナキニ至リ善波峠方向ヨリ前進セル前衛ノ一部ト會シ目下共ニ協力シ敵ト對戰中ナリ

3、右縱隊ハ分進中ニシテ其ノ先頭片岡附近ニ進出中ナリ

4、敵ハ目下八幡谷戸及観音谷戸西側地區ヲ西南方ニ向ヒ分進中ナルモノノ如シ

第二問題

師團長ハ爾後如何ニシテ戦闘ヲ指導セントスルヤ

要圖答解(二時間半)

第二問題の研究

諸官の案を大別すれば概ね左の三案に分つことが出来る。

- 1、主力を以て片岡方向より岡崎高地若くは其の以東の地區に向ヒ攻撃するもの
 - 2、大根—伊勢原道に沿ふ地區より伊勢原方向に重點を指向するもの
 - 3、主力を以て観音谷戸を奪取し該方面より伊勢原南側地區に攻撃するもの
- 尙別に最後案より更に深く主力を以て東北方に進出し、大山町—伊勢原道に沿ふ地區より殆ど南面して攻撃するもの及び主力を以て大根—伊勢原道に沿ふ地區より突破し優力なる一部を以て平塚方向及大山町方向より深く敵の兩側背を包圍せんとするもの等の特別案がある。

而して第一案は、主力の展開の爲困難なる側方機動を必要とし且主力砲兵の展開位置比較的困難な状況にあるけれども、観音谷戸高地敵手にある以上之に拘束せらるゝことなく、深く敵の左翼を包圍し得る利がある。

第二案は、展開は迅速であるけれども、爾後の攻撃前進に方つては正面戦闘の困難と観音谷戸方向よりする敵の火力によつて奏功困難なる不利がある。

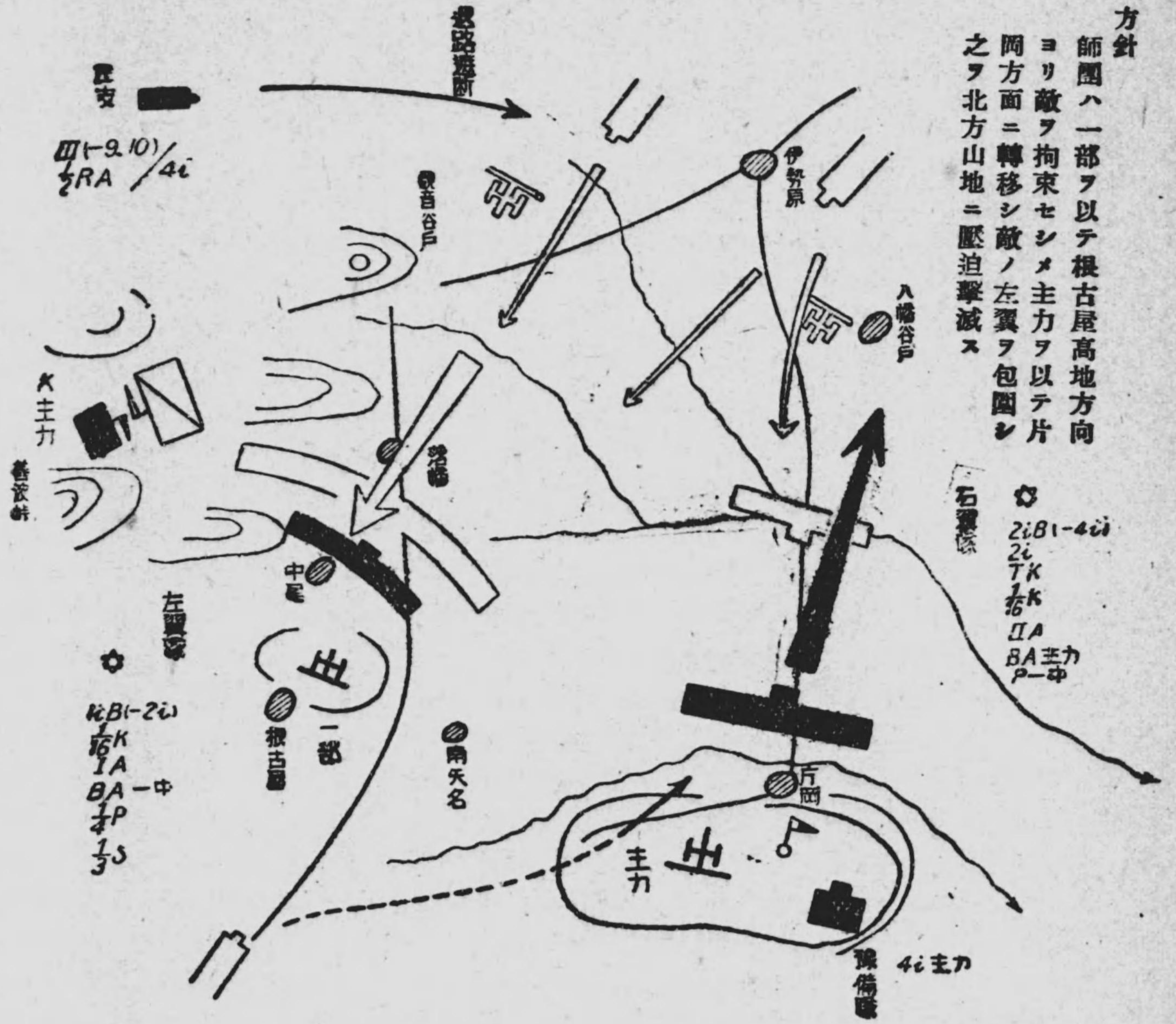
第三案は、観音谷戸を奪取した後には敵の退路を遮断し得て極めて有利であるけれども、此の案成立の爲には先づ観音谷戸を力攻奪取するを要し、之が爲には當面の敵を撃破するを先決問題とする。

又歩兵部隊の主力を以て大山町方向から迂回せんとする案は、戦機を逸する虞あると、歩砲分離して戦力發揮十分ならざるを以て、採用し難き案である。又優力なる一部を以て兩翼包圍を企圖する案は、中央突破の威力不十分で同意しかねる。

第二問題原案

次ノ要圖ノ如シ

方針
 師團ハ一部ヲ以テ根古屋高地方向
 ヨリ敵ヲ拘束セシメ主力ヲ以テ片
 岡方面ニ轉移シ敵ノ左翼ヲ包圍シ
 之ヲ北方山地ニ壓迫撃滅ス



第四想定
 所要地圖 前想定ニ同シ

- 一、師團主力ノ箱根山系進出ヲ容易ナラシムベキ任務ヲ有スル第一師團先遣隊ハ東海道ヲ東進シ三月四日夕御殿場附近ニ達シ宿營ス
- 二、此ノ時迄ニ先遣隊長ノ知り得タル狀況左ノ如シ
 - 1、一師團ヲ下ラザル敵ハ本早朝利根川ノ線ヲ發シテ南下シ夕刻頃其ノ先頭ヲ以テ荒川右岸ニ達ス
 - 2、師團主力ハ概ネ三月七日夕三島附近ニ達スル筈
 - 3、甲州街道及青梅街道ハ共ニ荒廢シテ使用シ得ズ
- 三、先遣隊ノ編組左ノ如シ
 - 長 某少將

歩兵第一旅團(第二聯隊(第一大隊欠)欠)
 搜索聯隊(一部欠)

野砲兵第一聯隊(第三、第四大隊欠)

山砲兵一大隊

野戰高射砲一隊

工兵一中隊

通信部隊

衛生機團

其ノ他略ス

第一問題

第一師團先遣隊長ノ狀況判斷

第一問題の研究

一、攻防何れに出づべきか

作業者の案を見ると、全員防禦によつて師團主力の進出を待つ案である。陣地設備の時間を最大限利用して物質的利用を十分に收め、敵の各個撃破の力攻に應へやうとするもので、之は力

に對するに力を以てし而も其の正面衝突に専念せんとする案で、全く無爲無策と謂ふべきである。

作戰要務令に示された攻防何れに出づべきやの原則を反省したなら、此の際に於ても何か施すべき積極案を考へ出さなければならぬと思ふ。蓋し火力と機動とを適當に按排して、千變萬化の策を施し敵をして對應の處置なからしめつゝ、而も眞面目の戰爭を回避して所望の持久効果を收むるやうに手を打つことが緊要である。

古來幾多の戰史は持久戰に任ずる部隊が攻勢に出て却つて殲滅的效果を收めて、爾後の戰鬪を有利ならしめた多くの戰例を吾人に教へてゐるのを想起する要がある。

二、何れの線に於て防禦すべきや

提出された諸案は大別して左の二案とすることが出来る。

第一案 成るべく前方に地歩を占めんとするもの

第二案 小田原平地を利用せんとするもの

各案の理由とする所は概ね左の通りである。

第一案は師團主力をして安全に箱根山系を進出せしむる爲には成るべく前方に地歩を占め後方

に餘地を存せしむることが必要である、之が爲彼我距離の關係上秦野附近が適當である、即ち敵が該地に達するには少くも二日はかゝるべく、我は一日半で到着し得るから、敵から攻撃を受くる迄には準備の餘裕があるとすものである。

第二案は、小田原平地を利用するは第一案に比し敵より攻撃を受けるまでに十分の餘裕があり、それだけ陣地も堅固で師團來著まで先遣隊は安全に生存し得る、而も該地點に於ても十分任務を達成し得るとするものである。

今諸官の案を通觀して感ずることは、敵の行動判斷に於て極めて區々であることである。固より敵の行動は其の自由意志に依るものであるから當方が勝手に判斷しても真相と餘程駆け離れたものとなることもあらうけれども、諸官の案には最小限度に見過ぎたものと最大限の可能性を基礎とするものがある。而して作戰要務令にも示されてある通り、敵情判斷は多くの場合不明であるけれども、敵の爲し得べき行動、特に其の可能の限度を考慮し、之に對する最悪の場合に於ても不覺を取らざる周到なる案を一應考へてみなければならぬ。然らざれば遂には敵に不意を打たれ敵に致される場合が生起する虞がある。自主的戰闘指導は斯くの如き心の準備ありて始めて從容として一絲亂れざる統帥が出来るのである。そこで此の見地に立つて諸官

の二案を検討するに、第一案は持久時間は三日にして陣地占領の爲には一日に過ぎず、第二案は持久時間は二日にして陣地占領の爲には一日半を有することになつて、後者の方が前者よりも堅實な案と謂ふことになる。併し以上は主として計算上の理論であつて、此の際戰略的に更に深く一考することが必要である。即ち師團は戰場を何れの地に選ぶべきやと云ふ問題である。今地形を廣く大觀すれば、先遣隊の戰闘によつて敵を拘束せしめて置いて有利なる態勢を以て一舉に敵を撃滅し得る爲には、秦野平地は適當でない。然りと云つて伊勢原又は厚木附近に於て目的を達せんとするは過重である。従つて先遣隊の最後の陣地線は小田原平地が適當である。

三、以上研究して來れば自ら結論は明かとなるであらう。即ち先遣隊長は、先づ厚木附近の戰略要點に極力進出して敵を迎へ(六日午後以後となるべし)、敵をして眞面目の攻撃著手を餘儀なくせしめ(七日拂曉攻撃となるべし)、而して敵の此の眞面目の攻撃開始に先だつて密かに戰場を離脱し(六日夜半)、一舉小田原平地に後退すれば、敵の小田原平地攻撃は著しく遅延し(八日朝以後となるべし)、此の頃には師團主力既に同平地に進出し得るに至るであらう。之が即ち敵に對し眞面目な戰闘を回避しつゝ、而も敵の前進を遲滞せしめて持久の目的を達成し得る策

案である。

諸官の案は正直に敵の重壓を真正面に受け戦力を消耗しつゝ主力の進出を待たんとするものであつて、無策を戦力消耗によつて購はんとするものと謂ふも過言ではないのである。

第一問題原案

判決

先遣隊ハ速カニ厚木附近ニ進出シ敵ノ前進ヲ阻止スルト共ニ止ムヲ得ザレバ小田原平地ニ一舉後退シ師團主力ノ進出ヲ掩護スルヲ要ス

處置ノ大要

- 一、即時出發厚木附近ニ進出シ愛甲原ニ於テ敵ノ前進阻止
- 二、敵ノ眞面目ノ攻撃ニ際シテハ火力ヲ以テ之ヲ阻止シ止ムヲ得ザレバ六日夕小田原平地ニ一舉後退ヲ豫期ス
- 三、一部ヲ以テ小田原平地ニ於ケル陣地占領ノ準備ヲ爲サシム

状況

- 一、六時先遣隊長ハ諸隊命令受領者ヲ集メ第一問題原案ノ如キ判決ニ基キ夫々部署スル所アリ
- 二、此ノ時師團先遣參謀静岡附近ヨリ側車ヲ馳セテ先遣隊司令部ニ到リ次ノ如キ要旨ノ師團命令ヲ下達ス

先遣隊ハ一部ヲ以テ極力敵ノ前進ヲ妨害スルト共ニ主力ヲ以テ小田原平地ニ陣地ヲ占領シ師團主力ノ箱根山系以東ヘノ進出ヲ容易ナラシムベシ
師團ノ箱根山系進出ノ時期ハ概ネ八日拂曉以後ト豫定ス

第二問題

先遣隊陣地占領要圖

第二問題の研究

一、主力の配置に關し諸官の案を大別すれば左の通りである。

- 1、松田より根石に互る側面陣地
- 2、松田より關本に互る線
- 3、根石北側△四五四・一より怒田に互る線

- 4、怒田、切通、塚原の線
- 5、多古附近の高地線

二、各案の利害を研究すれば左の通りである。

第一案は、敵の攻撃を受くる時期は比較的遅き利ありと謂ふけれども、小田原附近に進出する敵に對し威力を及すことは極めて薄弱であり、且松田附近の要點が敵手に奪取せられるか又は陣地の背後に山地を潛入して敵が進出するやうな場合に立ち至ると、陣地の維持は極めて困難となる不利がある

第二案は、小田原平地に對し積極的に睨を有する陣地ではあるけれども、本案は松田附近の高地が敵手に入つたならば陣地の全貌は眼下に指呼せられて之を保持し得ざる程の致命的不利がある。

第三案は陣地の正面緊縮する利ありと云ふけれども、松田高地が敵の手に入つたなら其の威力は遠く小田原附近に及ばない不利がある。

第五案は、小田原附近確保には利ありと云ふけれども、松本、岡本附近の要點を容易に敵手に委する不利がある。

第四案即ち岡本附近臺地を主力を以て占領する案は、極めて凡案である。併し該地は松田の隘路及國府津の隘路を制扼し得る要點であり、而も陣地の骨幹たる歩砲陣地の配置極めて容易且適切なる陣地である。故に本案は本狀況に於て比較的妥當とする策案である。

現地を偵察し松田高地、岡本臺地及多古の高地と此の三者につき戰術的價值を研究すれば、單なる圖上に於ける考察よりも更に深刻なるものあることは、現地を實視せる者の等しく感ずる所であらう。

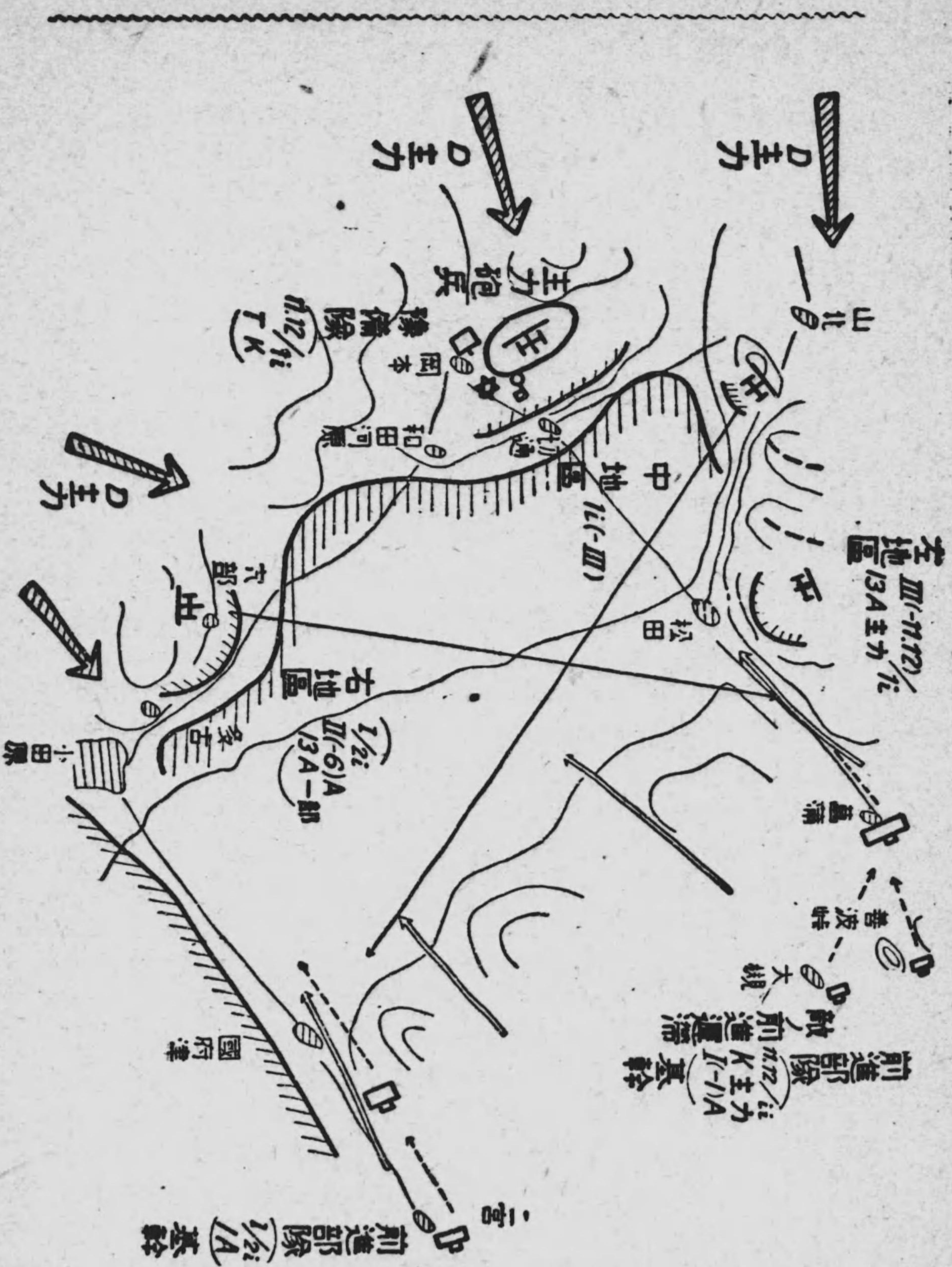
各案の概要



第二問題原案

先遣隊一部ヲ以テ秦野附近ニ於テ敵ノ前進ヲ妨害スルト共
 各一部ヲ以テ松田及多古附近ヲ、主力ヲ以テ岡本臺上ヲ占
 領シ師團ノ進出ヲ掩護スルヲ要ス

判決



第五想定

(所要地圖前想定ニ同ジ)

- 一、東京防衛ノ任務ヲ有スル青軍第一師團ハ東海道及其ノ以北ノ諸道路ヲ經テ南下シ三月五日夕藤澤、茅ヶ崎、用田ノ地區ニ達シ宿營ス
- 二、此ノ時迄ニ師團長ノ知り得タル狀況左ノ如シ
 - 1、一師團ヲ下ラザル敵ノ大繼隊ハ静岡方面ヨリ東進シ三月四日夕三島ニ達シタルモ爾後ノ行動明カナラズ
 - 2、本五日朝來天候險惡而モ敵ノ空中勢力竝ニ防空機關極メテ優勢ニシテ我ガ飛行機ノ活動意ノ如クナラズ
 - 3、我ガ搜索隊ハ本五日午後相模川右岸ニ進出セルモ優勢ナル敵騎ノ爲同河左岸ニ撃退セラレタリ
 - 4、相模川ハ橋梁ノ外徒涉ヲ許サズ
- 三、師團ノ編組ハ第三想定ニ同ジ

第一問題

三月五日夕ニ於ケル第一師團長ノ決心

第一問題の研究

一、攻防選擇に就て

諸官の案を大別すれば概ね次の二案に分れる。

第一案 攻撃するもの

第二案 防禦するもの

右案の理由とする所は次の通である。

第一案 敵情不明なれば積極的に任務を達成する爲隨所に敵を求めて攻撃するを要する。

第二案 師團の任務は東京防衛にあるから、素りに暴進することは適當でない、近く要點を占領して敵を攻撃するを可とする。故に防禦を採用する。

諸官の理由とする所は以上のやうであるが、茲に本質的に考察するに、師團の任務達成の最良

手段は敵を撃滅することである。之が爲には攻勢を以て任務解決を圖ることが緊要であり、其の手段は攻撃によるを最良とする。

併しながら本狀況に於ては、あくまでも敵を求めて之を攻撃せんとするのは、東京防衛と云ふ任務に鑑みて、鹿を追ふ者山を見ずの譬のやうに、任務を脱逸する虞があるから適當でない。即ち敵影を求めて追求せんとする思想は、動もすれば知らず識らず敵に誘致されてこゝに敵に追隨するに至ることが起り得るからである。

故に敵に對する追求の限度は、大局から判斷し某程度の見極めを必要とする。即ち本狀況に於ては敵に對し攻勢を企圖するも、其の攻勢の限度は、之を戰略要線たる某程度に制限せらるゝものであることを顧慮する必要がある。

二、前進目標に就て

諸官の案を大別すると左の五案に分れる。

第一案 相模川の線

第二案 伊勢原の線

第三案 秦野の線

第四案 酒匂川の線

第五案 富士川の線

各案の理由とする所は次のやうである。

第一案、敵は近く相模川の線に進出してゐるであらう、而して同川は絶対障得なるを以て、之を利用して兵力の運用によつて術策を施すを可とする。

第二案、豫想戰場は概ね伊勢原附近であらうから、師團は敵に先だつて之に有利な地點を占め攻勢に轉ずるを要とする。

第三案、敵情は不明であるから、一舉小田原平地に進進するは暴舉である、故に先づ秦野附近を目標として茲に前進を統制する必要があるとする。

第四案、小田原平地以東へ戰場を求むるのは、今後の作戰に不利な影響があるから、萬難を排して此の平地に進出して該地以西の地區で敵を撃滅することが必要である。

第五案、箱根山系は絶対に之を確保する必要がある、之が爲師團は其の以西の地區に進出することが必要である。富士川の線は静岡及甲府兩平地を連絡する要線であるから、此の線まで進出しなければ任務達成は困難であるとする。

今右各案に對し若干研究して見やう。

第一案は、敵が既に相模川河畔に進出しありと限定し、之を基礎としての考案であるから、同意し兼ねる。敵が若し未だ前進してゐなかつたらどうするつもりかと問ひたい所である。

第二案は、豫想戰場と思はれる地點附近に於て防禦せんとする案のやうであるが、甚だ蟲の良い案である。防禦配備に就かんとして不期の遭遇戦を惹起したらどうするか。是亦同意し難い所である。

第三案は、敵情不明であるから、前進目標を抑制せんとするもので、作戰要務令第二部第六十六の精神を誤解したものである。

第四案は、小田原平地以東の地區には敵を一步も入れないとする思想で、必ずしも不同意ではないが、酒匂川の如き貧弱な河川が師團の決心を限定する程の要線ではなからうと思ふ。

第五案に於ては、箱根山系の要線の價値を認めて富士川の線に進出せんとしてゐるが、之は一段階飛び過ぎた考へ方である。既に三島に進出したる敵を撃破せずして富士川の線を目標とするは痴人の夢であらう。殊に此の敵が直ちに甲府平地方面へ轉進することがあるかも知れぬと考へた者もあるが、敵が東海道方面へ派遣した戰略兵團を、今直ちに甲府平地へ轉進せ

しむべき理由が何處に存するか、本狀況に於ては判断し得ざる所であり、此の様に考を進めると遂には擱まへ所がなくなつて仕舞ふであらう。

第一問題原案

決心

師團ハ攻撃ノ目的ヲ以テ箱根山系ノ線ニ向ヒ前進セントス

理由ノ骨子

- 一、敵情ハ不明ナルモ恐ラク敵ハ箱根山系ヲ越エテ東進スルモノト判断セラル然レドモ時トシテ三島平地ニ於テ何等カノ企圖ヲ畫策シアルヤモ知レズ
- 二、師團ハ任務上敵情ノ如何ニ拘ラズ箱根山系ノ線迄進出スルヲ要ス如何トナレバ該山系ハ關東平野ニ出ヅル爲ノ天險ニシテ如何ナル場合ニ於テモ我が手中ニ收メ置クヲ要スレバナリ之ガ爲此ノ線ニ到ル間ニ於テ敵ト遭遇セバ隨所ニ之ヲ擊破スルヲ要スルヤ論ナシ

處置ノ大要

- 一、飛行隊ハ天明ト共ニ飛行ヲ開始シ三島方向ノ敵情ヲ搜索セシム
- 二、搜索隊(Ⅲ)ヲ附スハ速カニ厚木―伊勢原道方向ヨリ三島方向ノ敵情ヲ搜索セシム
- 三、右縦隊 $\frac{2iB(-4i)}{1K} \frac{1A}{16} \frac{1P}{4} S_{中}$ ハ本夜二十四時宿營地出發厚木―伊勢原―秦野―松田―山北道ヲ小山ニ向ヒ前進セシム
- 四、右縦隊前衛 $\frac{1iB(-2i)}{1K} IA P_{主力} S_{中}$ ハ本夜二十四時宿營地出發平塚―金目―井ノ口―曾我原―小田原―箱根町道ヲ箱根ニ向ヒ前進セシム
- 五、爾餘ノ主力 $TK \ DLT \ DTL \ \delta \ 2i(-12) \ BA \ 12/2i \ 1A_{主力} \ 4i_{主力} \ 8/4i \ RSt \ S_{主力}$ ハ前衛ノ後方千五百米ヲ續行ス
- 六、其ノ他略ス

狀況

- 一、師團諸隊ハ師團命令ニ基キ同夜半行動ヲ開始シ箱根山系ニ向ヒ勇躍前進ス途中少數ノ敵歩、騎兵ノ妨害ヲ受ケタルモ各縦隊ノ周密ナル警戒ニ依リ概ネ豫定ノ如ク前進ヲ續行ス

二、左縱隊前衛ハ六日二時其ノ先頭ヲ以テ飯島ニ達ス

此ノ時前衛司令官ハ遙カ前方ニ於テ激烈ナル機關銃聲ヲ聞ク

問 前衛司令官ノ決心

答 決心變化ナシ

問 處置ナキヤ

答 一部ヲ以テ廣川附近ノ敵ヲ驅逐セシメツツ主力ハ依然前進ヲ續行ス

別ニ步兵半大隊ヲ基幹トスル部隊ヲ以テ左側衛トナシ旭村根岸—上吉澤—山之神—惣領分—矢澤—下井ノ口—押切—國府津道ヲ國府津附近ニ向ヒ前進セシム

三、各縱隊ハ三時乃至四時ノ間根古屋高地附近ニ於テ執拗ナル敵ノ妨害ヲ被リ一時混亂ニ陥リタルモ各部隊長ノ獨斷其ノ宜キヲ得テ漸次沈靜ニ歸シ極力前進ヲ續行ス

四、斯クシテ諸隊ハ夜間ノ各種ノ錯誤ト敵ノ妨害トヲ排除シツツ六時頃左縱隊ハ其ノ先頭ヲ以テ大久保附近ニ、右縱隊ハ曲松附近ニ達ス

五、此ノ時師團長ハ左ノ狀況ヲ知ル

1、葛蒲、千村附近ニハ敵ノ歩兵一、二中隊、砲若干門アリテ右縱隊ノ前進ヲ妨害シアリ

2、又左縱隊方向ニ在リテハ不動山、六本松、高山竝ニ押切附近ニモ兵力不明ノ敵アリテ我が前進ヲ妨害シアリ

3、尙潜入斥候ノ報告ニ依レバ松田北側高地、國府津町東端及酒匂川ノ線ニ敵陣地アルガ如シ

問 師團長ノ決心

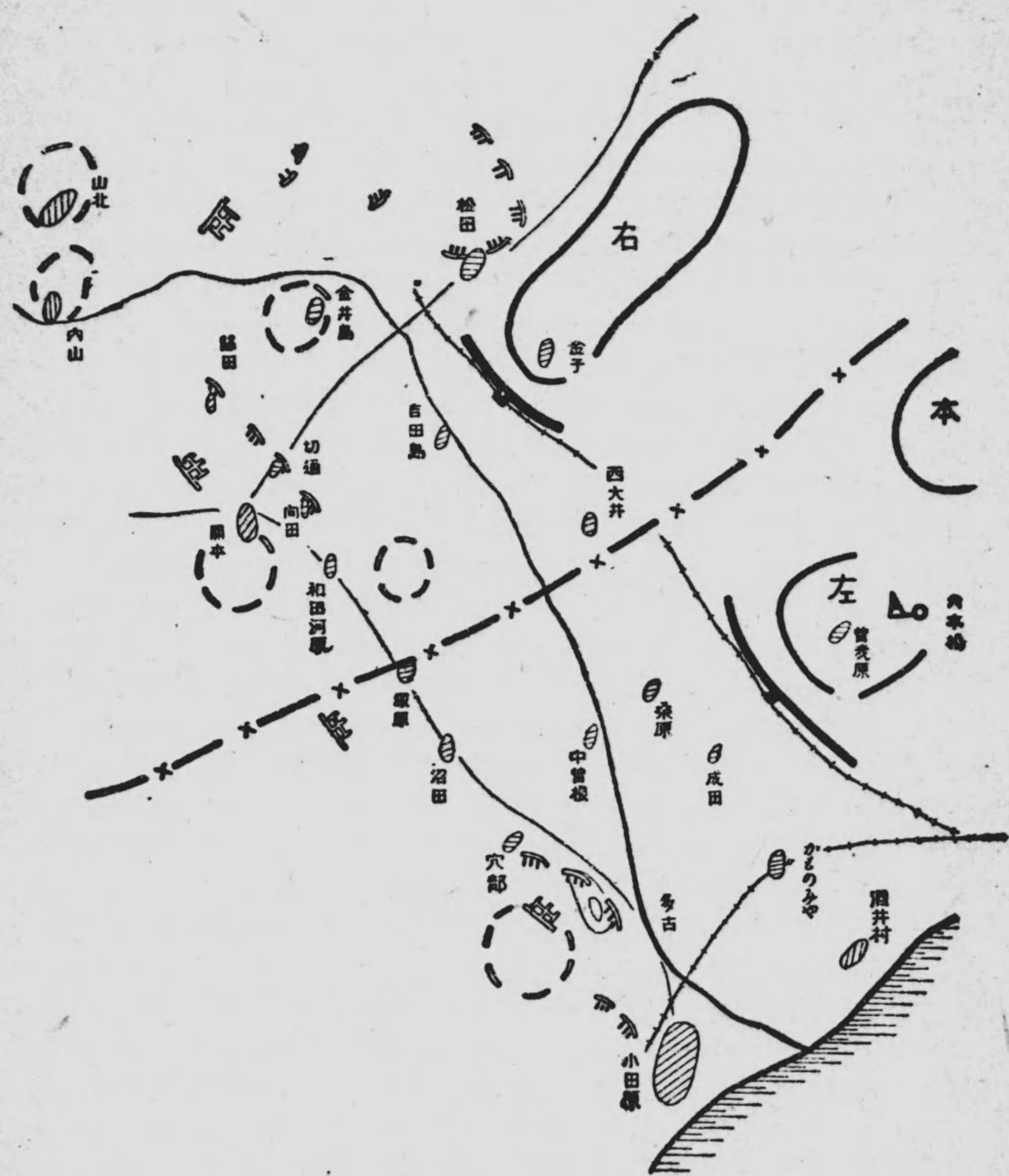
答 攻撃ノ目的ヲ以テ敵情、地形ヲ搜索セントス

六、是ニ於テ師團長ハ右縱隊ヲ以テ當面ノ敵ヲ攻撃シテ松田、金子ノ線ニ進出セシメ左縱隊前衛ヲ以テ當面ノ敵ヲ攻撃シテ概ネ御殿場線(鐵道線路)ノ線ニ進出セシメ主力ヲ井ノ口、小竹、田中、比奈窪ノ地區ニ集結シ敵情、地形ヲ搜索セシム

爾後兩縱隊ノ搜索地域ノ境界ヲ境原、横道、赤田、曾我大澤、百栢山、塚原、金比羅堂、明神丘各北端ヲ連ヌル線トス

七、右縱隊ハ一部ヲ以テ澁澤、窪庭ヲ經テ千村附近ノ敵ノ背後ヲ攻撃セシメ大イニ奇功ヲ奏シ高地ハ我が手中ニ歸シ千村、葛蒲附近ノ敵ハ彌勒寺方向ニ退却シ我が一部ハ近ク之ニ追及中ナ

三月六日八時三十分迄ニ知リ得タル状況



敵陣地攻撃部署要圖

第二問題

一、敵主陣地の判断に就て

リ斯クテ八時稍、過右縦隊ノ一部ハ金子附近鐵道附近ニ進出シ主力ハ上山田、條窪、澁澤附近ニ集結シ得タルモ松田高地ハ未ダ我ガ手中ニ入ラズ
 是ニ於テ縦隊長ハ一部ヲ以テ³⁰³高地方面ヨリ中津川右岸ニ沿ヒ松田高地ノ背後深ク侵入セシム
 八、左縦隊前衛ハ極力當面ノ敵ヲ攻撃中ナリシガ淺間山我ガ手ニ入りタルト高山高地ニ對スル南方ヨリノ側背攻撃奏功セシトニ依リ戰況俄然有利ニ進展シ八時頃ニ其ノ第一線ハ概ネ鐵道線路附近ニ進出シ其ノ主力ハ上曾我附近及曾我原附近ニ集結ス
 九、八時三十分師團長ハ六本松ニ在リ以上ノ狀況竝ニ次ノ要圖ノ如キ敵情ヲ知ル
 是ニ於テ師團長ハ敵陣地ヲ攻撃スルニ決シ處置スル所アリ

陣地攻撃に方りて主陣地帯の位置を確知することの緊要なることは、作戰要務令第二部第九に明示される所である。而して之を知る爲には先づ之が判断を行はねばならない。之に對し諸官の判断中特に指摘すべきは、松田高地を主陣地の一部なりと判断したものとならざるものとの二案に別れてゐることである。

即ち前者の理由とする所は、關本附近の陣地と多古附近の陣地と三者相俟つて相互に火力を以て支援し得る關係にあり又攻勢に際しては其の據點たらねばならぬから之を保持することは小田原平地に於ける戰場を防者の爲に有利に準備する所以であるとするもので、傾聽すべき價値ある説である。又後者の理由とする所は、松田高地は之を主陣地として設備しようとしても地區狭小で堅固に之を保持することは困難であるから、若し之を主陣地とするときは之が保持の爲不知不識の間に徒らに兵力を注入して遂には思はない消耗戦を現出することとなるであらう、故に之は前進陣地として保持する程度で満足すべきであるとする案で、之も亦一理ある理論である。

故に判断としては、松田高地は主陣地の一部たることあるは勿論若し單に前進陣地たる場合であつても之が保持には相當努力するものと思考するのが至當であらう。

二、攻撃の重點に就て

諸官の案を大別すると概ね左の三案に分れる。



第一案 多古に指向するもの

第二案 塚原附近に指向するもの

第三案 關本高地方向に指向するもの

各案の理由とする所は左の通りである。

第一案の理由とする所は、敵の左翼は突角を成形してゐるから、包圍が容易である、而も歩砲の協同も展開も亦容易であり、特に松田高地を利用する敵の側防火力に對して大なる痛痒を感じない利益があるといふにある。

第二案は、松田高地は夜襲を以て奪取し得るであらうし、塚原附近は地形上多古、關本附近に比して低く突破容易で且我が歩砲の協同も容易であると云ふ點に著眼したものである。

第三案に於ては、關本附近は敵陣地の根幹であるから一舉に之を奪取したら敵主力を撃擯することが出来るし、又敵は攻撃地區として山北方向より南下する策を取るであらうから、關本附近を奪取したら敵の此の企圖を阻止し得るといふのである。

以上各案の説く所を見るに、第二、第三案には大きな缺陷のあることを指摘せざるを得ない。即ち諸官は希望と可能の限度とにつき靜觀して正しき認識を持つことが必要である。即ち松田高地を先づ奪取せんとする希望は尤もなことであるが、之が單に夜襲許りで必ず奪取し得ると断定して、次いで拂曉攻撃の爲主力を塚原又は關本附近に近く展開し得るものとなすのは、甚だしい獨善案であり、適當ではない。敵情判斷に於ける松田高地の價値に鑑みるも特に明かであらう。第一案たる重點を左方に保持する案は、敵の翼を包圍席卷し得るもので、松田高地に禍せらるることの尠くないのが何より有利である。

三、攻撃開始の時期に就て

諸官の案は晝間攻撃案と明拂曉攻撃案との二様に分れる。乃ち晝間攻撃案の理由とする所を列

擧すれば次のやうになる。

- 1、攻撃時機を遅延せば敵陣地が強固になる
- 2、敵陣地の大體は既に判明してゐる
- 3、天候不良の爲敵の飛行隊の活動も意の如く出来ないから晝間攻撃の不利は少ない之に反し拂曉攻撃案の理由とする所は

- 1、拂曉攻撃の爲敵火の效力を減殺し得
- 2、地形上夜暗を利用して前進部隊を驅逐したる後主陣地の攻撃に移るを有利とする
- 3、更に敵陣地に對する詳細な偵察を要する
- 4、晝間は敵の瞰制を受けて攻撃に不利である

以上各、一應の理窟はある、特に敵の火力組織の有利な點を考へると、此の火網内で主力を完全に展開させることは晝間攻撃では甚だ無理である。従つて夜暗を利用して敵に近接して拂曉より一舉に敵主陣地に突入する案は有利である。特に松田高地を先づ各個に奪取する案に於ては一層然りである。原案者も此の理由により拂曉攻撃案を採用したのである。併しながら、之は白紙的計畫に基いた點であつて、今日の如く實際に天候不良にして濃霧に閉ざされて通視

二、三百を出でない状況に於ては、敵に瞰制の利もなく松田高地の價値も甚だしく減殺されてゐるから、今日の状況では晝間攻撃を即行することに同意するものである。
此の理由に基いて原案は左の様に二案を掲げて置く。而して拂曉攻撃案は参考案と考へられたる。

第二問題原案 其ノ一

方針

師團ハ直チニ重點ヲ左翼ニ保持シ敵ノ右翼ヲ包圍席卷ス

部署ノ大要

- 一、左翼隊 ☆ liB TK BA^{主力} IA^中 P^中 基幹ハ速カニ酒匂堰ノ線ニ展開シ一舉多古高地ヲ奪取シ爾後西北方ニ敵ヲ席卷ス攻撃前進ノ時期ハ十時三十分ト豫定スルモ後命ス
- 二、右翼隊 ☆ 2iB(-4i) BA^中 II A^中 P^中 基幹ハ一部ヲ以テ直チニ松田高地ヲ奪取セシムルト共ニ主力ヲ以テ酒

匂川左岸堤防ノ線ニ展開シ一舉關本高地ヲ攻略ス攻撃前進ノ時機ハ十時三十分ト豫定スルモ後命ス

- 三、砲兵隊(殘餘ノ主力砲兵)ハ主力ヲ以テ曾我原附近一帶ノ地區ニ展開シ其ノ主力ヲ以テ左翼隊、一部ヲ以テ右翼隊ノ戰團ニ協力、特ニ北方金井島方向ヨリスル敵ノ攻勢阻止ヲ準備ス
- 四、右側支隊 4i (-9.10) BA^{1/2} 基幹ハ直チニ菅沼方向ヨリ山北附近ニ進出シテ敵ノ側背ヲ脅威シ其ノ退路ヲ遮斷ス
- 五、搜索隊(配屬部隊欠)ハ下大井附近ニ集結シ兩翼隊ノ間隙ヲ警戒シ爾後戰果擴張ヲ準備ス
- 六、兩翼隊戰團地域ノ境界ハ前搜索地域ノ境異ニ同ジ
- 七、豫備隊(4i 主力)ハ初期小竹附近ニ集結、爾後攻撃ノ進捗ニ伴ヒ曾我別所附近ニ進出ス
- 八、工兵隊ハ主力砲兵ノ陣地進入援助竝ニ爾後ノ陣地變換ニ協力
- 九、其ノ他略ス

第二問題原案 其ノ二

方針

師團ハ一部ヲ以テ速カニ松田高地ヲ奪取シ明拂曉重點ヲ左翼ニ保持シ敵ノ右翼ヲ包圍席卷シ之ヲ小田原平地ニ捕捉撃滅ス

部署ノ大要

- 一、左縦隊前衛ハ逐次敵ノ警戒部隊ヲ驅逐シツツ本夕薄暮利用シテ酒匂川ノ線ニ進出シ爾後左翼隊 $\begin{matrix} \text{iiB} \\ \text{TK} \\ \text{AB} \end{matrix}$ 主カ P—中 基幹 トナリ七日四時迄ニ成田、飯泉、町田各西端ヲ連ヌル線ニ展開シ黎明ト共ニ攻撃前進ヲ開始シ一舉多古高地ヲ奪取シ西北方ニ敵陣地ヲ席卷ス
- 二、右縦隊ハ速カニ松田高地ヲ奪取スルト共ニ逐次酒匂川河畔ノ敵警戒部隊ヲ驅逐シツツ本夕薄暮ヲ利用シテ酒匂川右岸地區ニ進出ス松田高地奪取ノ爲一時山砲大隊主力ヲ配屬ス
- 爾後右翼隊 $\begin{matrix} \star \\ \text{iiB}(-4) \\ \text{AB}-\text{中} \\ \text{IIA} \end{matrix}$ 中 P 半 基幹 トナリ七日四時迄ニ圓通寺、竹松、駒形ノ線ニ展開シ黎明ト共ニ攻撃前進ヲ開始シ一舉關本高地ヲ奪取ス

- 三、砲兵隊(爾餘ノ主力砲兵)ハ主力ヲ以テ會我原附近、各一部ヲ以テ金子及鴨宮附近ニ展開シ明七日天明ト共ニ多古高地及關本高地附近ニ短時間ノ效力射準備射撃ヲ實施スルト共ニ爾後其ノ主力ヲ以テ左翼隊、一部以テ右翼隊ノ戰鬪ニ協力ス
- 特ニ北方金井島附近及中央塚原附近ニ對シ敵ノ攻勢阻止ヲ準備ス

- 四、右側支隊 $\begin{matrix} \text{II}(-9-10) \\ \text{4i} \\ \text{BA} \\ \text{1/2} \end{matrix}$ 基幹ハ直チニ菅沼方向ヨリ山北附近ニ進出シテ敵ノ側背ヲ脅威シ其ノ退路ヲ遮斷ス

- 五、飛行隊ハ依然主力ヲ以テ敵情搜索ヲ續行スルト共ニ明七日天明時ノ搜索強行、以後一部ヲ以テ砲兵任務、主力ヲ以テ指揮連絡ニ任ズ

- 六、搜索隊(配屬部隊欠)ハ下大井附近ニ集結シ兩翼隊ノ間隙ヲ警戒シ爾後戰果擴張ヲ準備ス

- 七、兩翼隊戰鬪地區ノ境界(略ス)
- 八、豫備隊(4i 主力)ハ初期小竹附近ニ集結シ爾後攻撃ノ進捗ニ伴ヒ會我別附近ニ進出ス

- 九、工兵隊ハ主力砲兵ノ陣地進入援助竝ニ爾後ノ陣地變換ニ協力ス
- 一〇、其ノ他略ス

第六想定

所要地圖

二十萬分一

前想定ニ同ジ

秦野、小田原、熱海、山中湖、御殿場、沼津

一、軍ハ小田原沿岸ニ上陸シ關東平地ニ於テ信越竝ニ陸羽街道ニ沿フ地區ヨリ南下スル敵ニ對シ攻勢ヲ企圖ス

二、箱根山系ヲ確保シ軍ノ上陸ヲ掩護シ且爾後ノ作戰ヲ容易ナラシムベキ任務ヲ有スル青軍第一師團ハ三月六日上陸ヲ完了シ小田原平地ニ兵力ヲ集結ス

三、三月六日十六時迄ニ師團長ノ知り得タル狀況左ノ如シ

1、約二師團内外ノ敵ハ東海道ヲ東進シ本夕静岡附近ニ又一師團ヲ下ラザル敵ハ甲府附近ニ達セルモノノ如シ

2、甲州街道ハ近來著シク荒廢シ諸兵ノ通過ヲ許サズ

3、師團ノ編成ハ前想定ニ同ジ但シBAハ二大隊配屬セラレアリ

第一問題

第一師團ハ爾後如何ニシテ任務ヲ達成セントスルヤ

第一問題の研究

一、想定に於ける未知事項の研究に就て

本想定は專習員の能力に比し稍、困難なる問題であつたが、何れもよく努力して難きを解き何れも認むべき一案を提出されたのは敬意を表する次第である。

扱本問題の難解とする所は何かと云ふと、それは軍一般の狀況が甚だ不明な點である。之は軍の戦術の概要を識得する所の尠い諸官にとつては無理のない所である。

以下若干之を研究して見やう。

1、軍主力の上陸點に就て

關東平地に作戰すべき軍は少くとも四、五師團程度には及ぶであらうから、之を全部猫額大の小田原附近から上陸させることは不可能である。故に其の上陸は小田原より相模川河口沿岸に互つて一帯に實施されるものと考ふべきである。

今具案者のやうに直ちに横濱や東京港等を利用するものと考へるのは、一見静岡や甲府方向

の敵に遠く離れて上陸し得るから有利であると思はれるけれども、此等の港灣が何の程度に利用し得るや不明であるばかりでなく、軍の豫想する戰場と集中地との關係から上陸點の位置も自から決定されるのであつて、師團が自分の任務達成の便否を基礎として軍作戦の此點根本的の基礎關係を改變することは許されない所である。

2、上陸に要する日數

小田原沿岸に於ける上陸行程を考へて見ると、専門的研究は別として、一般戰術常識による判斷で一日〇師團程度のものであらう。従つて此の軍主力が上陸を完了するのに十日や十五日位はかゝるであらうことは豫想し得るであらう。

3、軍作戦行動の推移判斷

軍の集中地は小田原平地、秦野平地、相模川平地等一帶に互つて選定せられるであらうから之が集中掩護の爲には多摩川右岸高地線並に箱根山系の線を確保すべきは當然の處置である。

併しながら、先づ上陸した第一師團を多摩川右畔に使用しないで之を箱根山系方面に使用せんとする軍の企圖を考へると、軍の目下の最大弱點である上陸そのものの掩護の爲には、靜

岡及甲府方面の敵が重大關心事であるに相違ない。従つて先づ師團を此の方面に充てると共に、多摩川右畔方面は次いで上陸すべき他の兵團を以て處置せられるであらうことは、當然思考し得る所である。

二、作業に對する研究

專習員の案を大別すると左の二案となる。

第一案 火力防禦をなさんとするもの

第二案 機動防禦をなさんとするもの

右各案の理由とする所は左の通である。

第一案は箱根山系の要所を占領することによつて敵を拒止することが出來て而も地形の關係から敵の迂回攻撃は不可能である、故に火力防禦によつて逸以て勞を待つを可とする、此の際機動防禦をなす如きは徒らに奔命に疲れて動もすれば敵の爲各個撃破を受くる虞さへあるといふのである。

第二案の理由とする所は、箱根山系は要害の地ではあるが、持久時間長大であるから、單なる靜的防禦のみでは危険である、殊に地形全般の關係上敵は大なる部隊を一時的に使用し得な

いから、適時隨所に主力を機動せしめることによつて敵を各個に撃破することが出来る、と云ふのである。

之に對する結論は原案で示すこととする。

第一問題原案

方針

師團ハ各一部ヲ以テ籠坂峠、十里木、沼津附近ヲ占領シ主力ヲ以テ御殿場附近ニ集結シ隨時ニ敵ヲ索メテ攻撃ス止ムヲ得ザル場合ニ於テモ箱根山系ハ之ヲ確保ス

理由

- 一、静岡及甲府方面ノ敵ハ我が軍ノ最大弱點タル主力上陸ノ半途ニ乘ジ之ヲ水際ニ撃滅スル爲速カニ上陸地ニ向ヒ殺到シ來ルベシ
然レドモ甲府兵團ハ時トシテ其ノ一部ヲ以テ箱根山系方面ニ使用スルニ止メ其ノ主力ヲ以テ青梅街道又ハ秩父往還ヲ經テ關東平地ノ一角ニ進出スルコトナシトセズ
- 二、師團ハ任務上箱根山系ヲ確保シテ軍主力ノ上陸ヲ掩護シ之ヲ安全ナラシムルト共ニ爲シ得レ

ハ静岡兵團ハ固ヨリ甲府兵團ヲ併セテ之ヲ師團正面ニ牽制抑留シ軍爾後ノ作戰ヲ有利ナラシムルヲ有利トス

- 三、師團ノ持久時間ハ甚ダ長ク少クトモ一週間以上時トシテ十日以上ニ及ブコトアルベク之ガ爲一地ニ固著シテ火力防禦ヲ爲サントスル思想ハ徒ラニ地點ニ制肘セラレテ消耗戰ヲ反復スルコトトナルベシ況ンヤ最初ヨリ箱根山系中ニ靜止スルハ敵ノ行動ヲ制肘スル威力ヲ自ラ放棄スルモノナリ故ニ師團ハ最初山中ニ蟄居スルコトナク攻勢意志ヲ以テ前方ニ進出シ敵ヲ其ノ優勢ヲ發揮シ得ザル隘路ニ迎ヘテ之ヲ各個ニ撃破シ以テ緒戰ニ於テ一撃ヲ加ヘテ爾後ノ作戰ヲ有利ニ導クコト必要ナリ

- 四、御殿場附近ハ戰略要點ニシテ甲府、静岡兩方向何レニ對シテモ睨ヲ有スル地點ナリ而モ其ノ前方適當ノ距離ニ隘路ヲ有シ敵ノ前進ヲ遲滯セシメ得ベク且隨時隨所ニ主力ヲ轉用シテ有利ナル態勢ヲ以テ敵ヲ攻撃シ得ベキ内線作戰ノ樞軸ナリ故ニ師團ハ先ヅ主力ヲ御殿場附近ニ集結スルヲ要ス

處置ノ大要

- 一、左ノ如ク兵力ヲ配置シ敵ノ前進ヲ遲滯セシム

- 籠坂峠方面 歩兵一大隊半、砲兵二中隊基幹
十里木方面 歩兵半大隊、砲兵一中隊基幹
沼津方面 歩兵二大隊、砲兵一大隊基幹
- 二、主力ヲ御殿場附近ニ集結シ隨時隨所ニ敵ヲ求メテ攻撃シ得ル如ク態勢ヲ整ヘテ休止ス
 - 三、一部ヲ以テ箱根山系陣地占領ノ爲準備ス
 - 四、搜索、連絡手段ヲ特ニ完備セシム

状 況

- 一、師團長ハ第一問題原案ノ如ク決心シ夫々部署スル所アリ此ノトキ既ニ來著セル軍先進參謀ノ進言ニ依リ「勉メラ兵力ヲ愛惜スベキ」軍司令官ノ意圖ヲ承知ス
- 二、師團長ハ靜カニ首肯セルモ何等決心ヲ變更スル所ナシ然レドモ密カニ某師團參謀竝ニ砲、工兵隊長ニ意圖ヲ含メ師團防禦ノ爲箱根山系附近ノ地形偵察ヲ爲サシム

第二問題

師團防禦ノ爲箱根山系地形判斷

第二問題の研究

一、防禦の方式に就て

諸官の案を大別すれば、攻撃防禦を爲さんとするもの、持久防禦を爲さんとするもの及一地面守防禦を爲さんとするものの三案に分つことが出来る。

第一案は、地形上敵の活動不便であるから隨時攻勢に轉じて之を各個に撃破せんとするものであつて、其の趣旨には同意する所であるが、師團長の腹案は既に機動攻勢によつて任務を解決しようとしてゐるのであるから、此の山系を利用する時機に於ては狀況眞に止むを得ず固定配備に移つた場合であるから、此の際尙攻勢を以て任務を解決し得るや否やは相當疑問があることを認めなければならぬ。

次に第二案は、山地の特性を利用して逐次抵抗し時間の餘裕を得ることが容易であり、兵力の消耗も亦少いであらうとする案である。併し之は概して消極退嬰に陥り易く、山地の險難と雖も時間の経過と共に其の障碍の程度は漸次低下することを忘れてはならない。併しながら師團長が此の陣地を利用する時機を考へて見ると、恐らく先づ持久によつて時間の

餘裕を獲得し次いで好機を捉へて攻勢に轉じて敵を各個に撃滅する舉に出づるであらうから、先づ陣地としては持久に適する陣地を欲するであらうことを想像し得るであらう。

第三案は、師團を擧げて一地固守をなさんとするもので、師團全力を以て土地に拘束して敵の全滅を企圖するものである。其の決心は眞に壯なりと雖も、師團運用の術策を適早に放棄し統帥意志の自由を不動の地形に硬直せしめるもので、同意し得ない所である。

二、陣地線に就て

諸官の案を大別すると左の三案に分れる。

第一案 湖尻峠、山伏峠の箱根外輪山の稜線を含む前方に主陣地を設けたもの

第二案 右稜線上にのみ兵力を配置したもの

第三案 右稜線を放棄して駒ヶ岳、神山の線に主陣地の線を設けたもの

以上を若干研究して見ると、

第一案は、主陣地帯の大部分は稜線の前方にあつて敵方斜面に暴露して居るけれども、主陣地としての縦深を有し死角消滅も亦容易であるばかりでなく、敵の斜面攀登に乗じて火制し得る利益がある。

第二案は、之に反して主陣地の縦深はなく、僅かに一線のみであつて、極めて薄弱である。

第三案は、主陣地前に於ける制高の要點を適早に敵に與ふる不利がある。

又各陣地共に其の陣地の北翼を小山附近に於て制限したのは、陣地正面を緊縮して適當であるが、其の南翼方面に於て湯河原高地線に後退せしめた考案のあつたのは、同意し難い。之は陣地正面を多少緊縮する利益はあるけれども、小田原海面を敵に暴露する不利がある。故に南翼は熱海北方高地附近を確保する必要がある。

第二問題原案

方針

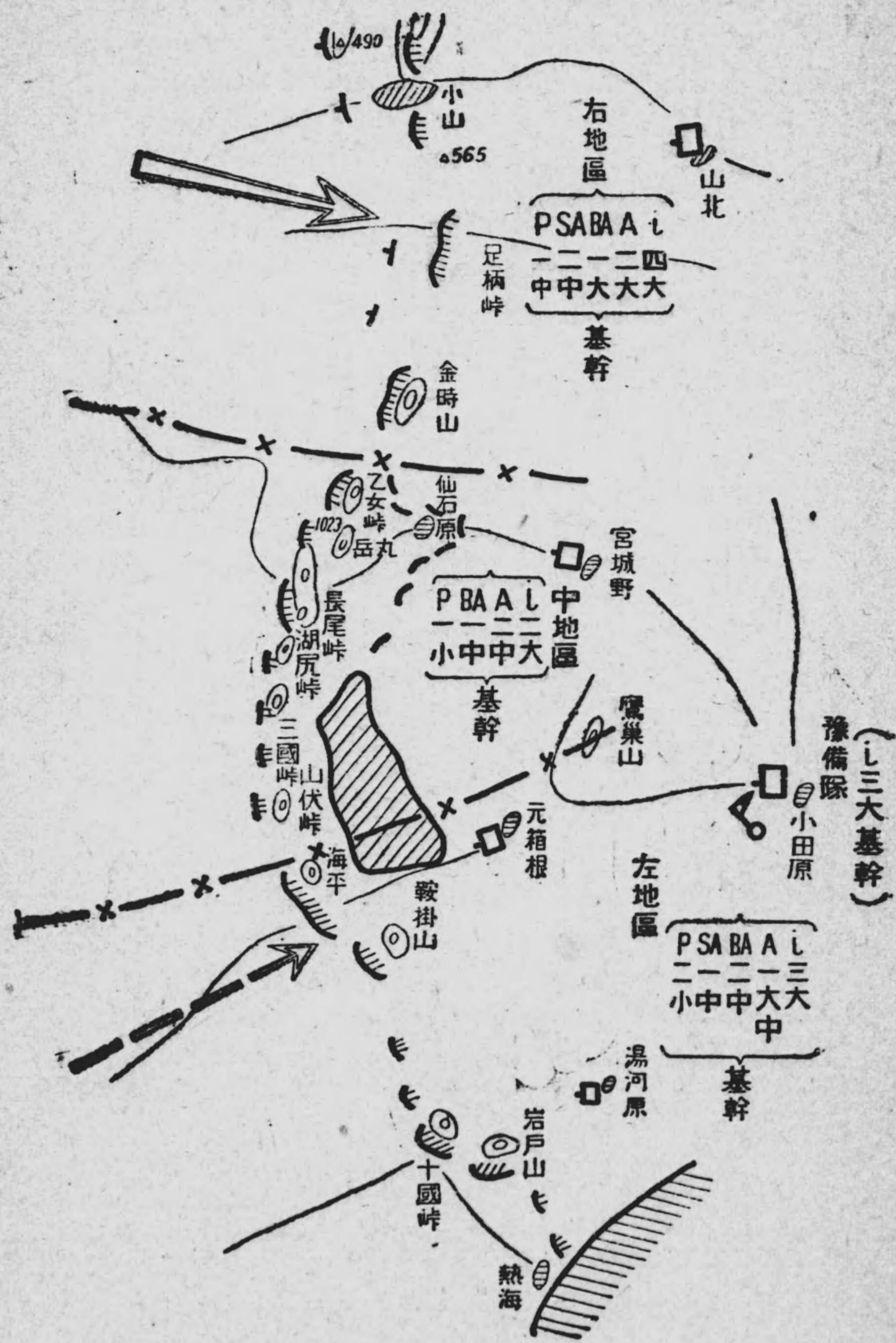
一、師團ハ一部ヲ以テ御殿場及三島附近ニ於テ敵ノ前進ヲ遲滯セシムルト共ニ主力ヲ以テ箱根外輪山ノ線ヲ據點式ニ占領シテ敵ヲ拒止ス

二、好機ヲ發見セバ隨時右地區方面ヨリ攻勢ニ轉ズル場合アルヲ豫期ス

處置ノ大要

次ノ要圖ノ如シ

第二問題原案要圖



昭和十七年九月二十日初版印刷
昭和十七年十二月十日初版發行

(一、〇〇〇部發行)

新輯戰術 第一卷
定價金貳圓八拾錢

編輯發行
兼印刷者

東京市麹町區六番町十一番地
前田岩太郎

印刷所

東京市麹町區五番町十二番地
干城堂出版部印刷所

發行所

(出版文化協會員)
一〇六〇五三番
干城堂

電話九段(三)一三三八三番
振替口座東京一六九八五番

東京市神田區淡路町二丁目九番地

配給元

日本出版配給株式會社

出文協承認
ア160258號

